SONY

3-869-888-**06**(1)

ネットワーク サーベイランス レコーダー

ユーザーガイド

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。

IPELA

NSR Series

目次

第 1 章　はじめに

第 2 章　システムを初期設定する

第 3 章　基本的な使いかた

第 4 章　ライブ画像を監視する

第 5 章　基本設定

その他

商標について

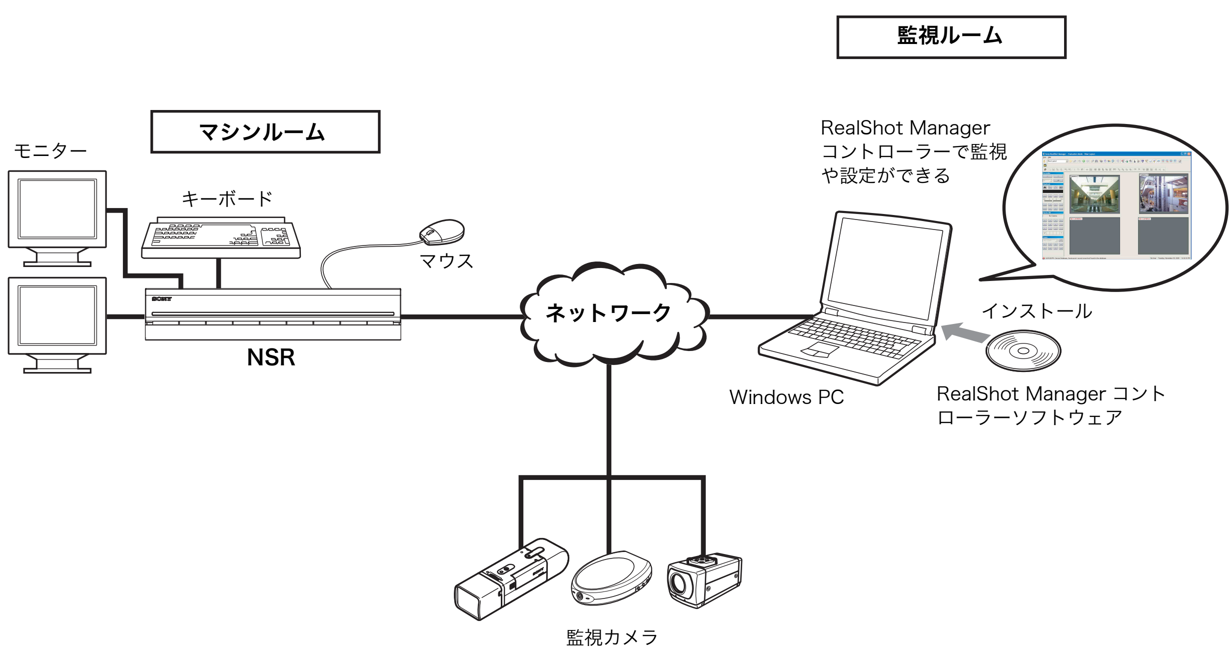
- “IPELA” および IPELA は、ソニー株式会社の商標です。
- Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Red Hat は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。
- NFS は、米国 Sun Microsystems, Inc. の商標です。
- Adobe および Acrobat は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の登録商標であり、Acrobat Reader は、同社の商標です。
- イーサネットは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名、会社名は一般に各開発メーカーの登録商標または商標です。

なお、本文中では、®、™ マークは明記していません。

はじめに 第1章

機能概要

NSR シリーズは、監視システム専用ソフトウェアがプリインストールされた専用 OS で制御されている専用レコーダーです。JPEG または MPEG-4 により、ネットワークカメラの画像をネットワーク経由でモニタリングしたり、記録することができます。また、記録した画像を再生、検索することもできますので、監視システムとして幅広い用途にお使いいただけます。



メモ

・NSR のリモートコントローラーとして RealShot Manager を使う場合は、RealShot Manager のインストール時に［Controller］を選択してください。
・本機にモニターを 2 台接続したときは、モニター 1 でモニタリングと設定が行えます。モニター 2 は、ホットスポット用となります。

対応ネットワークカメラの遠隔操作が可能

パン（左右）・チルト（上下）・ズーム（拡大）に対応したカメラであれば、カメラの動作を本機から制御できます。また、フォーカスやブライト（明るさ）の制御もできます。さらに、ネットワークカメラからの音声の記録にも対応しています。

＊ スピーカーおよびマイクは別売りです。

アナログカメラにも対応

別売のカメラサーバー（SNT-V704 など）を使用することにより、アナログカメラの画像もネットワーク経由でモニタリングしたり、記録することが可能です。

ギガビット（1000 Base-T）にも対応した 3 つのネットワークポート

NSR-100/50 では 3 つのネットワークポートを搭載していますので、カメラ側のネットワークを独立させて、他のネットワークデータの影響を受けないようにシステムを構築することができます。また、3 つのポートはギガビット転送をサポートしていますので、複数のカメラからのデータを受け取る能力に余裕があります。

大容量ハードディスクに長時間記録

大容量ハードディスクを内蔵しています。NSR-100 は最大約 920 GB[1)]、NSR-50 は最大約 460 GB[1)] のデータ記録容量を持ち、長時間記録ができます。NSR-100 の場合、16 台のカメラ画像を 1 fps[2)] で（VGA、JPEG：1 フレームあたり約 31 KB、1 日 15 時間記録の場合）約 1 か月分の記録が可能です[3)]。

1）上記データ記録容量には内蔵ソフトウェアが管理するデータベースの容量を含みます。
2）fps：フレーム毎秒。1 fps は 1 秒間に 1 フレームの画像を記録。
3）RAID 0 設定時。

省スペースの 2U、19 インチラックマウントタイプ

オプション（別売り）のラックマウントキットを使うと、EIA STANDARD（ユニバーサルピッチ）の 19 インチラックに設置できます。

最大 480 fps（VGA、JPEG）での高画質記録

NSR-100 は最大 64 台、NSR-50 は最大 32 台のカメラを接続できます[1)]。また、NSR-100 では、トータルフレームレート 480 fps[2)]（NSR-50 は 240 fps）で、VGA（640 × 480）、JPEG 画質（1 フレームあたり約 31 KB）の画像を記録できますので、自然でなめらかな高画質記録を実現します。

1）1,280 × 960 ピクセル以上の画像サイズをサポートするカメラに関しては、NSR-100 が最大 8 台、NSR-50 で最大 4 台まで接続可能です。
2）カメラ 16 台接続時の合計フレームレート最大値。1 台あたりのフレームレートは 30 fps。ハードディスク内のフラグメンテーション（断片化）により低下する場合があります。

高信頼性の実現

NSR-100はRAID 0、1+0、5に、NSR-50はスパニング[1]とRAID 1に対応し、高信頼性を実現しています。RAID 1、1+0、5で使用した場合、仮りにハードディスクのうち1台が故障した場合でも、システムの運用が継続できます。また、本体内に内蔵されたフラッシュメモリーにシステムソフトウェアおよび各種設定を記憶することにより、システムソフトウェアに異常が発生した場合でも、迅速なシステムの復旧が可能です。さらに、UPS（無停電電源装置）[2]にも対応し、システムとしての高い信頼性を実現しています。

1）スパニング：複数のハードディスクを仮想的に1台のハードディスクとして使用する機能
2）弊社推奨製品をご利用ください。

メモ

NSR-100をRAID 0、NSR-50をスパニングで使用した場合、データの冗長性はありません。また、各RAIDレベルによって記録容量は異なります。

ジョイスティックと各種ボタンによる簡単操作

キーボード／マウスによる操作のほか、別売のリモートコントロールユニットRM-NS10を使用することにより、キーボードやマウスを使わずにジョイスティックと各種ボタンによるモニタリングの操作ができます。また、画面構成も等分割画面を基本とし、従来型レコーダーと違和感なく使用できます。
注：初期設定時には、キーボードおよびマウスが必要となります。

その他の機能

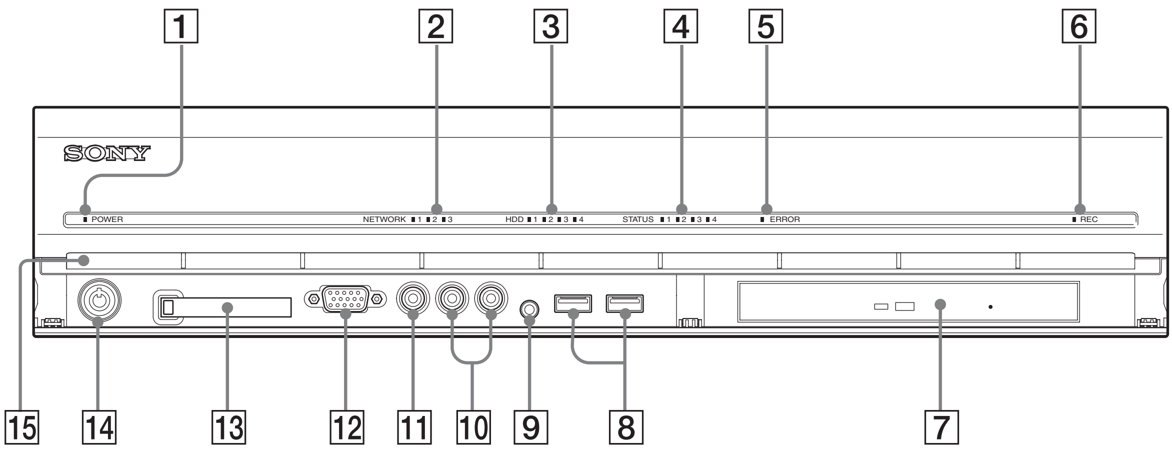
- 1,280 × 960ピクセルサイズをサポートするカメラ映像のモニタリング、記録、再生、操作ができます。
- 1画面1画像から最大8 × 8（64画面）までの画面レイアウトに対応しています。
- マニュアル記録、スケジュール記録、アラーム記録などの多彩な記録モードをサポートしています。
- 動体検知機能[1]（Video Motion Detection（レコーダー））を標準装備しています。
- カメラ名、日時、動体検知、センサーアラームなどをキーにした記録画像の検索が可能です。
- 画像の特定部分を覆い隠し、プライバシー保護などに利用できるダイナミックマスキング機能[2]を標準搭載しています。マスキングエリアはパン（左右）、チルト（上下）やズーム（拡大）にも追従します。
- カメラから配信される画像処理結果である物体情報のメタデータを用いた各種フィルタリング[3]を行うことによって、高度なアラーム処理が可能となりました。記録済みのメタデータに対してもフィルタリングが可能なため、記録後に、気になる部分について検索できます。
- NSR-100/50では、内蔵ドライブによりDVD-R、DVD+RまたはCD-R/RWへのデータ書き出しが可能です。
- 対応ネットワークカメラからの音声の記録／再生[3]にも対応しています。

1）接続するカメラの台数によっては、機能に制限があります。
2）接続するカメラの機種によっては、機能に制限があります。
3）メタデータを使用して動体、不動体検知を行う場合は、動体検知メタデータに対応しているカメラが必要です。メタデータの利用は、32台までサポートしています。
4）別売のアクティブスピーカーが必要です。

各部の名称

前面

NSR-100/50



1 **POWER LED**
起動中は緑色とアンバー色が交互に点灯します。
起動が完了すると緑色に点灯します。
スタンバイモードのときはアンバー色に点灯します。

2 **NETWORK LED（1 ～ 3）**
背面の LAN コネクター（1 ～ 3）にそれぞれアクティビティがあるときに緑色に点灯します。

3 **HDD LED**
内蔵ハードディスクのアクセス時に緑色に点滅します。ハードディスクにエラーが発生したときはアンバー色に点灯します。

4 **STATUS LED（1 ～ 4）**
本機の起動時に、１→２→３→４の順で点灯します。
また、エラーが発生したときには、ERROR LED が点灯／点滅するとともに STATUS LED が点灯し、エラーの内容を表示します。
詳細は、「STATUS LED の見かた」（169 ページ）を参照してください。

5 **ERROR LED**
エラーが発生した場合に点灯／点滅します。

6 **REC LED**
画像の記録中に点灯します。

7 **DVD/CD ドライブ**
本機の内蔵ハードディスクに保存されているデータを、DVD、CD メディアに記録できます。

＊ 使用できるメディアについては、「注意・制限事項」（174 ページ）を参照してください。

8 USB コネクター

USB キーボード、USB マウス、USB フラッシュメモリー、リモコン（RM-NS10）を接続します。

9 マイク入力端子＊

外部機器からの音声を入力します。

10 オーディオ出力端子（L/R）

音声を出力します。

11 ビデオ出力端子

ビデオデッキなどを接続します。
常にモニターコネクター 1 と同じ映像が表示されます。

12 モニターコネクター 1

モニターを接続します。

13 コンパクトフラッシュカードスロット

本機の内蔵ハードディスクに保存されている設定データを、コンパクトフラッシュカードに記録できます。

14 鍵穴

付属の HDD トレイ施錠鍵を使って、フロントベゼルをロックします。ロック時には、フロントベゼルは引き出せません。また、フロントベゼルを引き出した状態でロックしないでください。
ロック時とロック解除時の鍵穴の位置は、以下のとおりです。

ロック時



ロック解除時



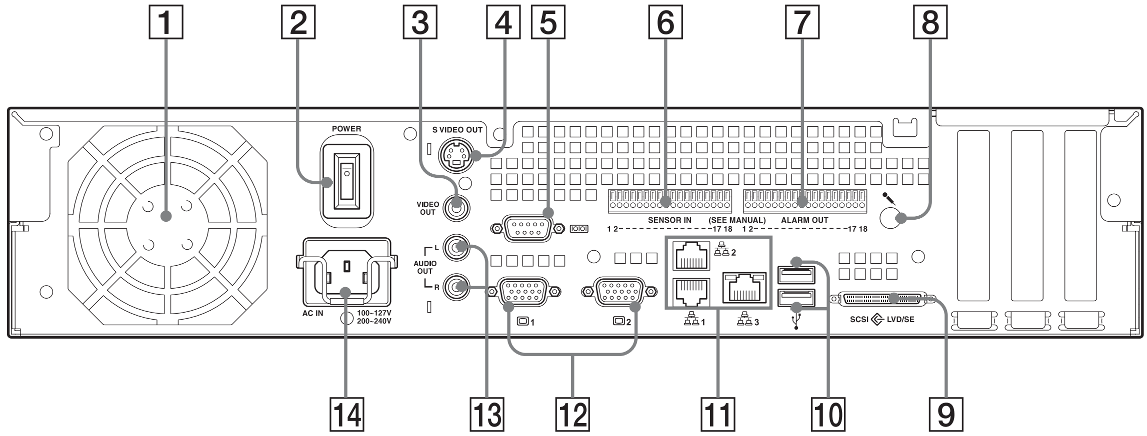
15 通風孔

本体前面から背面へのエアフローの入り口です。
通風孔をふさいだり、通風孔の内側のメッシュにほこりがたまったりして、エアフローが妨げられないようにしてください。エアフローが妨げられると内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。

＊　この機能は、現在サポートされておりません。

背面

NSR-100/50



1 **ファン**
ファンの通風孔をふさがないように注意してください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。

2 **電源スイッチ**
○の方に押すと、電源が入ります。

3 **ビデオ出力端子**
ビデオデッキなどを接続します。
常にモニターコネクター 1 と同じ映像が表示されます。

4 **S 映像出力端子**
S 端子を装備したビデオデッキなどを接続します。
常にモニターコネクター 1 と同じ映像が表示されます。

5 **シリアル（RS-232C）コネクター**
UPS（無停電電源装置）のコントロール系を接続します。

6 **センサー入力端子**
センサーを接続します。
接続のしかたとセンサー入力への配線図については、「I/O ポートについて」（171 ページ）を参照してください。

7 **アラーム出力端子**
アラームを接続します。
接続のしかたとアラーム出力への配線図については、「I/O ポートについて」（171 ページ）を参照してください。

8 **マイク入力端子＊**
マイクからの音声を入力します。

9 **SCSI コネクター＊**
ハードディスクシステム（SCSI 機器）を接続します。

10 **USB コネクター**

USB キーボード、USB マウス、USB フラッシュメモリー、リモコン（RM-NS10）を接続します。

11 **LAN コネクター 1 ～ 3**

10 Base-T/100 Base-TX/1000 Base-T のネットワークケーブルを接続します。

LAN1：ネットワークカメラ
LAN2：リモートクライアント
LAN3：外部ストレージデバイス**

12 **モニターコネクター（1、2）**

モニターを接続します。

13 **オーディオ出力端子 (L/R)**

音声を出力します。

14 **電源コネクター**

付属の電源コードを接続します。

* この機能は、現在サポートされておりません。

** ソフトウェアバージョンによっては、サポートされておりません。お買い上げ店にご確認ください。

必要なシステム

本機を操作するために必要なハードウェアは以下のとおりです。

・ソニー製ネットワークカメラ
本機で使用できるソニー製ネットワークカメラについては、お買い上げ店にお問い合わせください。
・モニター[1)]
・USB キーボード[2)]
・USB マウス[3)]
・ネットワークスイッチ
・1000 Base-T/100 Base-TX/10 Base-T ケーブル
・CF（CompactFlash）または USB メモリー[4)]

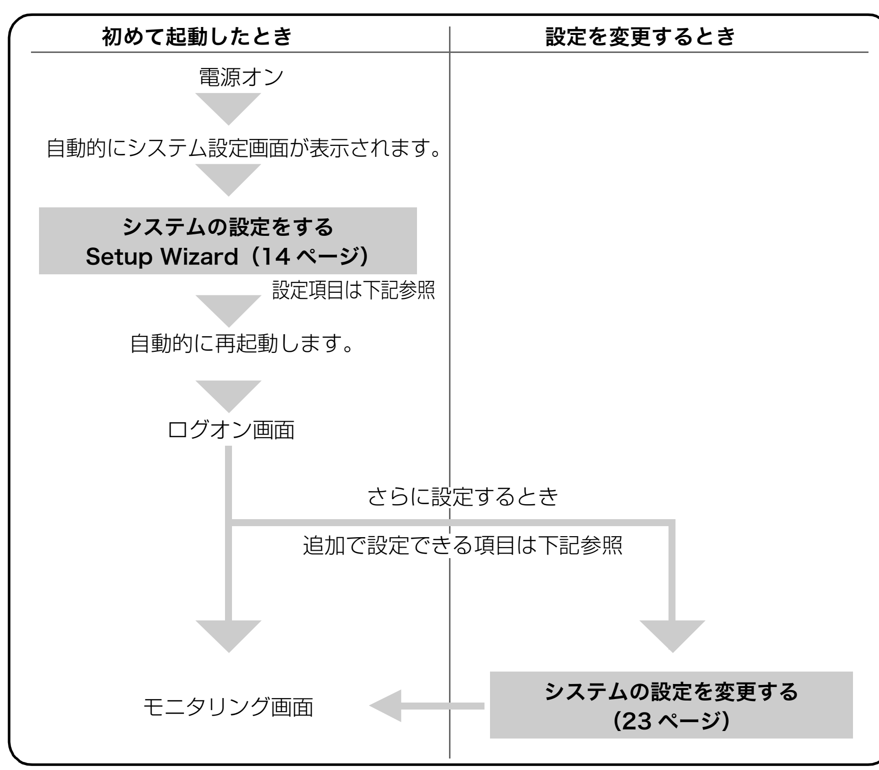
1) モニターコネクターへの接続については、お買い上げ店にお問い合わせください。
「Generic」タイプとして選択できるモニターは、以下のとおりです。
各行の最後は周波数を示しています。
・Generic LCD Display; LCD Panel 1024x768; 40-70
・Generic LCD Display; LCD Panel 1280x1024; 50-75
・Generic LCD Display; LCD Panel 1600x1200; 60
・Generic CRT Display; Monitor 1024x768; 50-70
・Generic CRT Display; Monitor 1280x1024; 50-90
・Generic CRT Display; Monitor 1600x1200; 50-90
指定できる解像度は、以下のとおりです。
・XGA（1024 × 768）
・SXGA（1280 × 1024）
・UXGA（1600 × 1200）
2) USB キーボードは、ケーブル接続タイプをお使いください。無線接続や赤外線接続タイプの USB キーボードでは動作しない場合があります。また、拡張ボタンなど、標準以外の機能も動作しない場合があります。
3) USB マウスは、ケーブル接続タイプをお使いください。無線接続や赤外線接続タイプの USB マウスでは動作しない場合があります。また、3 ボタンやホイール以外の機能も動作しない場合があります。
4) ログなどのシステム情報を取得するために必要です。
・CF は、あらかじめ VFAT にフォーマットされているものをお使いください。
・USB メモリーは、一般的な USB マスストレージクラスに対応しています。

システムを初期設定する　第2章

概要

本機を初めて起動したときは、自動的にシステム設定画面が表示されます。以下の「システム設定の流れ」を参照し、必要な設定を行ってください。

システム設定の流れ



初めて起動したときに設定する項目

・Language（表示言語）
・EULA（ソフトウェア使用許諾）
・Keyboard Layout（キーボードの種類）
・Time Zone（タイムゾーン）
・Day and Time（日付と時刻）
・Network Device（ネットワーク）
・Monitor Model（接続するモニターの画面サイズ）
・Video Setting（ビデオ出力方式）
・Host Name（本機のホスト名）

追加で設定できる項目

・NTP
・SNMP
・UPS

メモ

初回起動時に行ったシステム設定の項目も変更できます。「システムの設定を変更する」（23 ページ）を参照してください。

システムの設定をする（初めて起動したとき：簡単な初期セットアップ）

ここでは、本機を初めて起動したときに行うシステムの設定について説明します。

ご注意

画面に表示される項目の一部を日本語で説明しています。

基本設定

1 本機に USB キーボードと USB マウスを接続し、電源を入れる。

以下の画面が表示され、ハードウェア起動のプログレスバーが表示されます。

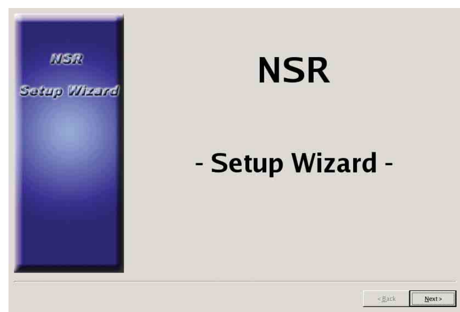


続いて以下の画面が表示され、ソフトウェア起動のプログレスバーが表示されます。



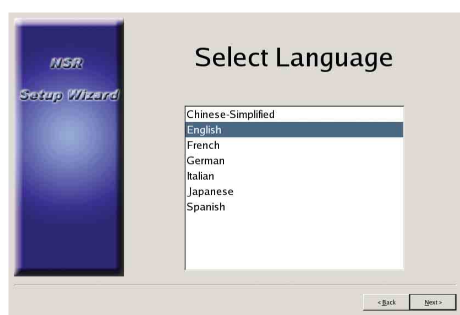
本機が起動し、システム設定画面（Setup Wizard）が表示されます。

2 ［次へ］をクリックする。



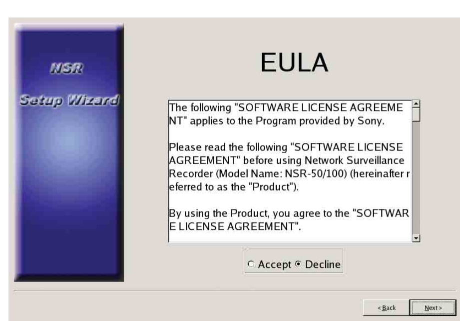
「Select Language」画面が表示されます。

3 画面に表示する言語を選択し、［次へ］をクリックする。



「EULA」画面が表示されます。

4 ソフトウェア使用許諾書をよく読み、［承諾］をチェックし、［次へ］をクリックする。



「Keyboard Layout」画面が表示されます。

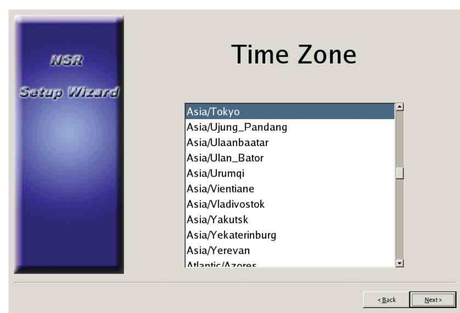
5 本機に接続している USB キーボードの言語を選択し、[次へ] をクリックする。



「Time Zone」画面が表示されます。

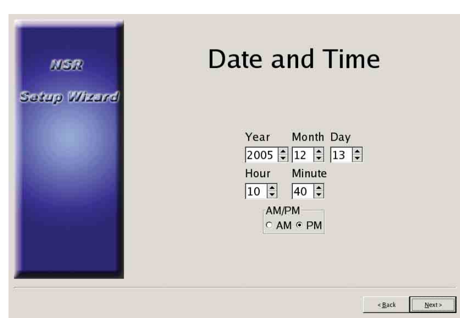
6 日付と時刻を設定する地域を選択し、[次へ] をクリックする。

注： 夏時間の有効／無効の指定はありません。夏時間があるタイムゾーンを選ぶと、自動的に夏時間調整が行われます。



「Date and Time」画面が表示されます。

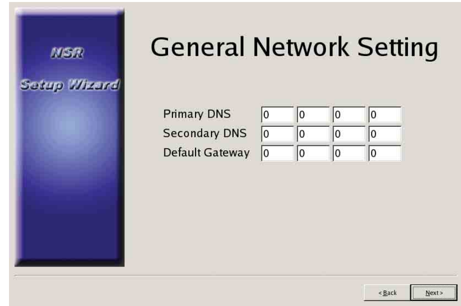
7 日付と時刻を確認し、ずれている場合は正しい日付と時刻を設定して、[次へ] をクリックする。



「General Network Setting」画面が表示されます。

8 以下の手順でネットワークの設定を行う。

(1)「General Network Setting」画面に各サーバーの IP アドレスを入力し、[次へ] をクリックする。



Primary DNS
プライマリ DNS（Domain Name Server）の IP アドレスを入力します。プライマリ DNS がない場合や必要としない場合は、入力しないでください。

Secondary DNS
セカンダリ DNS の IP アドレスを入力します。セカンダリ DNS がない場合や必要としない場合は、入力しないでください。

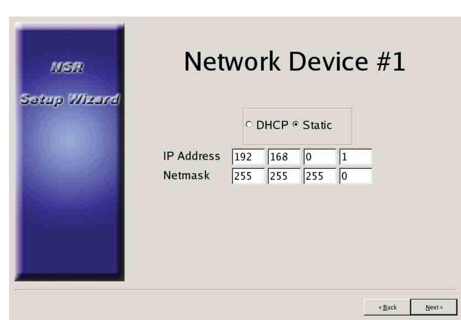
Default Gateway
デフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力します。ローカルネットワークのみの場合や他のネットワークへの接続が必要ない場合は、入力しないでください。

「Network Device #1」画面が表示されます。

(2) LAN ポートそれぞれについて「Network Device」の設定を行う。
3 つの LAN ポート（LAN1、LAN2、LAN3）を設定します。

メモ

各 LAN ポートに以下の機器を接続してください。
LAN1：ネットワークカメラ
LAN2：リモートクライアント
LAN3：外部ストレージデバイス（ソフトウェアバージョンによってはサポートされておりません。お買い上げ店にご確認ください。）



DHCP を利用してアドレス設定を自動取得する場合
［DHCP］を選択します。

アドレス設定を手動で行う場合

(1)［Static］をクリックする。

(2) 以下のアドレスを入力する。

IP Address
IP アドレスを入力します。

ご注意

・IP アドレスは、同じネットワーク上に同じ値を使用しているマシンが存在しないことを確認してから、入力してください。同じ値を使用しているマシンがすでに存在していても、エラーメッセージは表示されません。複数のマシンで同じ値を使用すると、誤動作の原因になりますのでご注意ください。
・IP アドレスの割り当て規則上、禁止されているアドレスを設定しても、システムには反映されません。
例：224.0.0.0 ～ 255.255.255.255
0.0.0.0
127.0.0.1 など

Netmask
サブネットマスクを入力します。

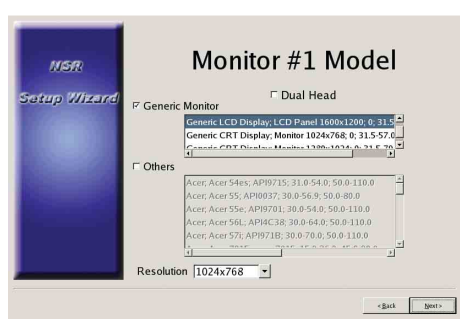
メモ

ネットワークデバイス設定のデフォルト値は、以下のとおりです。
IP Address：192.168.［0/1/2］*.1
Netmask：255.255.255.0
＊ネットワークデバイス［#1/#2/#3］ごとの設定値です。

「Monitor Model」画面が表示されます。

9 モニターポートごとに画面サイズを選択し、［次へ］をクリックする。

本機に 2 台のモニターを接続して使用する場合は、［Dual Head］をクリックすると、2 番目のモニターの設定画面に移行します。
お使いのモニターに合わせて、モニタータイプと解像度を選択してください。



メモ

・モニター設定のデフォルト値は、以下のとおりです。
Generic LCD Display; LCD Panel 1600x1200; 31.5-90;60
Resolution 1024 × 768
・ほとんどのモニターは［Generic Monitor］で動作しますが、必要に応じて［Others］からモニタータイプを選択してください。

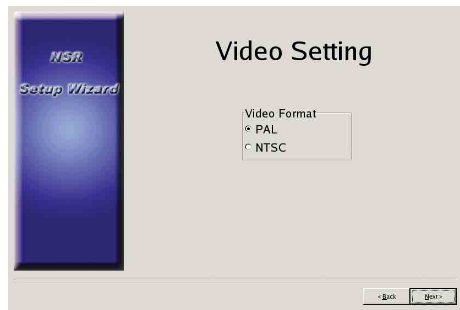
ご注意

２番目のモニターを設定した場合は、２番目のモニターを接続した状態での再起動が必要です。

「Video Settings」画面が表示されます。

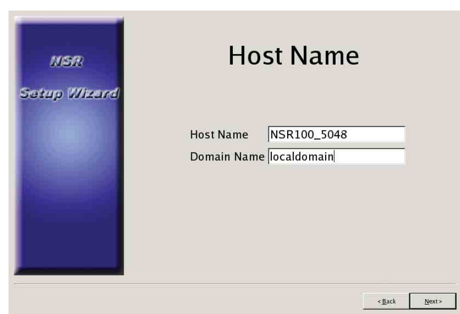
10 お使いの Video Setting に合わせて［NTSC］または［PAL］を選択し、［次へ］をクリックする。

日本国内では、一般的に NTSC が使用されています。



「Host Name」画面が表示されます。

11 以下の項目を設定し、［次へ］をクリックする。



Host Name

本機のホスト名を入力します。

メモ

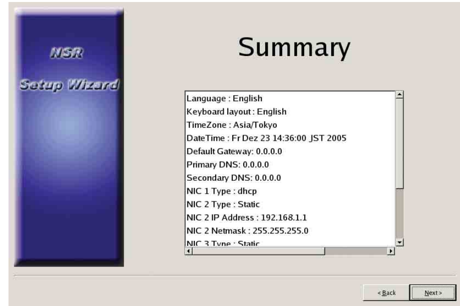
使用できる文字は、英数字、_（アンダーバー）、－（マイナス）です。

Domain Name

使用する環境のネットワークドメイン名を入力します。
例：xxx.sony.co.jp
本機を DNS に登録しない場合は、デフォルトのままで問題ありません。

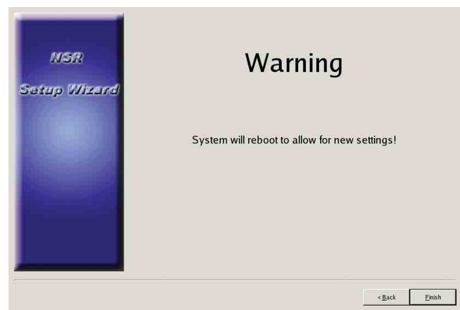
「Summary」画面が表示されます。

12 設定内容を確認し、［次へ］をクリックする。



「Warning」画面が表示されます。

13［終了］をクリックする。



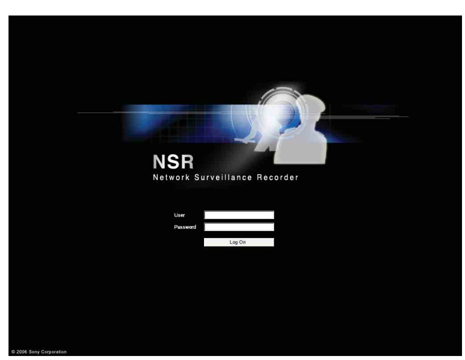
しばらくすると、自動的に本機が再起動します。

カメラ IP 設定と NSR への登録

再起動後、ログオン画面が表示されます。
続いて、カメラの IP アドレスを設定し、NSR に登録します。

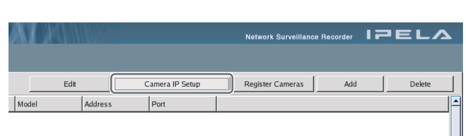
1 ユーザーとパスワードを入力して［ログオン］をクリックする。

初期設定ユーザー：admin
初期パスワード：admin



「基本設定」画面の「カメラ」画面が表示されます。

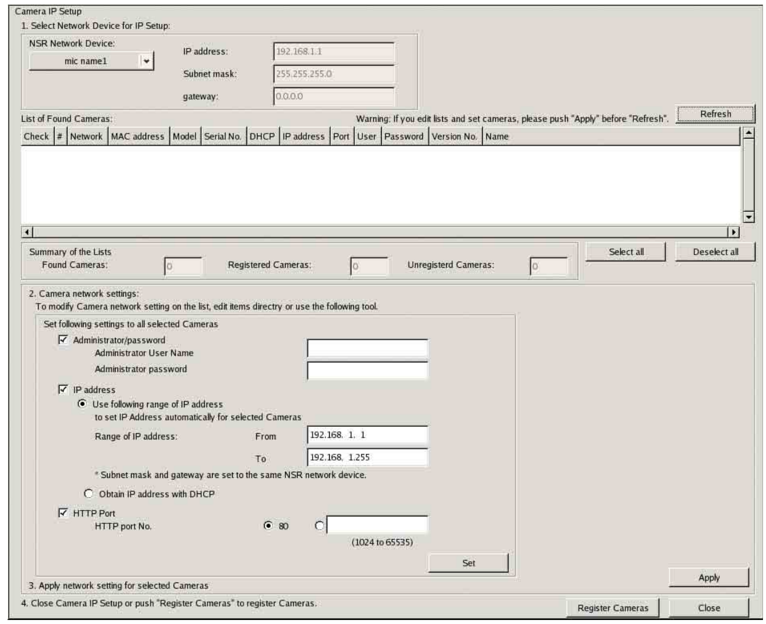
2［カメラ IP 設定］をクリックする。



すでにカメラの IP アドレスが設定されている場合は、［カメラ一括登録］をクリックして、手順 5 に進んでください。

「カメラ IP 設定」画面が表示されます。

3 以下の設定を行う。



「カメラ IP 設定」画面では、同一ネットワーク上のカメラを MAC アドレスで検索し、IP アドレスを一括で設定することができます。

(1)「1. 対象ネットワークデバイスの選択」欄で、検索するネットワークを選択する。
通常、Network 1 がカメラのネットワークとして選択され、検索されたカメラが「検出カメラ一覧」に表示されます。検索されたすべてのカメラのチェック欄がチェックされています。

(2)「2. カメラのネットワーク設定」欄で以下の情報を入力する。
- 設定を行うカメラ本体ユーザー名とパスワード
- 自動割り当てを行う同一ネットワーク内の IP アドレスの範囲（デフォルト：0 ～ 254）
- カメラと通信するための http ポート番号（デフォルト：80）

注：カメラに割り当てる IP アドレスの範囲が決まっている場合には、正しく範囲を設定してください。

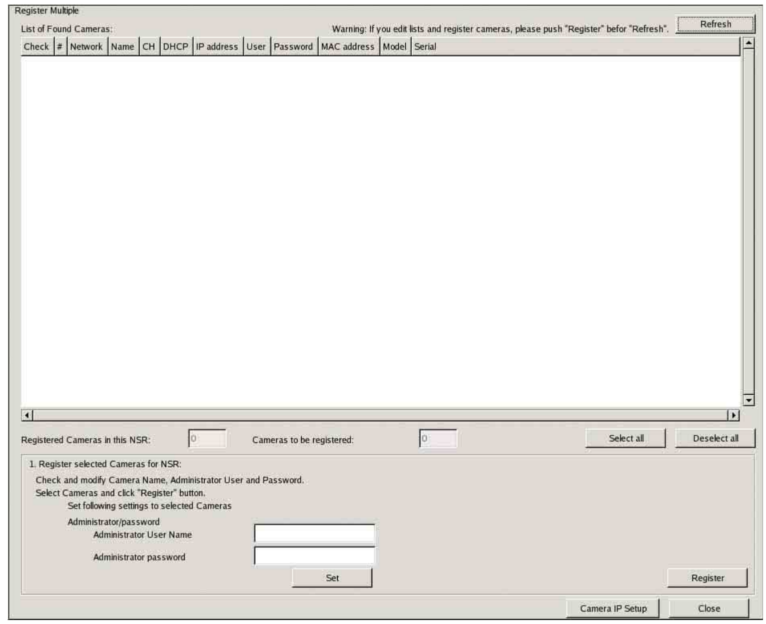
(3)［セット］をクリックする。
入力した情報を「検出カメラ一覧」に反映します。
IP アドレスは、指定された範囲内で割り当てられます。IP アドレスが足りない場合、リストの中に展開されませんので、リストに展開されたことを確認してください。また、必要に応じてリスト内を直接変更することもできます。
なお、この時点では、まだカメラへの設定を実行しません。

(4)［適用］をクリックする。
これにより、リスト内に展開された情報でカメラの設定を行います。
設定にはしばらく時間がかかります。

4 各カメラの設定が終了したら、［カメラ一括登録］をクリックする。

「カメラ一括登録」画面が表示されます。

5 以下の設定を行う。



「カメラ一括登録」画面では、NSR に設定されていないカメラの一覧が表示され、チェック欄がチェックされています。

(1) チェックされた登録台数を「登録候補カメラ台数」欄で確認し、カメラのユーザー名とパスワードを確認する。

ご注意

デフォルトでは、カメラのユーザー名とパスワードは設定されていません。「選択したカメラの NSR への登録」で一括して設定できます。

(2) ［登録］をクリックする。
チェックされていたカメラが NSR に登録されます。

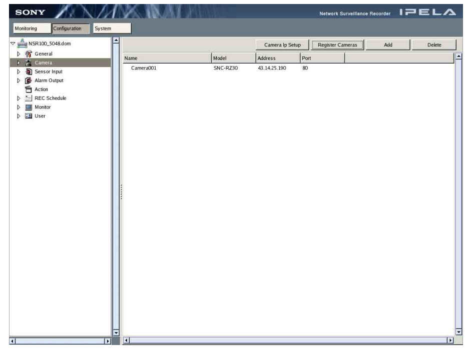
注：［カメラ IP 設定］をクリックすることで、前の「カメラ IP 設定」画面に戻ることもできます。

6 登録が完了したら、［閉じる］をクリックする。

「基本設定」画面の「カメラ」画面に戻ります。登録したカメラが一覧表示されます。

7 各カメラの個別設定が必要な場合、それぞれの設定を行う。

設定の詳細については、第 5 章「基本設定」（82 ページ）を参照してください。



8 各カメラの設定を確認したら、［モニタリング］をクリックする。

「モニタリング」画面が表示されます。
設定変更などを行う場合は、［基本設定］をクリックすることで、「基本設定」画面に切り替えることができます。



システムの設定を変更する

1 「モニタリング」画面左上の［システム］をクリックし、表示される「Setup Menu」画面で［セットアップメニュー］をクリックする。

「Setup Menu」画面が表示されます。

2 ［Language Display］を選択し、［選択］をクリックする。



「Select Language」画面が表示されます。

3 画面に表示する言語を選択し、［承諾］をクリックする。



［承諾］をクリックすると、「Setup Menu」画面に戻ります。

4 ［Keyboard Layout］を選択し、［選択］をクリックする。

「Keyboard Layout」画面が表示されます。

5 本機に接続している USB キーボードの言語を選択し、［承諾］をクリックする。



［承諾］をクリックすると、「Setup Menu」画面に戻ります。

6 ［Date and Time］を選択し、［選択］をクリックする。

「Date and Time」画面が表示されます。

7 本機の日付けと時刻を設定し、[承諾] をクリックする。



Year/Month/Day
年月日を入力します。

Hour/Min
時刻を入力し、[AM] または [PM] を選択します。

Time Zone
日付と時刻を設定する地域を選択します。

注：夏時間の有効／無効の指定はありません。夏時間があるタイムゾーンを選ぶと、自動的に夏時間調整が行われます。

[承諾] をクリックすると、「Setup Menu」画面に戻ります。

8 [Network] を選択し、[選択] をクリックする。

「Network Device Menu」画面が表示されます。

9 設定するネットワークデバイスを選択し、[選択] をクリックする。

ネットワークの設定には、一般設定の「General Network Setting」とLAN ポートを設定する「Network Device」があります。



メモ

各 LAN ポートに以下の機器を接続してください。

LAN1：ネットワークカメラ

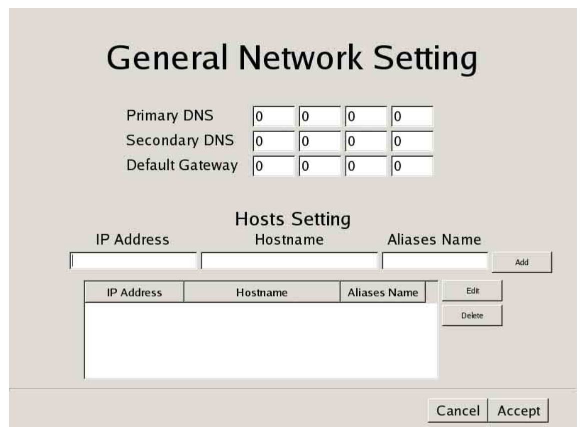
LAN2：リモートクライアント

LAN3：外部ストレージデバイス（ソフトウェアバージョンによっては、サポートされておりません。お買い上げ店にご確認ください。）

10 一般設定をする場合は、［General Setting］をクリックし、［選択］をクリックする。

「General Network Setting」画面が表示されます。

11 以下の項目を設定し、［承諾］をクリックする。



Primary DNS

プライマリ DNS（Domain Name Server）の IP アドレスを入力します。プライマリ DNS がない場合や必要としない場合は、入力しないでください。

Secondary DNS

セカンダリ DNS の IP アドレスを入力します。セカンダリ DNS がない場合や必要としない場合は、入力しないでください。

Default Gateway

デフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力します。ローカルネットワークのみの場合や他のネットワークへの接続が必要ない場合は、入力しないでください。

Host Setting

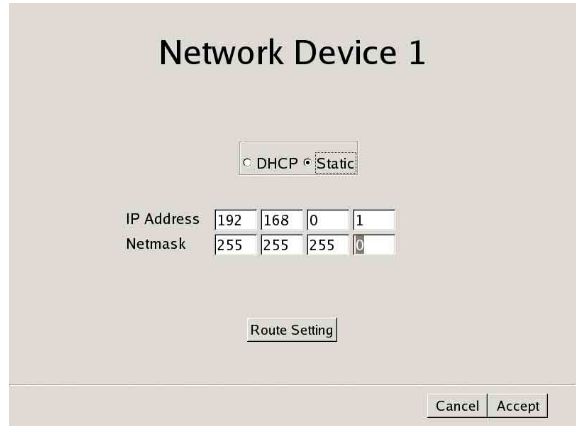
特別に hosts ファイルにホスト名の登録が必要な場合に、IP アドレスとホスト名の組み合わせを入力し、［Add］をクリックして、一覧に追加します。

12 各 LAN ポートを設定する場合は、［Network Device］をクリックし、［選択］をクリックする。

LAN ポートそれぞれについて、「Network Device」の設定を行ってください。

「Network Device」画面が表示されます。

13 以下の項目を設定し、［承諾］をクリックする。



お使いの環境に応じて、以下のように設定してください。

DHCP を利用してアドレス設定を自動取得する場合
［DHCP］を選択します。

アドレス設定を手動で行う場合
(1)［Static］をクリックする。
(2) 以下のアドレスを入力する。

IP Address
IP アドレスを入力します。

ご注意

- IP アドレスは、同じネットワーク上に同じ値を使用しているマシンが存在しないことを確認してから、入力してください。同じ値を使用しているマシンがすでに存在していても、エラーメッセージは表示されません。複数のマシンで同じ値を使用すると、誤動作の原因になりますのでご注意ください。
- IP アドレスの割り当て規則上、禁止されているアドレスを設定しても、システムには反映されません。
  例：224.0.0.0 ～ 255.255.255.255
  0.0.0.0
  127.0.0.1 など

Netmask
サブネットマスクを入力します。

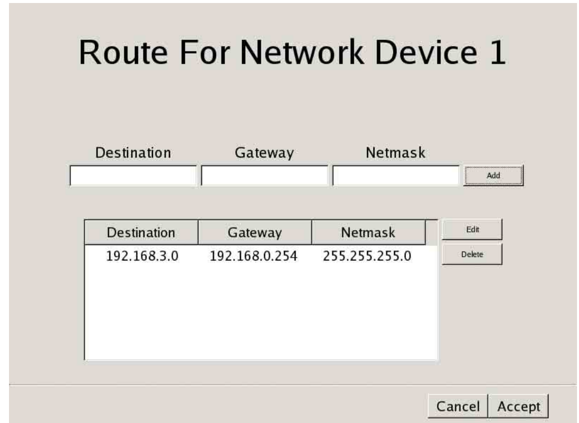
メモ

ネットワークデバイスのデフォルト値は、以下のとおりです。
IP Address： 192.168.［0/1/2］*.1
Netmask： 255.255.255.0

＊ ネットワークデバイス［#1/#2/#3］ごとの設定値です。

Route Setting
別のネットワークへのルートを設定する必要がある場合にクリックします。

表示される「Route For Network Device 1」画面で、以下のように設定します。



(1) 接続する別のネットワークのアドレス、ゲートウェイ、ネットマスクを入力し、[Add] をクリックして、一覧に追加します。
詳しくは、接続するネットワークの管理者にお問い合わせください。
(2) [承諾] をクリックする。

[承諾] をクリックすると、「Setup Menu」画面に戻ります。

14 [Monitor] を選択し、[選択] をクリックする。

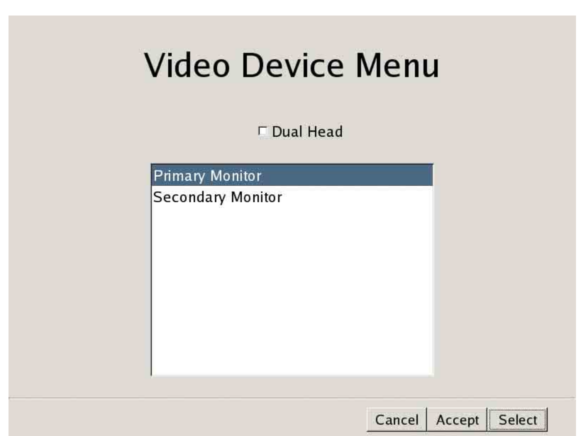
「Video Device Menu」画面が表示されます。

15 設定するモニターを選択し、[選択] をクリックする。

本機に 2 台のモニターを接続して使用する場合は、[Dual Head] をクリックすると、2 番目のモニターを設定できます。

ご注意

2 番目のモニターを設定した場合は、2 番目のモニターを接続した状態での再起動が必要です。

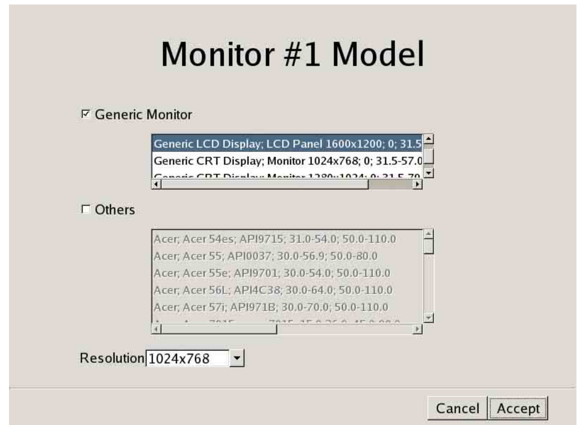


「Monitor Model」画面が表示されます。

16 本機に接続しているモニターの種類と解像度を選択し、［承諾］をクリックする。

メモ

モニター設定のデフォルト値は、以下のとおりです。
Generic LCD Display; LCD Panel 1600 × 1200; 31.5-90;60
Resolution 1024 × 768

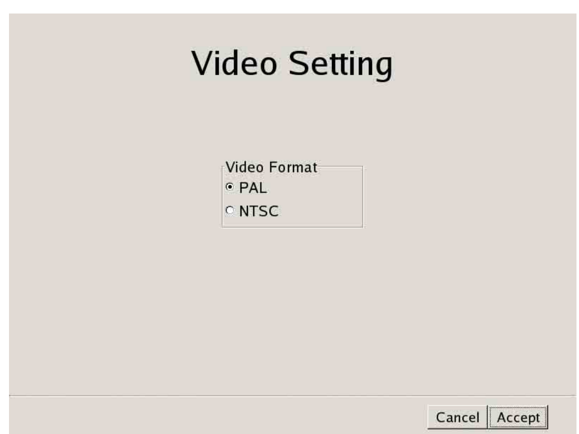


［承諾］をクリックすると、「Setup Menu」画面に戻ります。

17 ［Video］を選択し、［選択］をクリックする。

「Video Setting」画面が表示されます。

18 ビデオ出力フォーマットを［PAL］または［NTSC］から選択し、［承諾］をクリックする。



［承諾］をクリックすると、「Setup Menu」画面に戻ります。

19 ［Host Name］を選択し、［選択］をクリックする。

「Host Name」画面が表示されます。

20 本機のホスト名とドメイン名を入力し、［承諾］をクリックする。

メモ

使用できる文字は、英数字、_（アンダーバー)、－（マイナス）です。



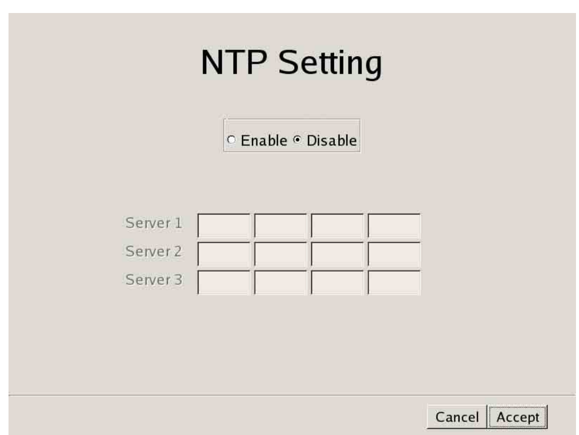
［承諾］をクリックすると、「Setup Menu」画面に戻ります。

21 ［NTP］を選択し、［選択］をクリックする。

「NTP Setting」画面が表示されます。

22 NTP サーバーから現在の時刻を取得するときは［Enable］を選択し、NTP サーバーの IP アドレスを入力して、［承諾］をクリックする。

NTP サーバーから現在の時刻を取得しないときは［Disable］を選択し、［Accept］をクリックします。



［承諾］をクリックすると、「Setup Menu」画面に戻ります。

23 ［SNMP］を選択し、［選択］をクリックする。

「SNMP Menu」画面が表示されます。

24 SNMP コミュニティを設定する場合は［Agent］を、SNMP トラップの設定をする場合は［Traps］を選択し、［選択］をクリックする。



25 表示される画面で以下のように設定し、［承諾］をクリックする。

［Agent］を選択した場合



Enable
SNMP エージェント機能を有効にするときに選択します。

Disable
SNMP エージェント機能を無効にするときに選択します。

Community
SNMP コミュニティ名を入力します。

Contact
連絡先を入力します。
通常は、システム管理者のメールアドレスを入力します。

Location
本機の設置場所を入力します。

メモ

オブジェクト ID「.1.3.6.1.2.1.1」および「.1.3.6.1.2.1.25.1.1」で表される「System」および「SystemUptime」の MIB-2 オブジェクトを取得することができます。

［Traps］を選択した場合



Enable
SNMP トラップを有効にするときに選択します。

Disable
SNMP トラップを無効にするときに選択します。

Host IP Address
トラップホストの IP アドレスを入力します。

Community
SNMP コミュニティ名を入力します。

Temperature Events
本機の温度上昇時に通知します。

Voltage Events
電圧異常時に通知します。

UPS Events
UPS を接続している場合、UPS が停電を検出したときと停電からの復帰を検出したときに通知します。

Power Events
本機のシャットダウン時に通知します。

Fan Events
ファンの異常時に通知します。

RAID Events
RAID グループの再構築（リビルド）時に通知します。

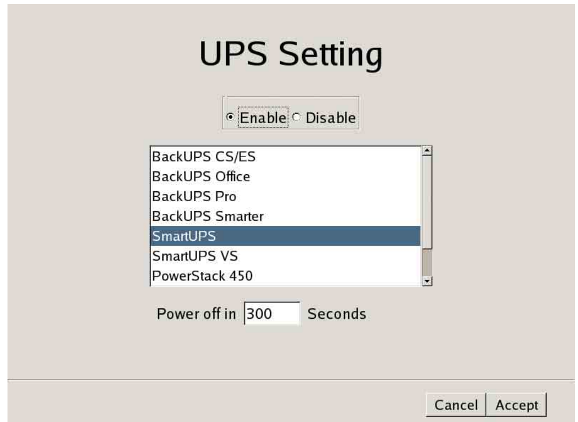
HDD Events
ハードディスクが故障したときに通知します。

［承諾］をクリックすると、「Setup Menu」画面に戻ります。

26 ［UPS Settings］を選択し、［選択］をクリックする。

「UPS Settings」画面が表示されます。

27 以下の項目を設定し、［承諾］をクリックする。



Enable
UPS を使用するときに選択します。
ここを選択したときは、UPS の一覧から使用する UPS の種類を選択します。

Disable
UPS を使用しないときに選択します。

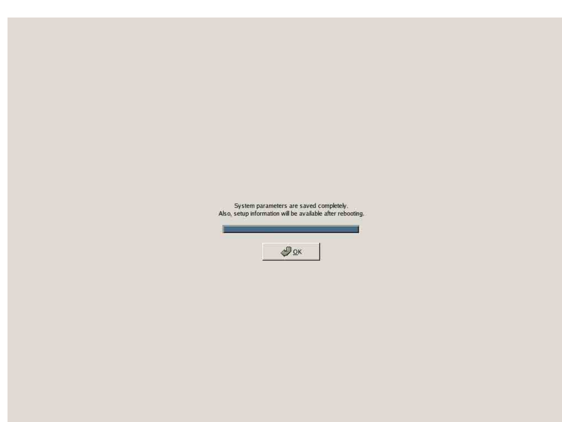
Power off in XXX Seconds
停電を検出してからシャットダウンするまでの時間を入力します。

28 セットアップが終了したら、［終了］をクリックする。

システム設定が終了すると、システム設定情報が DiskOnModule（DOM）に保存されます。
保存中はプログレスバーが表示され、終了すると［OK］が有効になります。

ご注意

ネットワークの設定変更を行った場合は、ネットワークのリスタートが行われます。記録が行われているときは、数秒間記録ができない場合がありますので、注意してください。



29 「システムメニュー」画面で［リブート］をクリックし、手動で再起動を行う。

データボリュームの再構築（RAID の変更）

NSR では、モデルごとにデータボリュームとして設定できる RAID 構成が異なります。

モデル	タイプ	容量（約）	冗長性	出荷時設定
NSR-100	RAID-5	670 GB	○	○
	RAID-1+0	450 GB	○	
	RAID-0	900 GB	×	
NSR-50	スパンニング	430 GB	△	○
	RAID-1	210 GB	○	

ご注意

- データボリュームの再構築を行うと、設定情報および記録画像はすべて削除されますので充分ご注意ください。
- 設定変更が必要な場合は、必ず運用前に RAID 構成の変更を行ってください。

1 本機に USB キーボードと USB マウスを接続し、電源を入れる。

以下の画面が表示され、ハードウェア起動のプログレスバーが表示されます。



2 プログレスバーの表示中に、キーボードの F12 キーを押す。

以下のような画面が表示されます。
例：NSR-50 の場合（NSR-100 の場合、メニューは 3 項目になります）

＊ 各デバイスの名称および台数は異なる場合があります。

Boot Menu

1.QSI DVD+/-RW SDW-0826
2. WDC WD2500JD-22HBC0-(S1)
3. WDC WD2500JD-22HBC0-(S2)
4. PQI IDE DiskOnModule-(SM)

<Enter Setup>

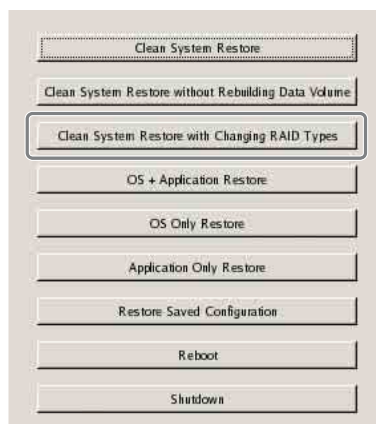
3 キーボードの矢印キーで［IDE DiskOnModule］を選択し、Enter キーを押す。

DiskOnModule（DOM）から起動します。



本機が起動すると、DOM メニューが表示されます。

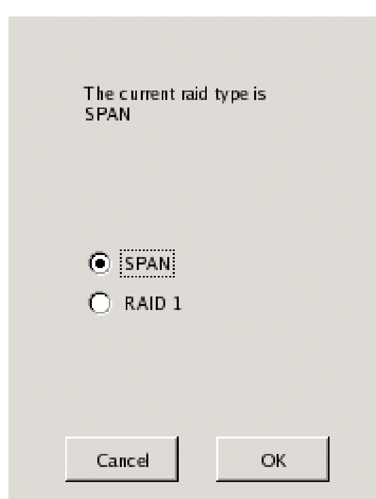
4 上から 3 番目の［Clean System Restore with Changing RAID Types］をクリックする。



RAID Type 選択画面が表示されます。

5 RAID Type を選択し、［OK］をクリックする。

例：NSR-50 の場合

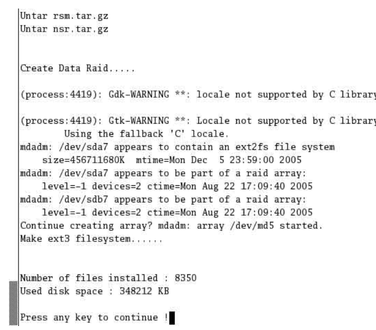


確認画面が表示されます。

6 ［OK］をクリックする。

データボリュームの RAID 再構築とシステムのフルリストアを行います。
この処理は、数時間（最大 5 時間程度）かかります。処理中は、プログレスバーが表示されます。
処理が成功すると、通知の画面が表示されます。
例：NSR-50 で RAID 1 を設定した場合





```
Untar rsm.tar.gz
Untar nsr.tar.gz


Create Data Raid.....

(process:4419): Gdk-WARNING **: locale not supported by C library

(process:4419): Gtk-WARNING **: Locale not supported by C library.
        Using the fallback 'C' locale.
mdadm: /dev/sda7 appears to contain an ext2fs file system
    size=456711680K  mtime=Mon Dec  5 23:59:00 2005
mdadm: /dev/sda7 appears to be part of a raid array:
    level=-1 devices=2 ctime=Mon Aug 22 17:09:40 2005
mdadm: /dev/sdb7 appears to be part of a raid array:
    level=-1 devices=2 ctime=Mon Aug 22 17:09:40 2005
Continue creating array? mdadm: array /dev/md5 started.
Make ext3 filesystem......


Number of files installed : 8350
Used disk space : 348212 KB

Press any key to continue !
```

7 処理終了後、「Press any key to continue !」と表示されたら、Enter キーを押す。

DOM メニューに戻ります。

8 ［Reboot］をクリックする。

本機が再起動し、システム設定画面（Setup Wizard）が表示されます。

基本的な使いかた　第3章

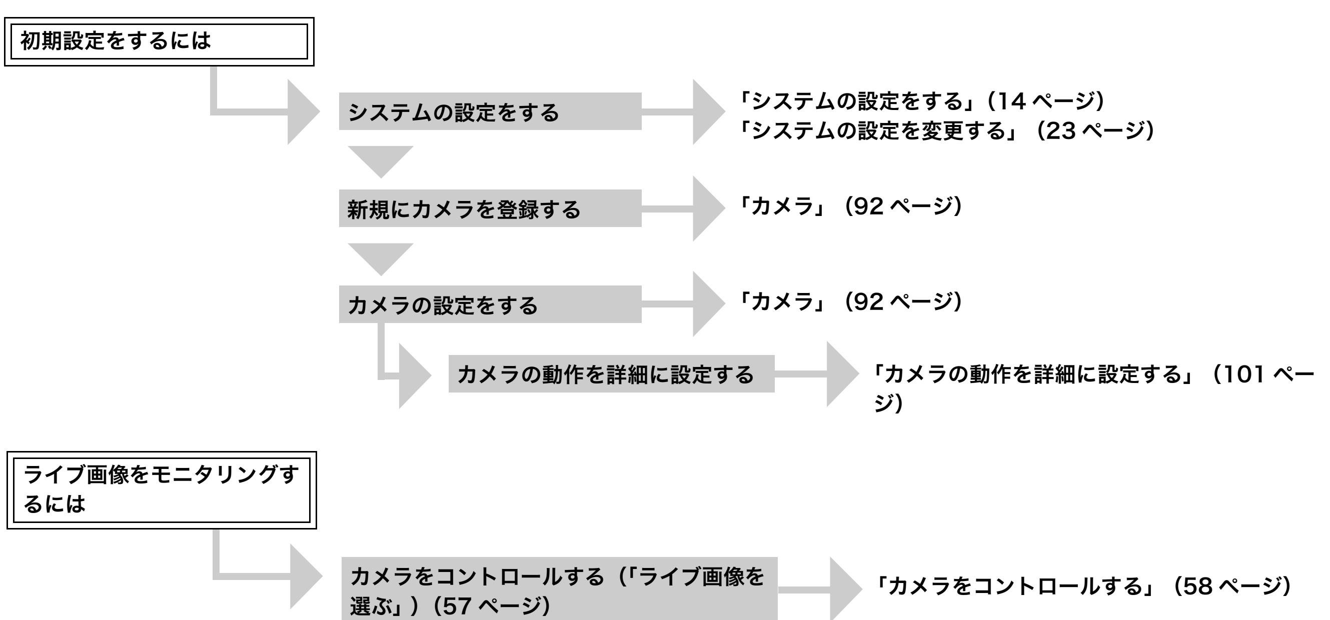
概要

本章では、NSR へのログオンやシステムの設定／変更、画面の基本操作、パスワードの変更、電源の切りかたなど、本機の基本的な使いかたについて説明します。

モニタリングのしかたについては第 4 章「ライブ画像を監視する」（51 ページ）を、各種設定については第 5 章「基本設定」（82 ページ）を参照してください。その他の機能については、以下を参照してください。

メモ

本機にモニターを 2 台接続しているときは、モニター 1 ではモニタリングと設定が行えますが、モニター 2 はホットスポット用となります。



記録するには

- マニュアルで記録をする → 「ライブ画像を記録する」（63 ページ）
- スケジュールで記録する → 「記録スケジュール」（138 ページ）
- 外部トリガーで記録する
  - Video Motion Detection（レコーダー）を設定する → 「VMD（レコーダー）」（112 ページ）
  - センサー入力を設定する → 「センサー入力」（123 ページ）
  - Video Motion Filter を設定する → 「VMF」（116 ページ）

記録画像を再生するには

- 記録画像を再生する（「記録画像を再生する」）（64 ページ） → 「記録画像を検索して再生する」（67 ページ）

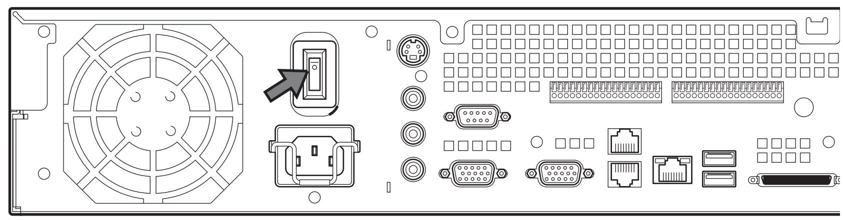
その他の機能を使用するには

- カメラからの音声を聞く → 「カメラからの音声をモニタリングする」（62 ページ）
- 記録画像をエクスポートする → 「エクスポートする」（70 ページ）
- アラーム出力を設定する → 「アラーム出力」（132 ページ）
- モニターの設定をする → 「モニター」（148 ページ）

NSR にログオンする

本機を操作するには、NSR にログオンする必要があります。本機の電源を入れると、ログオン画面が表示されます。

1 本機背面の電源スイッチを◯の方向へ押す。



起動画面が表示されます。



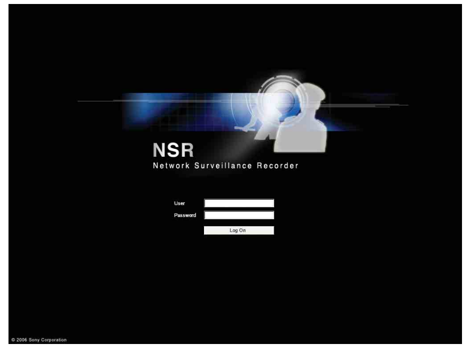


メモ

・電源を入れた直後（約 2 秒間）にファンの大きな音がしますが、これは故障ではありません。
・前回異常終了した場合は、起動するまでに時間がかかることがあります。

本機が起動すると、ログオン画面が表示されます。

2 ユーザー名とパスワードを入力し、［ログオン］をクリックする。



メモ

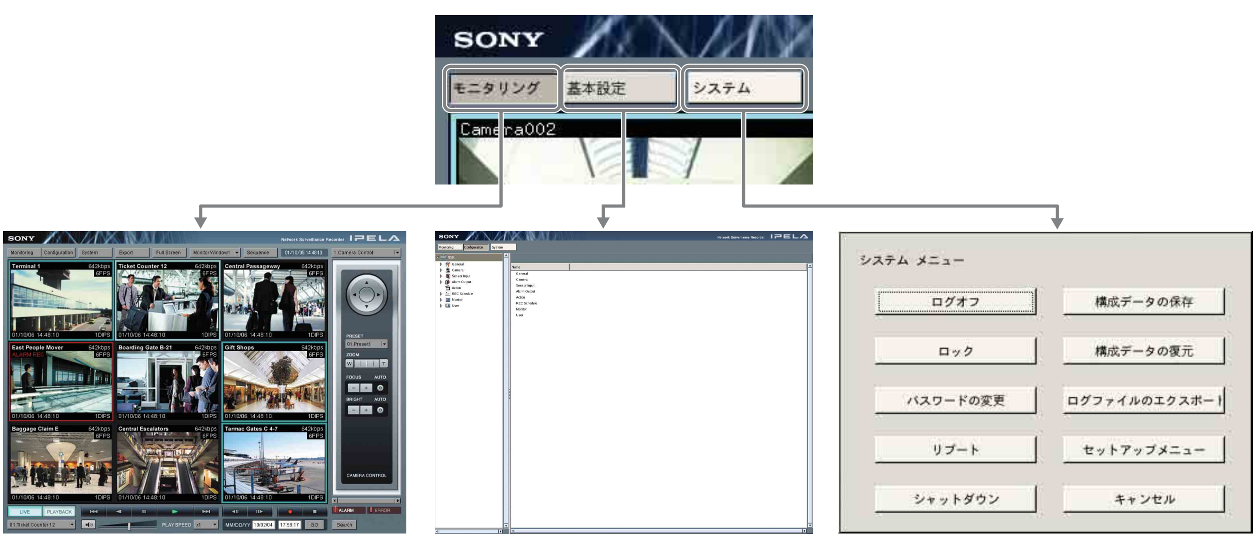
NSR の工場出荷時では、ユーザーは管理者のみ登録されています。工場出荷時の管理者のユーザー名は以下になります。

ユーザー名：admin
パスワード：admin

画面の基本操作

ここでは、各画面共通の基本操作について大まかに説明します。
各画面の操作の詳細や設定項目については、第 4 章「ライブ画像を監視する」（51 ページ）、第 5 章「基本設定」（82 ページ）を参照してください。

本機には、画像をモニタリングする「モニタリング」画面と各種設定を行う「基本設定」画面、システムの設定を行う「システムメニュー」画面の 3 つがあり、必要に応じて画面上部のボタンをクリックして切り替えることができます。



「モニタリング」画面　「基本設定」画面　「システムメニュー」画面

例）［モニタリング］ボタンをクリックした場合

「モニタリング」画面が表示されます。「モニタリング」画面では、各ウィンドウでライブ画像のモニタリングや記録画像の再生が行えます。
ライブ画像と記録画像の再生を切り替えるには、表示させたいウィンドウをクリックして選択し、画面左下にある［LIVE］または［PLAYBACK］をクリックします。
モニタリングのしかたについては、第４章「ライブ画像を監視する」（51ページ）を参照してください。



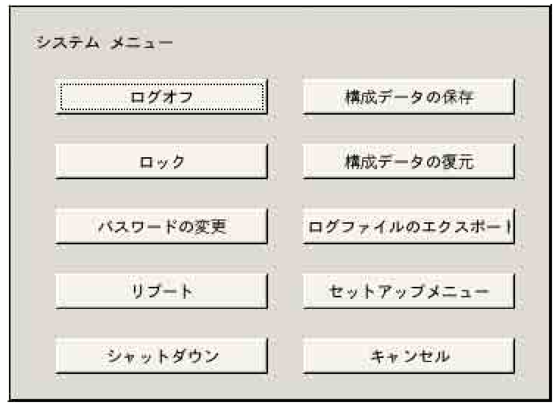
例）［基本設定］ボタンをクリックした場合

「基本設定」画面が表示されます。



例）［システム］ボタンをクリックした場合

「システムメニュー」画面が表示されます。各ボタンをクリックすると、本機のシステムに関する操作が行えます。



パスワードを変更する

パスワードは、本機のセキュリティにおいて大変重要です。本機購入後初めてNSR にログオンしたら、モニターや各種設定を行う前に必ずパスワードを変更してください。また、パスワードは厳重に管理してください。

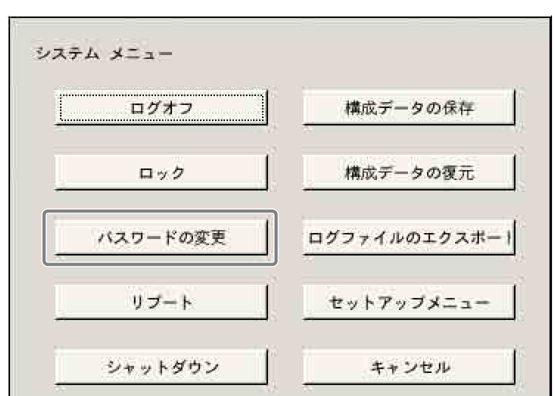
メモ

・現在ログオンしているユーザーのパスワードのみ変更できます。
・リモコンで操作する場合は、パスワードは数字のみで設定してください。
・パスワードに設定できる文字数は、最大 15 文字です。

1 画面上部の［システム］ボタンをクリックする。

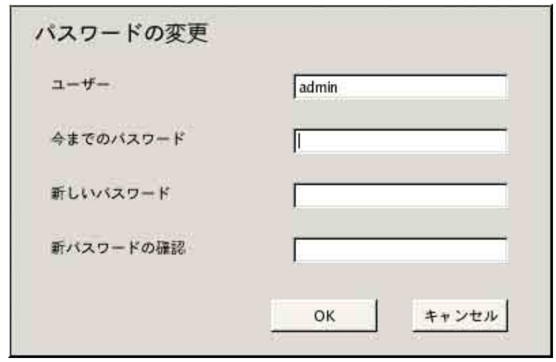
「システムメニュー」画面が表示されます。

2 ［パスワードの変更］をクリックする。



「パスワードの変更」画面が表示されます。

3 各項目を設定する。



ユーザー名
NSR にログオンするときのユーザー名を入力します。

今までのパスワード
現在使用しているパスワードを入力します。

新しいパスワード
新しいパスワードを入力します。

新パスワードの確認
［新しいパスワード］に入力したパスワードと同じパスワードをもう一度入力します。

4 ［OK］をクリックする。

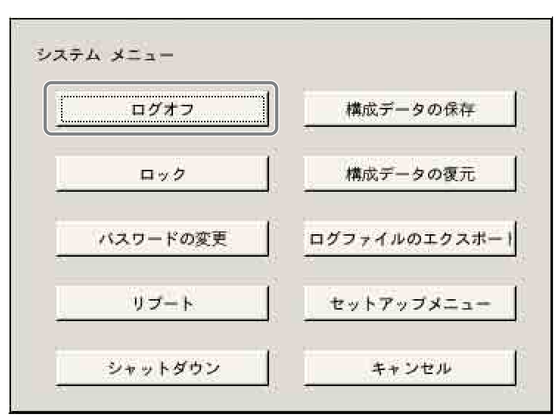
パスワードが変更されます。

ログオフする

1 画面上部の［システム］ボタンをクリックする。

「システムメニュー」画面が表示されます。

2 ［ログオフ］をクリックする。



ログオフするかどうかの確認メッセージが表示されます。

3　［ログオフ］をクリックする。

NSR からログオフし、「ログオン」画面が表示されます。
再度ログオンするには、ユーザー名とパスワードを入力し、［ログオン］をクリックします。

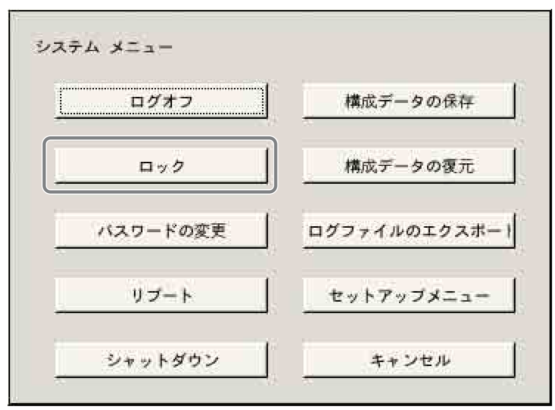
操作をロックする

そのままの状態で一時的に画面をロックできます。操作中に離席する場合などに使用します。

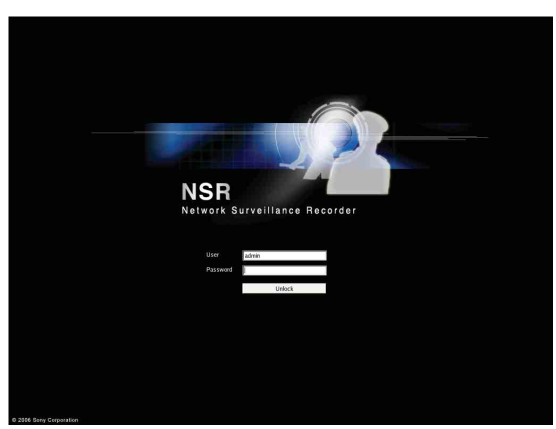
1　画面上部の［システム］ボタンをクリックする。

「システムメニュー」画面が表示されます。

2　［ロック］をクリックする。



操作がロックされると、以下の画面が表示されます。
ロックを解除するには、ユーザー名とパスワードを入力し、［ロック解除］をクリックします。



メモ

ロックの解除は、ログインしているユーザーか、Level 4 のユーザーで行えます。

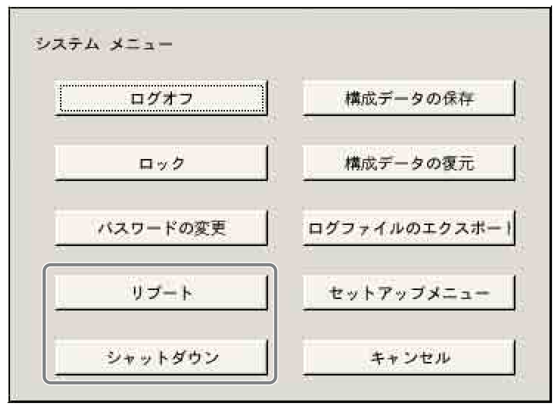
電源を切る／再起動する

本機の電源を切ったり再起動したりするときは、必ず「システム」画面から行ってください。

1 画面上部の［システム］ボタンをクリックする。

「システムメニュー」画面が表示されます。

2 ［シャットダウン］または［リブート］をクリックする。



確認のメッセージが表示されます。

3 ［シャットダウン］または［リブート］をクリックする。

本機の電源が切れる、または再起動します。

メモ

通常、数分で電源が切れる、または再起動が始まります。しばらくたっても電源が切れない、または再起動しない場合は、本機背面の電源スイッチを○の方向に 5 秒以上押して、強制的に電源を切ってください。

構成データを保存／復元する

NSR の構成データを外部メディアに保存したり、保存されている構成データを復元したりすることができます。

構成データを保存する

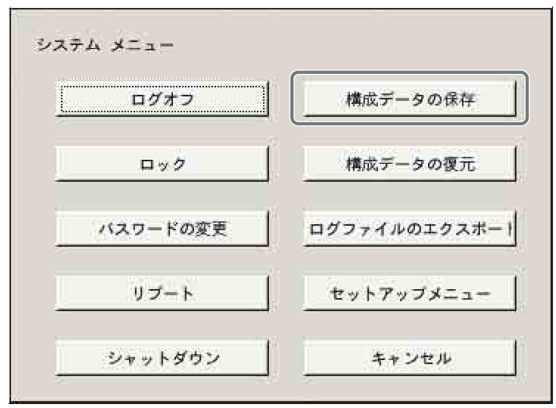
ご注意

以下の情報は保存されませんので、注意してください。
- 記録レコード
- ネットワーク設定、時刻情報など、初期セットアップの基本設定（「基本設定」（14 ページ）で設定した項目）
- ログ

1 画面上部の［システム］ボタンをクリックする。

「システムメニュー」画面が表示されます。

2 ［構成データの保存］をクリックする。



「構成データの保存」画面が表示されます。

3 構成データの保存先を選択し、構成データ名を入力して、［OK］をクリックする。



構成データのバックアップ中はプログレスバーが表示され、終了すると構成データが保存されます。

メモ

構成データの保存が終了すると、保存先に以下がディレクトリとファイルが作成されます。
- 「年月日時分秒」という名前のディレクトリ
- 「年月日時分秒 .itm」という名前のファイル

例）2007 年 1 月 1 日 12 時 34 分 56 秒に作成された場合
「20070101123456」という名前のディレクトリと
「20070101123456.itm」という名前のファイルが作成されます。

構成データを復元する

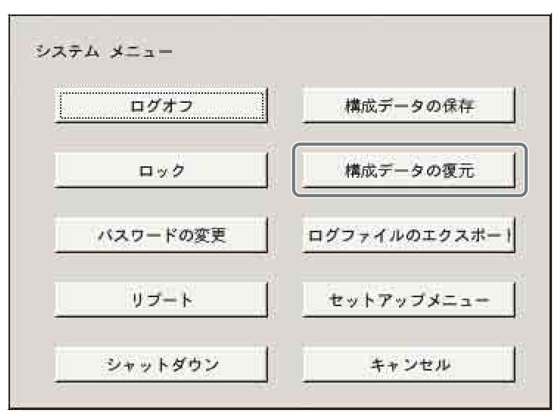
ご注意

- 以下の情報は復元されませんので、注意してください。
  - 記録レコード
  - ネットワーク設定、時刻情報など、初期セットアップの基本設定（「基本設定」（14 ページ）で設定した項目）
  - ログ
- 外部ストレージ自体の設定は復元されませんので、外部ストレージの設定は、保存時と同じにしておく必要があります。
- 現在のソフトウェアバージョンの上位 2 桁（例：「.」で区切られた“a.b.c”の“a.b”の部分）が構成データの保存時と異なっている場合や、モデルが異なっている場合は、復元できません。
- 構成データを復元した際には、それまで動作していた記録動作が自動的に停止します。記録スケジュールを設定していた場合は、復元後、自動的に記録が再開します。マニュアル記録を行っていた場合は、再度マニュアル記録を開始する必要があります。

1 画面上部の［システム］ボタンをクリックする。

「システムメニュー」画面が表示されます。

2 ［構成データの復元］をクリックする。



「構成データの復元」画面が表示されます。

3 構成データが保存されている場所と構成データを選択して、[復元]をクリックする。



この操作が NSR の再起動を伴うことについての確認メッセージが表示されます。

4 [OK]をクリックする。

リストア中はプログレスバーが表示され、終了すると NSR が再起動し、構成データが復元されます。

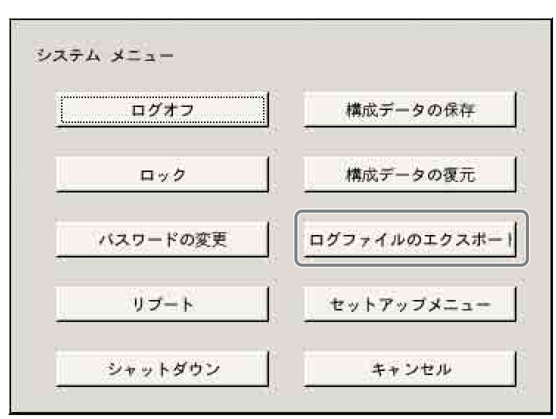
ログファイルをエクスポートする

NSR のログファイルを外部メディアに保存することができます。
ログファイルには、設定情報やアラームログ、システムログなどの情報が含まれます。

1 画面上部の[システム]ボタンをクリックする。

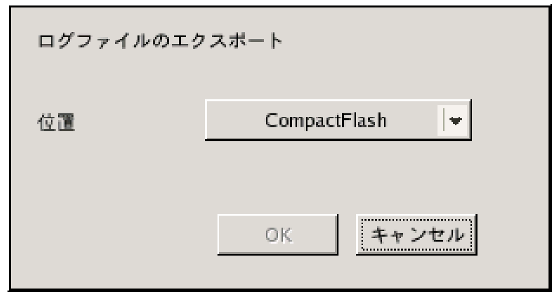
「システムメニュー」画面が表示されます。

2 [ログファイルのエクスポート]をクリックする。



「ログファイルのエクスポート」画面が表示されます。

3 ログファイルの保存先を選択し、ログデータに対するコメントを入力して、［OK］をクリックする。



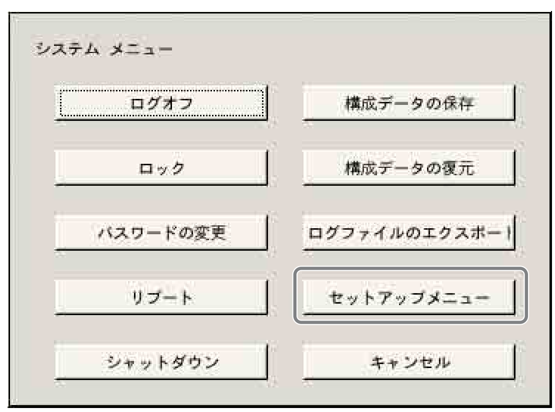
ログファイルが保存されます。

セットアップメニューを起動する

1 画面上部の［システム］ボタンをクリックする。

「システムメニュー」画面が表示されます。

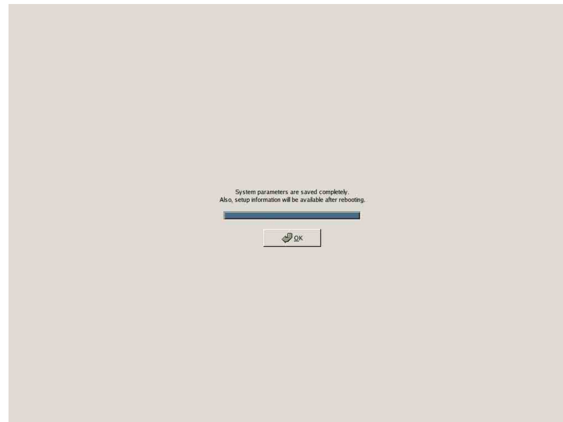
2 ［セットアップメニュー］をクリックする。



「セットアップメニュー」画面が表示されます。



「セットアップメニュー」を終了すると、自動的にセットアップ情報がDiskOnModule（DOM）にバックアップされます。
バックアップ中はプログレスバーが表示され、終了すると［OK］が有効になります。



ライブ画像を監視する　第4章

概要

「モニタリング」画面では、現在カメラが撮影しているライブ画像のモニタリング、記録画像の検索や再生、カメラのコントロールなどが行えます。また、記録画像をエクスポートすることもできます。

メモ

本機にモニターを２台接続しているときは、モニター１ではモニタリングや設定、検索など、すべての操作ができますが、モニター２はホットスポット用となります。

「モニタリング」画面の機能と使いかた

ここでは、ライブ画像をモニタリングするときや記録画像を再生するときの各ボタンや項目の機能と使いかたについて説明します。カメラをコントロールするときの画面については、「カメラをコントロールする」（58 ページ）を参照してください。

「モニタリング」画面（モニター 1）



1 モニターウィンドウ

それぞれのモニターウィンドウで、ライブ画像の表示や記録画像の再生ができます。
ライブ画像をモニタリングするときは、モニタリングしたいウィンドウをクリックして選択し、［LIVE］ボタンをクリックします。
→「ライブ画像を選ぶ」（57 ページ）
記録画像を再生するときは、再生したいモニターウィンドウをクリックして選択し、［PLAYBACK］ボタンをクリックします。
→「記録画像を再生する」（64 ページ）
モニターウィンドウの詳細については、「モニターウィンドウ」（55 ページ）を参照してください。

2 ［エクスポート］ボタン

記録画像を外部メディアにファイルとして保存できます。
→「エクスポートする」（70 ページ）

3 ［フルスクリーン］ボタン

現在のモニターレイアウト（モニターウィンドウの並び）で全画面表示します。
全画面にすると、操作ボタンなどが非表示になります。
通常画面に戻るには、Esc キーを押してください。

4 モニターレイアウト選択

あらかじめ登録されているモニターレイアウトまたはモニターシーケンスを選択することができます。
［▼］ボタンをクリックし、表示されるリストからモニターレイアウト名またはモニターシーケンス名をクリックして選択します。
→「シーケンスモードでモニタリングする」（61 ページ）、「新規にモニターレイアウトを登録する」（148 ページ）、「モニターシーケンスを追加する」（152 ページ）

5 ［シーケンス］ボタン

シーケンス動作を行います。
このボタンは、4 モニターレイアウト選択で［モニターシーケンス］が選択されているときに有効です。

→「シーケンスモードでモニタリングする」（61 ページ）

6 オプションウィンドウ（補助機能エリア）

［▼］ボタンをクリックし、表示される一覧で項目をクリックすると、項目に応じた情報表示やカメラコントロールが行えます。
選択できる項目は以下のとおりです。

1. **カメラコントロール**　：カメラをコントロールできます。
2. **記録中カメラ一覧**　：現在記録を行っているカメラの一覧が表示されます。
3. **記録画像一覧**　：最近の記録画像の一覧が表示されます。
4. **アラームログ**　：アラームに関するログが表示されます。
5. **システムログ**　：システム情報やエラーに関するログが表示されます。
6. **アラーム出力状況一覧**：現在のアラーム出力の状況が表示されます。
7. **センサー入力状況一覧**：現在のセンサー入力の状況が表示されます。
8. **VMD（レコーダー）状況一覧**　：現在の動体検知の設定情報が表示されます。
9. **マニュアルトリガー**　：手動で起動できるアクションが表示されます。

＊ 項目の詳細については、「オプションウィンドウ（補助機能エリア）」（77 ページ）を参照してください。

7 記録ボタン

記録を開始します。複数のモニターウィンドウを選択して記録することもできます。
ただし、記録が開始できるのは［LIVE］になっているモニターウィンドウのみです。［PLAYBACK］中のモニターウィンドウの記録は開始できません。

→「ライブ画像を記録する」（63 ページ）

8 記録停止ボタン

記録を停止します。記録中のモニターウィンドウを複数選択して停止することもできます。
このボタンは、記録中のモニターウィンドウを選択しているときのみ有効となります。

→「ライブ画像を記録する」（63 ページ）

9 ［ALARM］ランプ

アラームが発生したときに点灯します。
オプションウィンドウで［4. アラームログ］を選択すると、ログを確認したとみなしてランプが消灯します。
なお、アラームログの表示中にアラームが発生したときは数秒間点灯します。
［アラームログ］上で［更新］ボタンをクリックしても消灯します。

10 ［ERROR］ランプ

エラーが発生したときに点灯します。
オプションウィンドウで［5. システムログ］を選択すると、ログを確認したとみなしてランプが消灯します。
なお、システムログの表示中にエラーが発生したときは数秒間点灯します。
［システムログ］上で［更新］ボタンをクリックしても消灯します。

11 [検索] ボタン

記録された画像を検索するための検索画面に切り替えます。

→「記録画像を検索して再生する」(67 ページ)

12 クイックサーチボタン

記録画像の再生位置を日時で指定することができます。

→「クイックサーチ」(66 ページ)

13 再生速度

[▼] ボタンをクリックし、表示される速度をクリックすることで、記録画像の再生速度を調整することができます。

→「再生速度を変える」(65 ページ)

14 再生操作ボタン

再生中の記録画像の再生操作を行います。モニタリング中のライブ画像を操作することはできません。

 : その記録画像の先頭に移動します。すでに先頭になっている場合は、1 つ前の記録画像の先頭へ移動します。

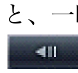
 : 逆方向に再生します。

 : 一時停止します。

 : 正方向に再生します。

 : 次の記録画像の先頭へ移動します。

以下は一時停止状態で操作するボタンです。再生中にこれらのボタンを押すと、一時停止状態になります。

 : 現在の位置から 1 フレーム戻ります。

 : 現在の位置から 1 フレーム進みます。

15 音量

NSR から出力される音量を調節します。選択したモニターウィンドウのカメラ(複数選択時は最後のもののみ)の音声が出力されます。

16 消音ボタン

NSR から出力される音声を消します。再度クリックすると、元に戻ります。

17 カメラリスト(カメラ選択)

モニターウィンドウに表示させたいカメラを選択します。

→「別のカメラの画像をモニタリングするには」(57 ページ)

18 [LIVE] ボタン/ [PLAYBACK] ボタン

選択しているモニターウィンドウでライブ画像をモニタリングするときは、[LIVE] ボタンをクリックします。選択しているモニターウィンドウで記録画像を再生するときは、[PLAYBACK] ボタンをクリックします。

→「ライブ画像を選ぶ」(57 ページ)、「記録画像を再生する」(64 ページ)

また、モニターウィンドウを選択した際はボタンが点灯し、ライブとプレイバックのどちらの状態になっているかを表示します。

複数のモニターウィンドウが選択されていて、ライブとプレイバックが混在している場合、最後に選択したモニターウィンドウの状態を示すボタンが点灯します。このとき、[LIVE] ボタンをクリックすると、選択されているモニターウィンドウがすべてライブ状態になり、[PLAYBACK] ボタンをクリックすると、選択されているモニターウィンドウがすべてプレイバック状態になります。

「モニタリング」画面（モニター 2）

本機にモニターを 2 台接続した場合、モニターコネクター 2 に接続したモニターには、1 × 1、2 × 2、3 × 3 のいずれかに指定したモニターレイアウトが表示されます。モニター 2 は、ホットスポット用モニターとして使用できます。



モニター 1 の画面



モニター 2 の画面

表示される画像は、モニター 1 で選択されたモニターウィンドウと同じものです。ただし、センサー入力や動体検知があった場合は、該当するカメラの画像が表示されます。

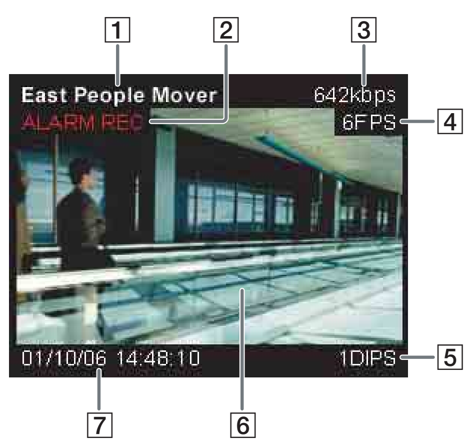
2 台のモニターを接続したときの動作は、次のようになります。

・選択された画像、またはセンサー入力や動体検知があったカメラの画像が左上から右上、左下、右下の順に、空いているモニターウィンドウに表示されます。
・すでに同じ画像がモニターウィンドウに表示されている場合は、別のモニターウィンドウへの表示は行われません。

メモ

・モニター 2 のモニターウィンドウを直接選択して、カメラコントロールを行うことはできません。
・モニター 2 では、設定操作を行うことはできません。
・モニター 2 の表示を行うと、モニター 1 の表示のパフォーマンスが低下することがあります。

モニターウィンドウ



1 カメラ名
カメラの名前が表示されます。

2 状態
記録時には、記録タイプ（MANUAL REC、ALARM REC、NORMAL REC）を表示します。
記録画像の再生時には、再生操作の状態（PAUSE など）や再生速度（+ 1 x、− 0.2 x など）を表示します（正方向の再生速度には「+」、逆方向の再生速度には「−」が付きます）。

3 バンド幅
ネットワーク接続で画像を転送するために使用する帯域の値を表示します。

4 受信フレーム数
カメラ画像を取り込む速度を表示します。

5 表示フレーム数
カメラ画像がモニター上で更新される速度を表示します。

6 ライブ画像／記録画像
記録画像やライブ画像を表示します。Video Motion Detection（レコーダー）の物体の枠や VMF（Video Motion Filter）の対象枠、フィルター枠なども表示します。

7 時刻
ライブ画像のモニタリング中や記録中には現在の日時、記録画像の再生中には記録時の日時が表示されます。
表示の書式は「基本設定」画面で設定できます。→「一般」（84 ページ）

メモ

- ホットスポットに設定されているモニターウィンドウでは、モニターウィンドウが選択されたときやセンサー入力があったとき、動体検知や VMF パッケージのアラームが発生したときは、該当するカメラの画像が表示されます。
- センサー入力や動体検知、VMF パッケージのアラームが発生したときは該当するカメラが表示されている場合に赤枠を表示します。

モニターウィンドウのレイアウトを切り替える

モニターウィンドウ上でダブルクリックすると、モニターレイアウトがダブルクリックしたモニターウィンドウに割り当てられているカメラ画像の 1 × 1 表示に切り替わります。なお、使用中のモニターレイアウトで 1 × 1 表示を使用しない設定になっていた場合は、切り替えできません。

メモ

続けてダブルクリックすると、元のモニターレイアウトに戻ります。
ただし、1 × 1 表示に切り替えた後にアクション、モニターシーケンス、モニターレイアウトの変更によってレイアウトの切り替えが行われた場合は、続けてダブルクリックしても元のモニターレイアウトには戻りません。

各種情報を非表示にするには

モニターウィンドウを右クリックし、表示されたメニューからチェックマークを外すと、モニターウィンドウ上の各種情報が非表示になります。

なお、ここでの変更は、「基本設定」画面のモニターレイアウト設定には反映・保存されません。

モニターウィンドウの複数選択について

Shift キーを押しながらモニターウィンドウをクリックすることで、複数のモニターウィンドウを選択できます。

メモ

複数のモニターウィンドウを選択後、複数のモニターウィンドウに対応できない操作を行った場合は、最後に選択されたモニターウィンドウのみが操作対象となります。

ライブ画像をモニタリングする

任意のウィンドウに、現在カメラが撮影している画像を表示できます。また、「モニタリング」画面からカメラをコントロールすることもできます。

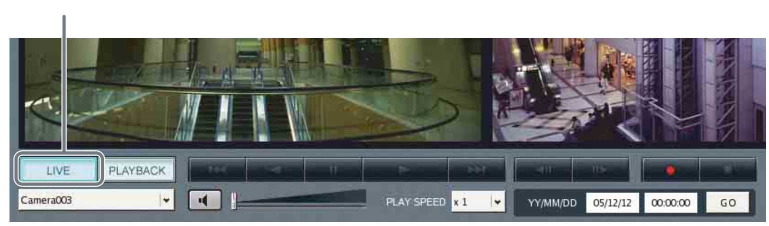
ライブ画像を選ぶ

1 ライブ画像を表示するモニターウィンドウを選択する。

Shift キーを押しながらモニターウィンドウをクリックすることで、複数のモニターウィンドウを選択できます。

2 画面左下の［LIVE］ボタンをクリックする。

［LIVE］をクリックします。



選択したモニターウィンドウにライブ画像が表示されます。

別のカメラの画像をモニタリングするには

1 モニターウィンドウを選択する。

2 画面左下のカメラリストの［▼］ボタンをクリックし、表示されるリストでカメラ名をクリックする。

リストの表示中に、カメラ名の左側の番号のキーを押して Enter キーを押しても、カメラを選択することができます。



モニターウィンドウのカメラが切り替わります。

メモ

・複数のモニターウィンドウを選択してカメラを切り替えることもできます。
・カメラリストでカメラを変更しても、「基本設定」画面の「モニター」のカメラ設定は変更されません。

カメラをコントロールする

カメラをコントロールしながら、ライブ画像をモニタリングできます。

1 任意のモニターウィンドウを選択し、コントロールしたいカメラの画像を表示する。

カメラのコントロールは、ネットワークに対応したカメラにのみ有効です。また、複数のモニターウィンドウを同時に選択した場合は、最後に選択したモニターウィンドウのカメラがコントロールの対象となります。

2 画面右上のオプションウィンドウの［▼］ボタンをクリックし、［1. カメラコントロール］をクリックする。

「カメラコントロール」パネルが表示されます。

3 各ボタンを使って、カメラをコントロールする。



パン／チルト



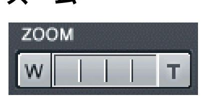
カメラを上下左右に動かします。

プリセット



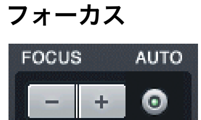
登録されているプリセットを呼び出します。

ズーム



「W」側にすると広角、「T」側にすると望遠になります。
「W」と「T」の間をクリックすると、絶対値にズームします。

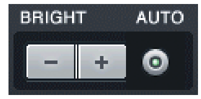
フォーカス



［AUTO］を選択すると、フォーカスが常時自動調整されます。

［－］［＋］ボタンをクリックすると、自動状態が解除され、手動でフォーカスを調整できます。近くのものにピントを合わせたいときは［－］側に、遠くのものにピントを合わせたいときは［＋］側に調整します。
カメラのパン、チルト、ズームを行うと、自動的に［AUTO］になります。

ブライト



［AUTO］を選択すると、ブライトが常時自動調整されます。
［－］［＋］ボタンをクリックすると、自動状態が解除され、手動でブライトを調整できます。［＋］側に調整すると明るめに、［－］側に調整すると暗めになります。
カメラのパン、チルト、ズームを行うと、自動的に［AUTO］になります。

モニターウィンドウ内でパン、チルト、ズームを操作する

「カメラコントロール」パネルのパン、チルト、ズームを使わずに、モニターウィンドウ内での操作でパン、チルト、ズームを行うことができます。

ダイレクトパンチルト

モニターウィンドウ内でCtrl キーを押しながらクリックすると、そのポイントが中心となるように移動します。

エリアズーム

モニターウィンドウ内の任意の場所でCtrl キーを押しながらドラッグすると赤い枠が表示され、マウスボタンを離すとそのエリアがズームされます。

マウスホイールによるズーム

Ctrl キーを押しながらマウスホイールを前方に回すとズームインし、Ctrl キーを押しながらマウスホイールを後方に回すとズームアウトします。

モニターウィンドウ内のマウス操作

マウスのホイールの回転とキーボードのキーを組み合わせて使うことで、パン、チルト、ズームの操作が行えます。

ショートカットキー	操作
Ctrl ＋左クリック	選択したポイントが中心となるように移動
Ctrl ＋左クリックでドラッグ	赤い枠が表示され、マウスボタンを離すと枠内の画像をウィンドウいっぱいに拡大表示
Ctrl ＋ホイール（前方に回す）	ズームイン
Ctrl ＋ホイール（後方に回す）	ズームアウト

プリセットについて

本機では、カメラの状態をあらかじめ設定し、プリセットとして登録しておくことができます。プリセットの登録については、「詳細設定」の「プリセット」（109 ページ）を参照してください。
プリセットの［▼］ボタンをクリックし、表示されるリストからプリセットをクリックすると、カメラがプリセットに設定されている状態に移行します。

メモ

リストの表示中に、プリセット名の左側の番号のキーを押して Enter キーを押しても、プリセットを選択することができます。

シーケンスモードでモニタリングする

シーケンスモードは、指定された時間で複数のモニターレイアウトを切り替え表示する機能です。
シーケンスモードを使用するには、あらかじめモニターシーケンスを登録しておく必要があります。
モニターシーケンスの登録については、「詳細設定」の「モニターシーケンスを追加する」（152 ページ）を参照してください。

1 画面中央上のモニターレイアウト選択の［▼］ボタンをクリックし、表示されるリストでシーケンス名をクリックする。

2 画面中央上の［シーケンス］ボタンをクリックする。



シーケンス動作が開始されます。
もう一度［シーケンス］ボタンをクリックすると、シーケンス動作が終了します。

ホットスポットモニターウィンドウにカメラの画像を表示する

モニターウィンドウをホットスポットとして設定しておくと、ほかのモニターウィンドウをクリックしたとき、そのモニターウィンドウと同じ画像がホットスポットモニターウィンドウにも表示されます。
ホットスポットの設定については、「詳細設定」の「モニター」（148 ページ）を参照してください。

メモ

モニターを 2 台接続して使用している場合、モニター 2 は常にホットスポットとして機能します。モニター 2 の設定については、「システムの設定を変更する」の手順 15（28 ページ）をご覧ください。

センサー入力やアラーム発生時の画像をホットスポットモニターウィンドウに表示する

センサー入力があった場合、または動体検知や VMF パッケージによるアラームがあった場合、該当するカメラの画像がホットスポットモニターウィンドウに表示されます。
このとき、該当するカメラが割り当てられているモニターウィンドウが赤枠で強調表示されます。

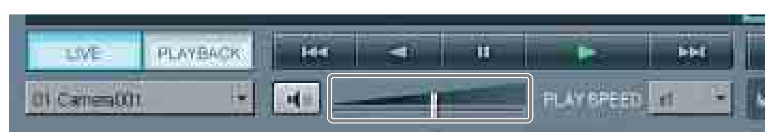
カメラからの音声をモニタリングする

音声入力対応カメラを使用している場合は、カメラから入力された音声をモニタリングすることができます。

1 音声をモニタリングしたいモニターウィンドウを選択する。

選択したモニターウィンドウに割り当てられているカメラからの音声が出力されます。
モニターウィンドウを複数選択した場合は、最後に選ばれたカメラの音声のみ出力されます。

2 音量を、画面右下のツマミを動かして調整する。



カメラからの音声を消す

画面左下の消音ボタンをクリックすると、消音します。



消音状態では、どのモニターウィンドウを選択しても音声は出力されません。
もう一度消音ボタンをクリックすると、消音が解除されます。

ライブ画像を記録する

現在カメラが撮影している画像を記録できます。

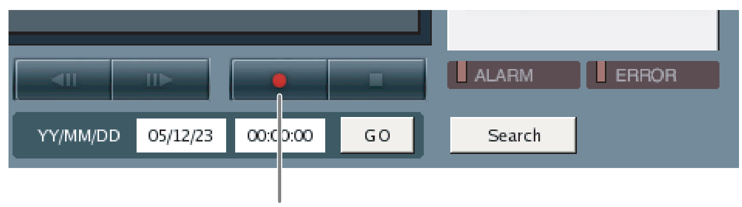
記録を開始する

1 ライブ画像を記録したいモニターウィンドウを選択する。

Shift キーを押しながらモニターウィンドウをクリックすることで、複数のモニターウィンドウを選択できます。

2 ライブ画像が表示されていない場合は、画面左下の［LIVE］ボタンをクリックする。

3 画面右下の記録ボタンをクリックする。



記録ボタン

記録が開始されます。

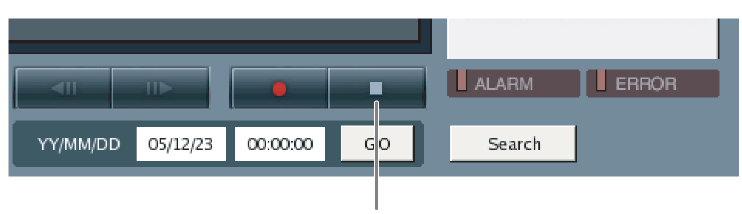
メモ

- モニターレイアウトを変更しても、記録は継続されます。
- 記録中のカメラは、オプションウィンドウの「記録中カメラ一覧」に表示されます。

記録を停止する

1 記録を停止したいモニターウィンドウを選択する。

2 記録停止ボタンをクリックする。



記録停止ボタン

記録を停止するかどうかの確認メッセージが記録タイプ別に表示されます。

3 ［OK］をクリックする。

記録が停止します。

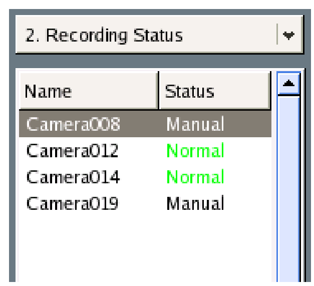
「記録中カメラ一覧」からカメラを選んで記録を停止する

現在モニターレイアウト上に表示されていない記録中のカメラを、オプションウィンドウの「記録中カメラ一覧」から選択して任意のモニターウィンドウに割り当て、記録を停止することができます。
手動で記録開始したものだけでなく、スケジュールにより記録中のものも停止することができます。

1 任意のモニターウィンドウを 1 つ選択する。

2 画面右上のオプションウィンドウの［▼］ボタンをクリックし、［2. 記録中カメラ一覧］をクリックする。

「記録中カメラ一覧」が表示されます。



3 記録を停止したいカメラ名を選択して、ダブルクリックする。

指定したカメラが、手順 1 で選択したモニターウィンドウに割り当てられます。
複数のモニターウィンドウを選択している場合は、選択されたすべてのモニターウィンドウに割り当てられます。

4 記録停止ボタンをクリックする。

指定したカメラの記録が停止します。

記録画像を再生する

保存されている記録画像を再生します。

モニターウィンドウを選んで再生する

現在モニターレイアウト上に表示されているモニターウィンドウを選択して、記録画像を再生します。

1 記録画像を再生したいモニターウィンドウを選択する。

Shift キーを押しながらモニターウィンドウをクリックすることで、複数のモニターウィンドウを選択できます。

2 画面左下の［PLAYBACK］ボタンをクリックする。

［PLAYBACK］ボタン



選択しているモニターウィンドウがプレイバック状態になり、そのモニターウィンドウに割り当てられているカメラで最後に記録した画像の先頭フレームが表示されます。複数のモニターウィンドウが選択されているときは、すべてのモニターウィンドウがプレイバック状態になります。

メモ

記録中のカメラをプレイバック状態にした場合、再生可能な記録画像の最後のフレームが表示されます。

3 再生操作ボタンで再生する。

再生操作ボタンの機能については、「「モニタリング」画面（モニター 1）」（52 ページ）を参照してください。

メモ

複数のモニターウィンドウを選択しているときは、再生操作で同時に再生が開始されます。

4 ほかのモニターウィンドウで、そのモニターウィンドウに割り当てられているカメラの記録画像を再生する場合は、手順 1 ～ 3 を繰り返す。

再生速度を変える

1 再生速度を変更したい再生中のモニターウィンドウを選択する。

Shift キーを押しながらモニターウィンドウをクリックすることで、複数のモニターウィンドウを選択できます。

2 画面中央下の「再生速度」の［▼］ボタンをクリックし、希望の再生速度をクリックする。

選択できる再生速度は、以下のとおりです。
0.1x、0.2x、0.5x、0.75x、1x、2x、5x、10x、20x、50x、100x



再生速度

選択しているモニターウィンドウの再生速度が変わります。

メモ

・再生中のモニターウィンドウを選択すると、「再生速度」にそのモニターウィンドウのそのときの再生速度が表示されます。
・再生中のモニターウィンドウを複数選択して、上記 1、2 の手順を行うと、選択されていたすべてのモニターウィンドウの再生速度が同時に変更されます。

クイックサーチ

記録画像の再生開始位置を日時で指定し、クイックサーチします。

1 記録画像を再生したいモニターウィンドウを選択する。

Shift キーを押しながらモニターウィンドウをクリックすることで、複数のモニターウィンドウを選択できます。

2 画面右下の「日時指定」に日時を入力し、[GO] ボタンをクリックする。

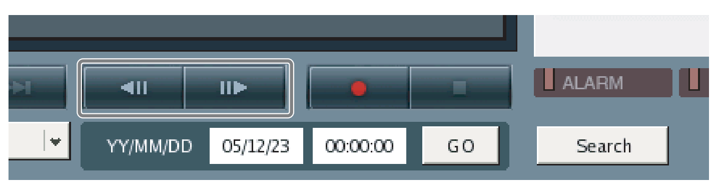


指定した日時付近の位置に再生開始位置が移動します。
選択したモニターウィンドウの記録画像に、その日時が含まれていない場合は、その日時以降の記録画像で 1 番近いものの先頭フレームが表示されます。

メモ

指定した日時を含む記録画像が複数あった場合、アラーム記録＞マニュアル記録＞通常記録の優先度で選択します。

3 再生開始位置をさらに詳細に指定したいときは、  をクリックして、1 フレーム単位で再生位置を移動する。



「記録画像一覧」から選んで再生する

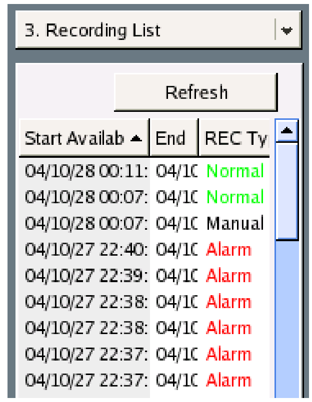
現在モニターレイアウト上に表示されていないモニターウィンドウの記録画像を、オプションウィンドウの「記録画像一覧」から選択して任意のモニターウィンドウに割り当て、再生することができます。

1 任意のモニターウィンドウを 1 つ選択する。

2 画面右上のオプションウィンドウの [▼] ボタンをクリックし、[3. 記録画像一覧] をクリックする。

「記録画像一覧」が表示されます。

記録画像一覧には、各記録の最終更新時刻の新しいものから 300 件が表示されます。



3 再生したい記録画像を選択して、ダブルクリックする。

手順 1 で選択したモニターウィンドウに指定した記録画像の先頭フレームが表示されます。

メモ

複数のモニターウィンドウを選択している場合は、最後に選択されたモニターウィンドウに表示されます。

4 再生操作ボタンで再生する。

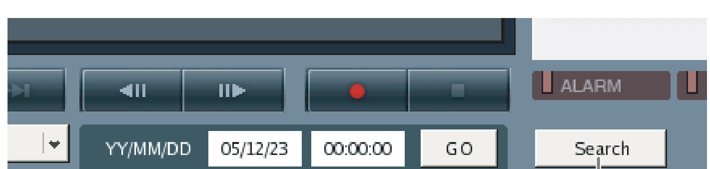
記録画像を検索して再生する

日時やイベントを指定して、記録画像を検索できます。記録のタイプ（通常記録、アラーム記録、マニュアル記録）を指定することもできます。
また、アラーム記録の場合は、トリガーを指定することもできます。メタデータを記録している場合は、動体／不動体の検出条件であるフィルター（VMF：Video Motion Filter）をかけて検索することもできます。

検索する

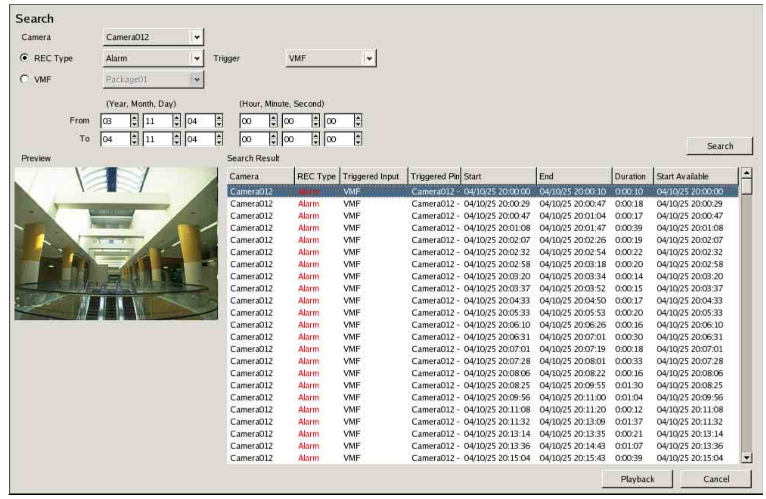
1 任意のモニターウィンドウを選択する。

2 画面右下の［検索］ボタンをクリックする。



「検索」画面が表示されます。

3 検索条件を入力する。



カメラ
カメラを選択します。

記録タイプ
記録タイプで検索するときに選択します。
ここを選択したときは、検索する記録画像がどの記録タイプで記録されたかを指定します。

通常記録（Normal）
スケジュール記録により記録開始された記録画像を検索します。

アラーム記録（Alarm）
アラームにより記録開始された記録画像を検索します。
［アラーム記録］を選択したときは、右側に表示される［トリガー］でアラームの種類を指定することにより、検索条件を絞ることができます。指定できるアラームの種類は、Device Input ／ System Input ／ VMD（レコーダー）／ VMD（カメラ）／ VMF です。

マニュアル記録（Manual）
マニュアルで記録を行った記録画像を検索します。

VMF
記録済みのメタデータに対して、動体／不動体の検出条件であるフィルター（VMF：Video Motion Filter）をかけて、該当する記録を検索するときに選択します。
VMF 検索には、あらかじめ設定されている VMF パッケージを使う方法と、一時的に使用する VMF パッケージを設定して行う方法があります。
- あらかじめ設定されている VMF パッケージを使うときは、［▼］ボタンをクリックし、表示される一覧から検索に使用する VMF パッケージを選択します。
- 一時的に使用する VMF パッケージを設定して検索するときは、［▼］ボタンをクリックし、表示される一覧から［一時的パッケージ］を選択します。次に、［編集］ボタンをクリックし、表示される画面で一時的に使用する VMF パッケージを設定します。

メモ

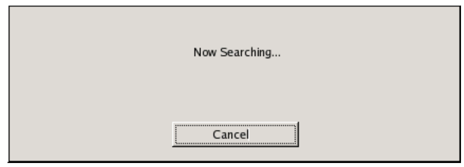
［カメラ］で「All」を選択したときは、［VMF］は選択できません。

開始（From）／終了（To）

記録画像を検索する期間を指定します。
ここで指定した期間内に該当する記録画像が存在する場合に検索されます。

4 ［検索］ボタンをクリックする。

検索中は、以下の画面が表示されます。



検索が終了すると、検索結果が一覧表示されます。

メモ

- VMF 検索の場合、検索の途中でキャンセルしたときは、その時点までに検索された結果が表示されます。
- VMF 検索の場合は、検索に時間がかかることがある旨の確認メッセージや、進捗率が表示されます。

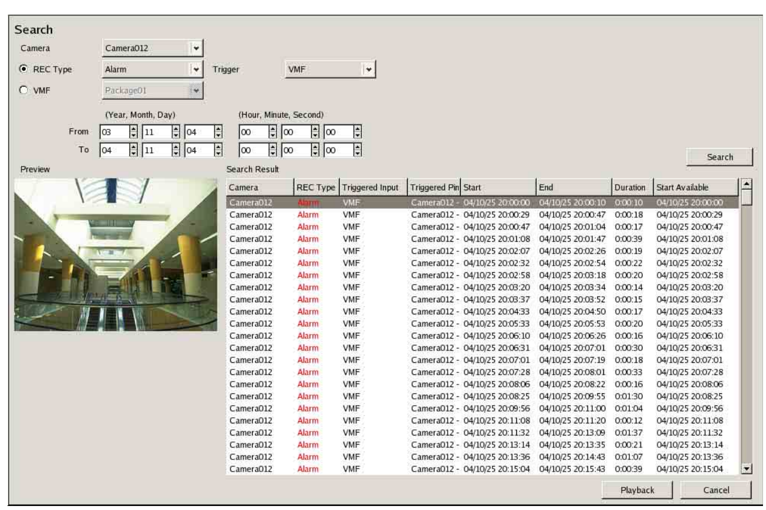
検索結果から再生する

検索結果の一覧から記録画像を選択して再生します。
再生は、「検索」画面を開く前に選択していたモニターウィンドウで行われます。

1 検索結果の一覧から、再生したい記録画像を選択する。

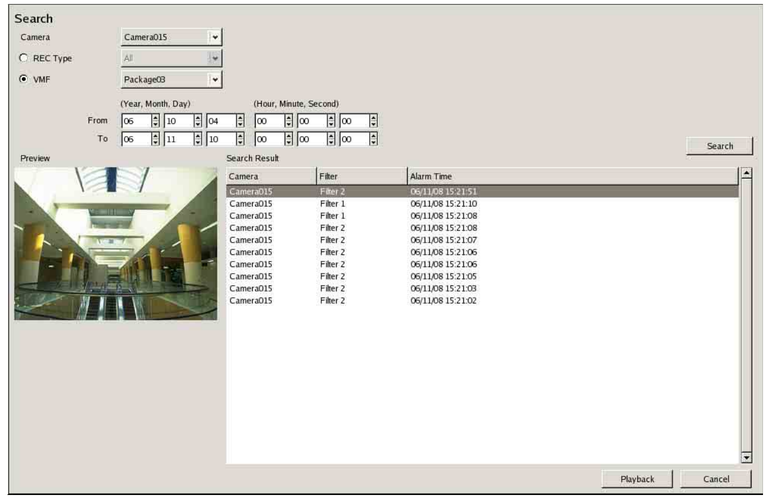
記録タイプで検索した場合

プレビュー欄には、選択した記録画像の先頭フレームが表示されます。



VMF 検索した場合

プレビュー欄には、指定した VMF パッケージでアラームと判定された時点の映像が表示されます。



2 ［再生］ボタンをクリックする。

検索画面が閉じ、指定された記録画像が、選択されていたモニターウィンドウに一時停止状態で表示されます。

3 再生操作ボタンで再生する。

メモ

VMF 検索から記録データの再生を行う場合は、その時刻から 10 秒後までの範囲の記録データが検索され、最初に見つかったものが再生されます。

エクスポートする

保存されている記録画像をファイルとしてエクスポートできます。
動画は独自フォーマット（.cam ファイル）、静止画は JPEG でエクスポートされます。エクスポートされた動画は、CAM ファイル再生用アプリケーションで再生します。

メモ

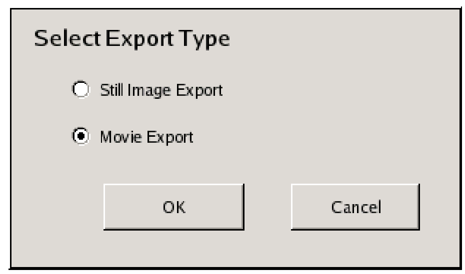
同時に複数のエクスポート処理を行うことはできません。

記録画像のエクスポート

1 画面中央上の［エクスポート］ボタンをクリックする。

再生中の記録画像をエクスポートしたいときは、再生を一時停止してから［エクスポート］ボタンをクリックしてください（複数のモニターウィンドウが選択されている場合は、最後に選択されたモニターウィンドウがエクスポートの対象となります）。

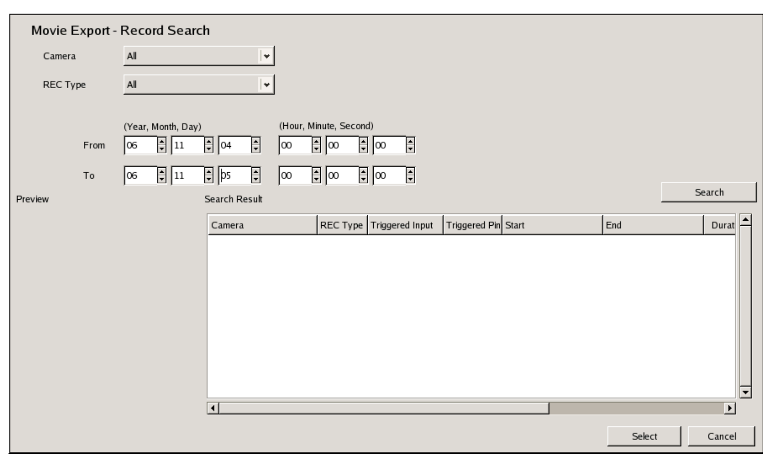
再生を一時停止している場合は、以下の画面が表示されます。
それ以外の場合は、「記録画像エクスポート－記録データ検索」画面が表示されます。手順３に進んでください。



2 ［記録画像エクスポート］を選択して［OK］ボタンをクリックする。

「記録画像エクスポート—出力」画面が表示されます。手順６に進んでください。

3 検索条件を入力する。



カメラ
カメラを選択します。

記録タイプ
検索する記録画像がどの記録タイプで記録されたかを指定します。

通常記録（Normal）
スケジュール記録により記録開始された記録画像を検索します。

アラーム記録（Alarm）
アラームにより記録開始された記録画像を検索します。

［アラーム記録］を選択したときは、右側に表示される［トリガー］でアラームの種類を指定することにより、検索条件を絞ることができます。指定できるアラームの種類は、Device Input ／ System Input ／ VMD（レコーダー）／ VMD（カメラ）／ VMF です。

マニュアル記録（Manual）
マニュアルで記録を行った記録画像を検索します。

開始（From）／終了（To）
記録画像を検索する期間を指定します。
ここで指定した期間内に該当する記録画像が存在する場合に検索されます。

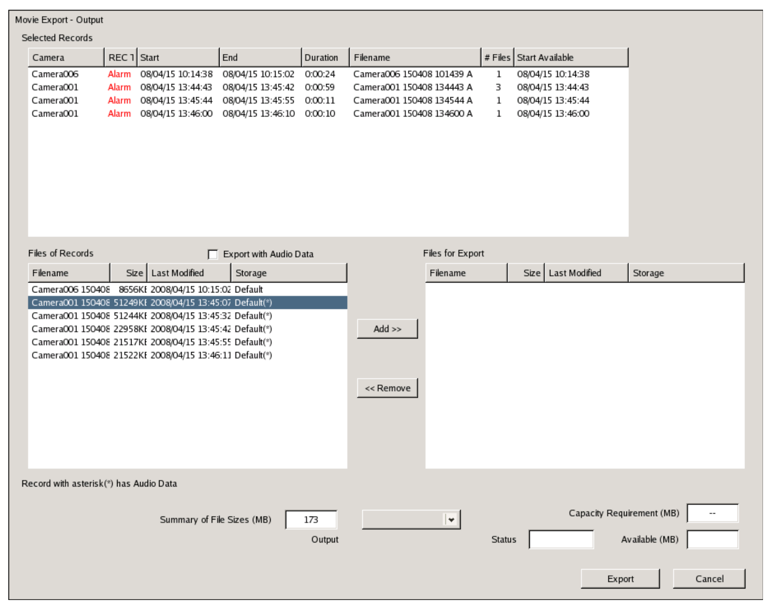
4 ［検索］ボタンをクリックする。

検索結果が一覧表示されます。

5 検索結果の一覧でエクスポートしたい記録画像を選択し、［選択］ボタンをクリックする。

「記録画像エクスポートー出力」画面が表示されます。

6 エクスポートするファイルを［エクスポート対象ファイル］の一覧に追加する。



選択された記録画像
検索結果の一覧で選択された記録画像が表示されます。
再生を一時停止している場合は、エクスポートの対象となるモニターウィンドウの記録画像のみ表示されます。

記録画像ファイル
［選択された記録画像］の一覧で選択された記録画像に含まれるファイルが一覧表示されます。
再生を一時停止している場合は、［エクスポート対象ファイル］の一覧に自動的に追加されたファイルの直後のファイル（直後のファイルがない場合は直前のファイル）が選択された状態で表示されます。

音声データを含める
音声データもあわせてエクスポートするときにチェックマークを付けます。
音声データが含まれる記録画像は、［ストレージ］列の表示内容に「*」（アスタリスク）が付きます。

ファイル総容量（MB）
記録画像に含まれるファイルすべてを集計した容量が表示されます。

エクスポート対象ファイル
エクスポートするファイルが一覧表示されます。
再生を一時停止している場合は、一時停止中の日時を含むファイルが自動的に追加されます。
［記録画像ファイル］の一覧でファイルを選択し、［追加］ボタンをクリックすると、この一覧に追加されます。
また、この一覧でファイルを選択し、［削除］ボタンをクリックすると、この一覧から削除されます。

必要容量（MB）
エクスポート対象ファイルのすべてをエクスポートするために必要となる容量を表示します。

出力先指定
エクスポート対象ファイルの出力先を選択します。［▼］ボタンをクリックし、表示される一覧からコンパクトフラッシュメモリー、USB メモリー、CD/DVD のいずれかを選択します。

状態
出力先の状態を表示します。
メディアが書き込み可能な状態の場合は、「準備完了」と表示されます。

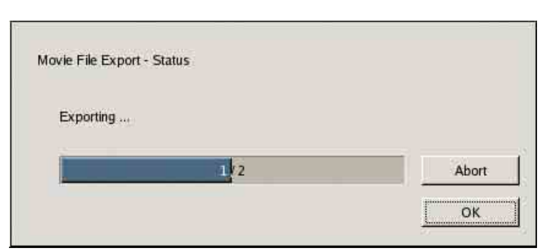
空き容量（MB）
出力先の空き容量状態を表示します。

7 出力先となるメディアを NSR 本体に接続する。

8 エクスポート先となるメディアを［出力先指定］で指定する。

9 ［状態］欄に「Ready」と表示されていることを確認し、［エクスポート］ボタンをクリックする。

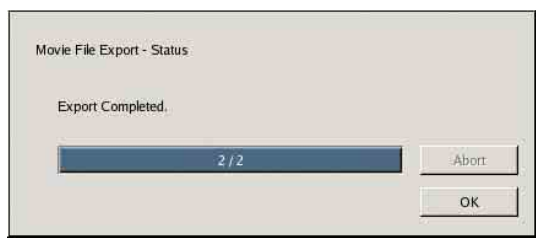
エクスポートが開始されます。
エクスポート中は「記録画像エクスポート－状況」画面が表示され、進行状況を確認できます。



メモ

- メディアの空き容量が足りない場合は、警告のメッセージが表示され、エクスポートが中止されます。
- エクスポート中に［OK］ボタンをクリックすると、エクスポートを続行しながら「モニタリング」画面に戻ることができます。
- エクスポート中に「モニタリング」画面に戻っているときに［エクスポート］ボタンをクリックすると、「記録画像エクスポートー状況」画面が表示されます。
- 「記録画像エクスポート出力」画面の［必要容量（MB）］に表示される容量は目安です。［空き容量］に表示された容量が［必要容量（MB）］に表示された容量よりも多かった場合であっても、まれにメディアの空き容量不足となり、エクスポートが失敗することがあります。
- エクスポートで CD または DVD に記録ファイルを書き出す場合、ファイル名に含まれるスペース（ ）はアンダーバー（_）に置換されます。
- 記録中のファイルをエクスポートすると、正常に再生できないことがあります。記録中のレコードをエクスポートする場合は、最新以外のファイルをエクスポートしてください。

エクスポートが終了すると、以下のように表示されます。



10 ［OK］ボタンをクリックする。

「記録画像エクスポートー状況」画面が閉じます。

静止画のエクスポート

記録画像の一場面を、静止画ファイルとしてエクスポートします。

1 任意のモニターウィンドウを選択し、エクスポートしたい場面のある記録画像を再生する。

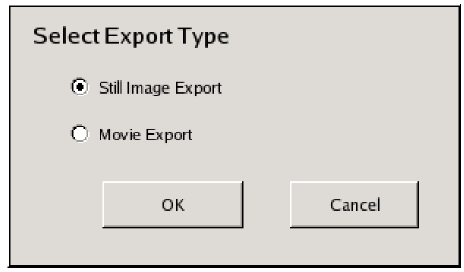
2 エクスポートしたい場面で一時停止する。

ご注意

ライブ画像の静止画はエクスポートできません。

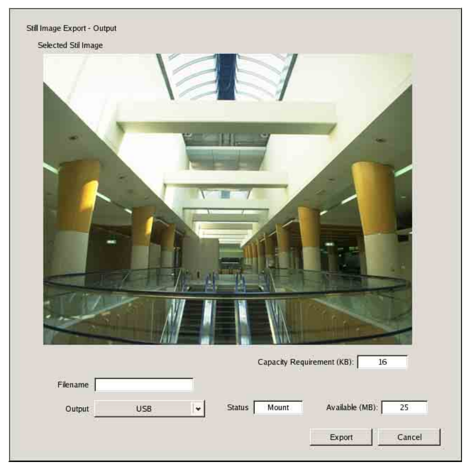
3 画面中央上の［エクスポート］ボタンをクリックする。

以下の画面が表示されます。



4 ［静止画エクスポート］を選択して［OK］ボタンをクリックする。

「静止画エクスポートー出力」画面が表示されます。



ファイル名
ファイル名を入力します。
入力したファイル名と同じ名前のファイルがエクスポート先に存在する場合は、入力したファイル名とは別の名前でエクスポートされることがあります。

出力先指定
エクスポートするファイルの出力先を選択します。［▼］ボタンをクリックし、表示される一覧からコンパクトフラッシュメモリー、USB メモリー、CD/DVD のいずれかを選択します。

状態
出力先の状態を表示します。
メディアが書き込み可能な状態の場合は、「準備完了」と表示されます。

空き容量（MB）
出力先の空き容量状態を表示します。

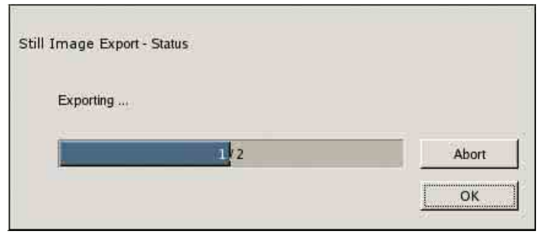
5 出力先となるメディアを NSR 本体に接続する。

6 「ファイル名」にファイル名を入力する。

7 エクスポート先となるメディアを［出力先指定］で指定する。

8 ［状態］欄に「Ready」と表示されていることを確認し、［エクスポート］ボタンをクリックする。

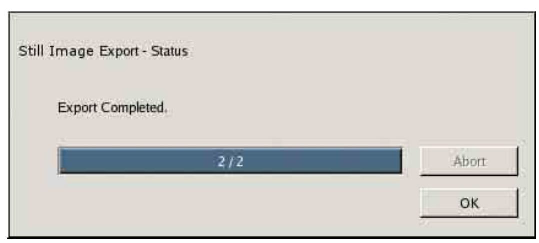
エクスポートが開始されます。
エクスポート中は「静止画エクスポート－状況」画面が表示され、進行状況を確認できます。



メモ

- メディアの空き容量が足りない場合は、警告のメッセージが表示され、エクスポートが中止されます。
- エクスポート中に［OK］ボタンをクリックすると、エクスポートを続行しながら「モニタリング」画面に戻ることができます。
- エクスポート中に「モニタリング」画面に戻っているときに［エクスポート］ボタンをクリックすると、「静止画エクスポート－状況」画面が表示されます。

エクスポートが終了すると、以下のように表示されます。



9 ［OK］ボタンをクリックする。

「静止画エクスポート－状況」画面が閉じます。

オプションウィンドウ（補助機能エリア）

「モニタリング」画面（モニター 1）のオプションウィンドウでは、以下の情報表示やカメラコントロールが行えます。

1. **カメラコントロール**　：カメラをコントロールできます（58 ページ）。
2. **記録中カメラ一覧**　：現在記録を行っているカメラの一覧が表示されます（64 ページ）。
3. **記録画像一覧**　：最近の記録画像の一覧が表示されます（66 ページ）。
4. **アラームログ**　：アラームに関するログが表示されます。
5. **システムログ**　：システム情報やエラーに関するログが表示されます。
6. **アラーム出力状況一覧**　：現在のアラーム出力の状況が表示されます。
7. **センサー入力状況一覧**　：現在のセンサー入力の状況が表示されます。
8. **VMD（レコーダー）状況一覧**　：現在の動体検知情報が表示されます。
9. **マニュアルトリガー**　：手動で起動できるアクションが表示されます。

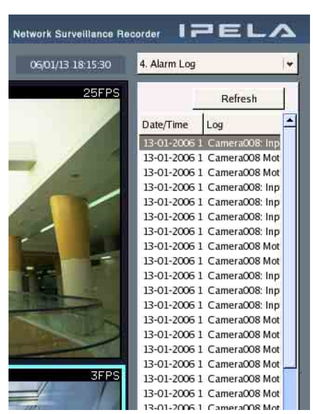
「カメラコントロール」、「記録中カメラ一覧」、「記録画像一覧」については、上記のそれぞれのページを参照してください。ここでは、それら以外の項目について説明します。

アラームログ

発生したアラーム状況を確認できます。

1 画面右上のオプションウィンドウの［▼］ボタンをクリックし、［4. アラームログ］をクリックする。

アラームログが表示されます。

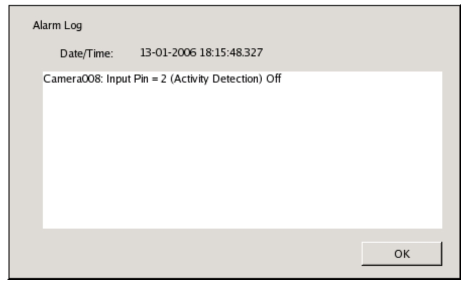


メモ

日時フォーマットは、「一般」－「メイン」の「日時フォーマット」に関わらず、「day-month-year」となります。

2 詳細を表示したいログを選択して、ダブルクリックする。

アラームログの内容が表示されます。



3 内容を確認したら、［OK］ボタンをクリックする。

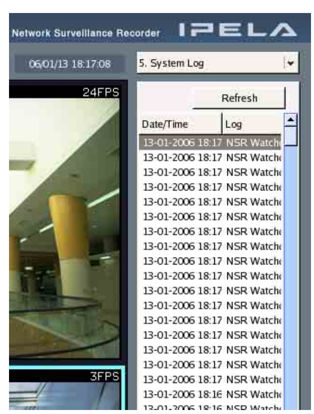
画面が閉じます。

システムログ

システムに発生するエラー情報を確認できます。

1 画面右上のオプションウィンドウの［▼］ボタンをクリックし、［5. システムログ］をクリックする。

システムログが表示されます。

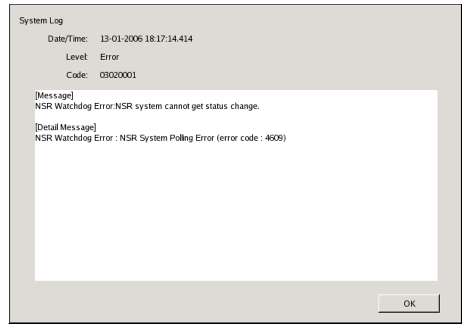


メモ

日時フォーマットは、「一般」－「メイン」の「日時フォーマット」に関わらず、「day-month-year」となります。

2 詳細を表示したいログを選択して、ダブルクリックする。

システムログの内容が表示されます。



3 内容を確認したら、［OK］ボタンをクリックする。

画面が閉じます。

アラーム出力状況一覧

NSR やカメラのアラーム出力が On になっているか Off になっているかを確認できます。この一覧から On/Off を切り替えることもできます。

メモ

「基本設定」画面の「アラーム出力」（132 ページ）で［有効］に設定されているもののみ表示されます。

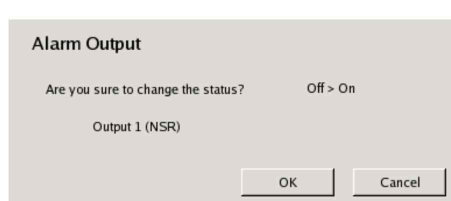
画面右上のオプションウィンドウの［▼］ボタンをクリックし、［6. アラーム出力状況一覧］をクリックすると、現在のアラーム出力の状況が一覧表示されます。



アラーム出力の On/Off を変更する

1 On/Off を切り替えたいアラーム出力名を選択して、ダブルクリックする。

以下のような画面が表示されます。



2　［OK］ボタンをクリックする。

選択時に On になっていたものは Off に、Off になっていたものは On に切り替わります。

センサー入力状況一覧

NSR やカメラのセンサー入力が On になっているか Off になっているかを確認できます。

メモ

「基本設定」画面の「センサー入力」（123 ページ）で［有効］に設定されているもののみ表示されます。

画面右上のオプションウィンドウの［▼］ボタンをクリックし、［7. センサー入力状況一覧］をクリックすると、現在のセンサー入力の状況が一覧表示されます。



VMD（レコーダー）状況一覧

動体検知が動作中かを確認できます。

メモ

「記録スケジュール」（138 ページ）で動体検知を行うように設定されていて、現在動作中のもののみ表示されます。

画面右上のオプションウィンドウの［▼］ボタンをクリックし、［8.VMD（レコーダー）状況一覧］をクリックすると、現在の動体検知の状況が一覧表示されます。



マニュアルトリガー

登録しているアクションを手動で起動します。
アクションの登録のしかたについては、「アクション」（133 ページ）を参照してください。

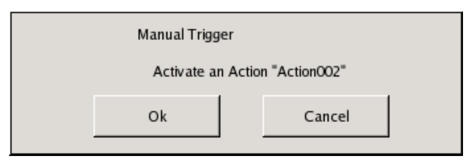
1 画面右上のオプションウィンドウの［▼］ボタンをクリックし、［9. マニュアルトリガー］をクリックする。

アクションの一覧が表示されます。



2 起動したいアクションを選択して、ダブルクリックする。

確認画面が表示されます。



3 ［OK］ボタンをクリックする。

指定したアクションが起動します。

基本設定 第5章

概要

NSR の各設定は、「基本設定」画面を操作して行います。
「基本設定」画面は、画面右上の［基本設定］ボタンをクリックすると表示されます。



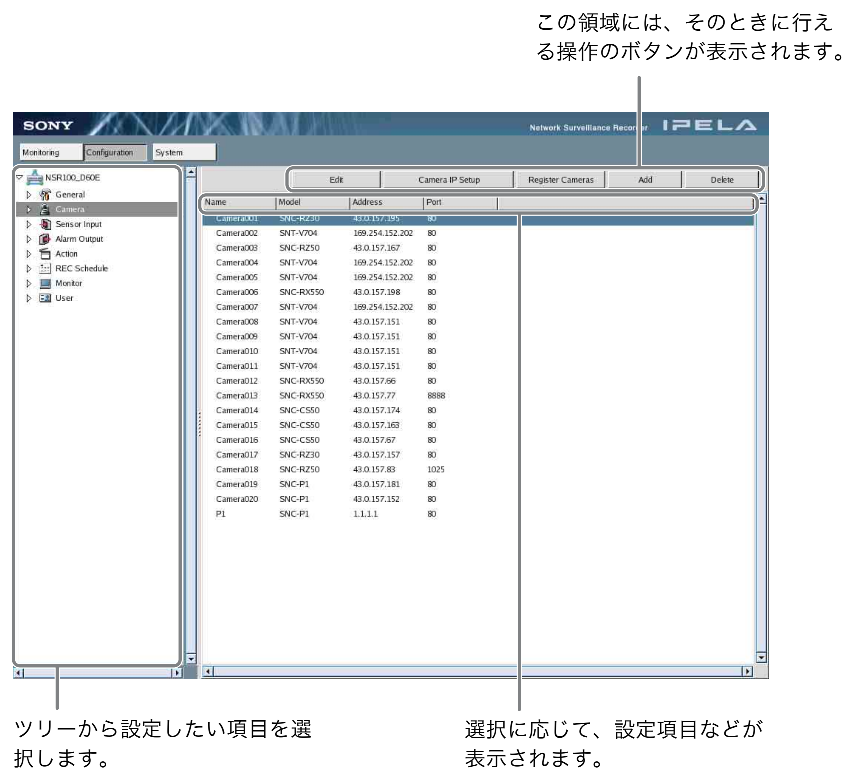
メモ
本機にモニターを 2 台接続している場合は、モニター 1 でのみ設定が行えます。

「基本設定」画面の基本操作

ここでは、「基本設定」画面共通の基本操作について説明します。
各設定の詳細については、「詳細設定」（83 ページ）を参照してください。

設定項目を選択する

左側の領域で設定したい項目を選択すると、右側の領域に設定項目などが表示されます。



詳細設定

「基本設定」画面には、以下の項目があります。

一般　：NSR に関する基本的な設定やストレージに関する設定などが行えます。

カメラ　：本機で管理するカメラの動作を詳細に設定したり、新規にカメラを登録したりすることができます。

センサー入力　：カメラや NSR のセンサー入力端子に関する設定が行えます。

アラーム出力　：カメラや NSR のアラーム出力端子に関する設定が行えます。

アクション　：アラーム発生などのイベントに応じた動作を設定できます。

記録スケジュール　：新規に記録スケジュールを作成したり、スケジュールの設定内容を変更したりすることができます。

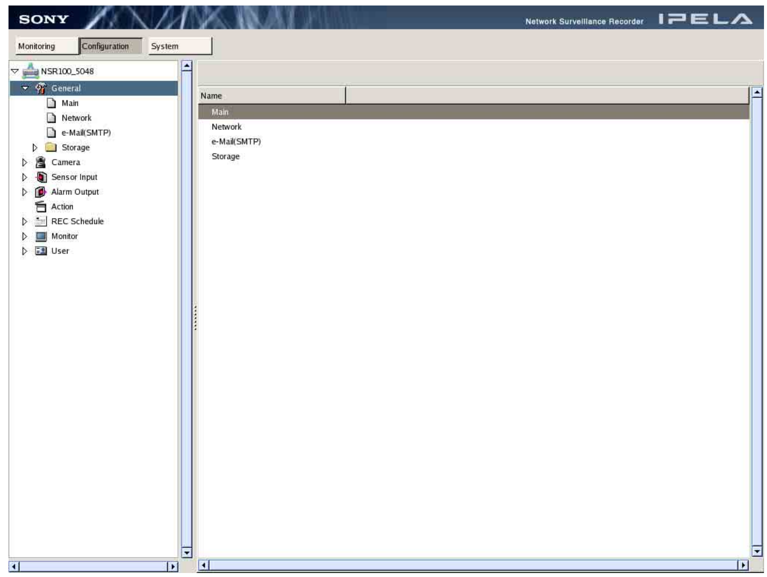
モニター　：モニターウィンドウ、モニターシーケンスの表示方法を設定できます。

ユーザー　：本機を使用するユーザーの登録や権限の設定などが行えます。

一般

「一般」では、NSR に関する基本的な設定が行えます。
画面左側のツリーから［一般］をクリックすると、「一般」画面が表示されます。
「一般」には、以下のサブメニューがあります。

- メイン
- ネットワーク情報
- メール（SMTP）
- ストレージ



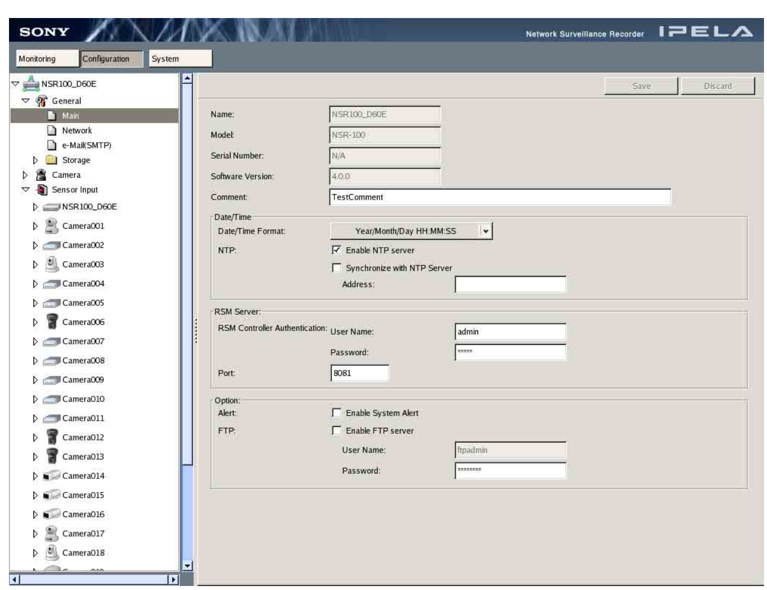
メイン

「メイン」では、本機の名前や日付、本機で使用する機能など、基本的な設定を行います。

1 「一般」画面のサブメニューから［メイン］をクリックする。

「メイン」画面が表示されます。
「メイン」画面には、現在の設定が表示されます。

2 各項目を設定する。



名前

本機の名前が表示されます。この項目は、「メイン」画面では変更できません。名前の変更は、セットアップメニューの「Host Name」画面で行います。詳しくは、「システムの設定を変更する」（23 ページ）を参照してください。

シリアル番号

本機のシリアル番号が表示されます。この項目は変更できません。

モデル名

本機のモデル名が表示されます。この項目は変更できません。

ソフトウェアバージョン

本機のソフトウェアのバージョンが表示されます。この項目は変更できません。

コメント

コメントを入力します（空白でもかまいません）。

日時

日時フォーマット：

［▼］ボタンをクリックし、表示される一覧から、年、月、日の表示順を指定します。

以下の 3 つのうちから指定できます。

- 年 / 月 / 日 時 : 分 : 秒
- 月 / 日 / 年 時 : 分 : 秒
- 日 / 月 / 年 時 : 分 : 秒

この設定は、NSR のアプリ上すべてに有効となります。

NTP：

NTP サーバーを有効にする

本機を時刻の同期の元とするときにチェックマークを付けます。

NTP サーバーと同期する

ほかの NTP サーバーを時刻の同期に利用するときにチェックマークを付けます。

ここにチェックマークを付けたときは、［アドレス］欄に NTP サーバーのアドレスを入力します。

RSM サーバー

RSM コントローラー認証：

RealShot Manager コントローラーから本機に接続する場合に指定するユーザー名とパスワードを設定します。

ポート：

RealShot Manager コントローラーなどから接続するためのポート番号を指定します。

オプション

アラート：

システムアラートを有効にする

カメラの VIDEO LOSS やディスク残量不足を通知する場合にチェックマークを付けます。

この機能を利用するには、カメラやストレージでのシステムアラートの通知設定が必要です。詳しくは、「カメラの動作を詳細に設定する」の「メイ

ン」（84 ページ）、「一般」の「ストレージ」（89 ページ）を参照してください。

FTP：

FTP サーバーを有効にする
FTP で記録画像ファイル（cam ファイル）または音声記録ファイル（aud ファイル）を取得する場合にチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、パスワードを設定します（ユーザー名は変更できません）。初めてチェックしたときは、必ずパスワードを設定する必要があります。

メモ

［日時フォーマット］および［RSM サーバー］設定の変更は、次回起動時に有効になります。

ご注意

NTP を利用する場合は以下に注意してください。
・NTP サーバーと時刻同期を行う場合は、「メイン」画面で［NTP サーバーと同期する］にチェックマークを付けた後、NSR を再起動する必要があります。なお、NSR の再起動時に NTP サーバーが正常動作している必要があります。
・DHCP を利用して NSR のアドレスを取得している場合で、かつ NTP の設定を有効にしている場合は、NSR と同じネットワークの DHCP サーバーから提供される NTP サーバーの情報が、NSR で設定した NTP サーバーの情報よりも優先されます。
・NSR の時刻を手動で設定すると、以降 NTP サーバーと時刻同期できなくなる可能性があります。
・セットアップメニューから NTP の設定を行った場合、「メイン」画面の［NTP サーバーを有効にする］にチェックマークが付いている場合がありますが、NTP の設定は「メイン」画面で行うことをおすすめします。
・［NTP サーバーと同期する］のチェックマークを外した場合、［アドレス］欄には「0.0.0.0」が入力されます。

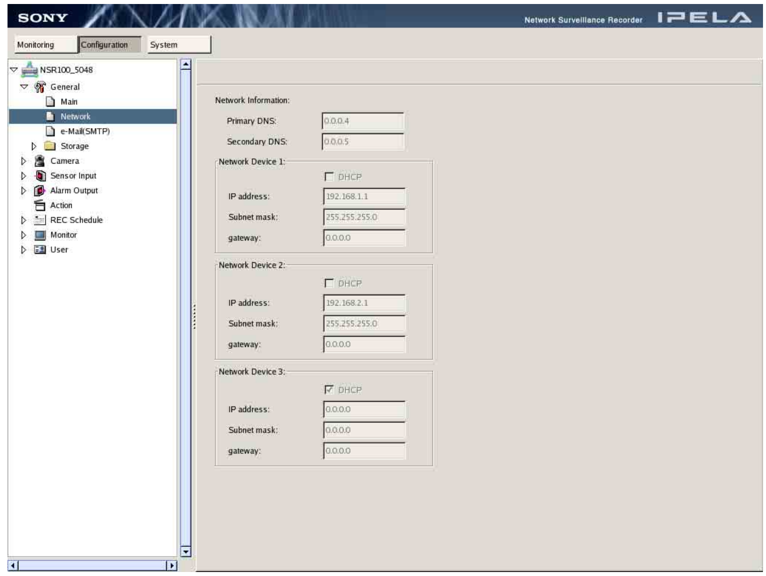
3 各項目を設定したら、画面右上の［保存］ボタンをクリックする。

設定が有効になります。
設定を変更しないで元に戻したいときは、［変更中止］ボタンをクリックします。

ネットワーク情報

「ネットワーク情報」では、本機のネットワーク設定を確認することができます。ネットワーク設定は、システム設定画面で行います。「ネットワーク情報」画面で設定を行うことはできません。システム設定画面については「システムの設定を変更する」（23 ページ）を参照してください。

「一般」画面のサブメニューから［ネットワーク情報］をクリックすると、「ネットワーク情報」画面が表示されます。



DNS

プライマリ DNS、セカンダリ DNS の設定情報を表示します。

ネットワークデバイス

それぞれのネットワークデバイスについて、以下の設定情報を表示します。

DHCP

DHCP 設定の場合、チェックボックスにチェックマークが付けられています。

IP アドレス

ネットワークデバイスの IP アドレスが表示されます。

サブネットマスク

ネットワークデバイスのサブネットマスクが表示されます。

ゲートウェイ

ネットワークデバイスのゲートウェイが表示されます。

メール（SMTP）

本機には、イベントが発生した場合に、あらかじめ登録されている SMTP クライアント宛にメッセージを通知する機能があります。
「メール（SMTP）」では、メールの宛て先など、メール送信に必要な設定ができます。

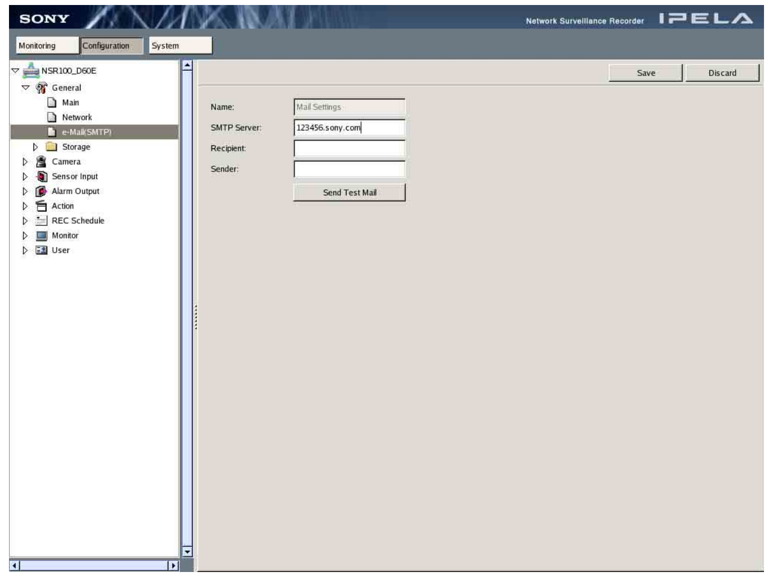
メモ

メールの送信を行うには、アクションの設定が必要です。詳しくは、「アクション」（133 ページ）を参照してください。

■ メール（SMTP）の設定を行うには

1 「一般」画面のサブメニューから［メール（SMTP)］をクリックする。

「メール（SMTP)」画面が表示されます。
「メール（SMTP)」画面には、現在の設定が表示されます。



2 各項目を設定する。

名前
メール（SMTP）設定の名前を表示します。

SMTP サーバー
SMTP サーバーのアドレスを入力します。

宛先
通知を受信するメールアドレスを入力します。

送信元
送信者のメールアドレスを入力します。

テスト送信
このボタンをクリックすると、テストメールが送信され、上記の設定が正しいかどうか確認できます。

メモ

- SMTP-AUTH、POP before SMTP などのユーザー認証、SSL などの暗号化、Proxy には対応していません。
- 本機では、以下の MTA（Mail Transfer Agent）で動作を確認しています。
  - sendmail
  - qmail
  - Microsoft Exchange Server
- 宛先、送信元には、それぞれメールアドレスを 1 つずつ入力してください。

3 各項目を設定したら、画面右上の［保存］ボタンをクリックする。

設定が有効になります。
設定を変更しないで元に戻したいときは、［変更中止］ボタンをクリックします。

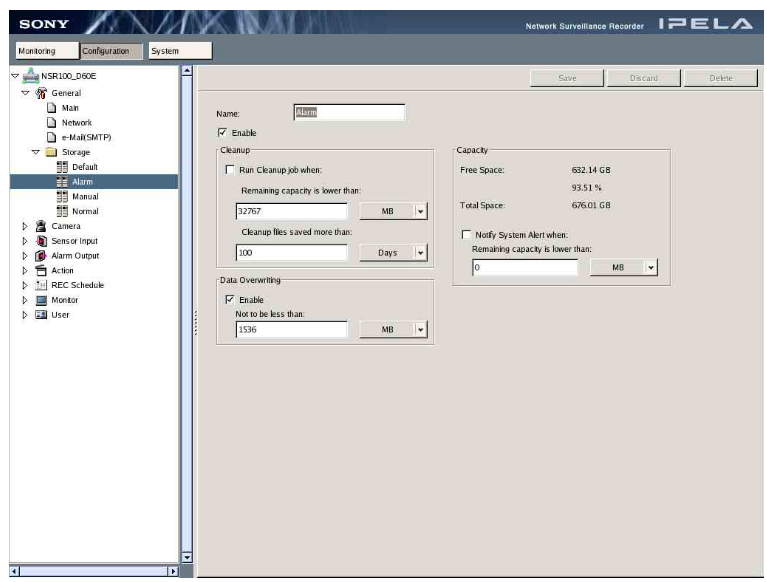
ストレージ

記録画像の保存場所の設定を行います。

■ ストレージの設定を変更する

1 「ストレージ」画面左側のツリーから、設定したいストレージをクリックする。

2 各項目を設定する。



名前
ストレージの名前を入力します。
あらかじめ、ストレージとして Default/Alarm/Normal/Manual が用意されています。なお、Default の名前は変更できません。

有効
ストレージを使用するときにチェックマークを付けます。

記録削除
この機能を有効にすると、ストレージの空き容量が指定の容量を下回りそうになったときに、保存日数に設定した日数が経過したすべての記録画像を削除します。

削除を実行する
チェックマークを付けると、この機能が有効になります。

残り容量条件
空き容量の最低限度を入力します。%または MB で指定します。

保存日数
記録画像を保持する日数を 1 〜 366 の範囲で入力します。記録されてからここで指定した日数までの間は、記録画像は消去されません。

データ上書き
この機能を有効にすると、ストレージの空き容量が指定の容量を下回りそうになると自動的に古いレコード内のファイルから削除し、ストレージの空き容量を確保します。

有効
チェックマークを付けると、この機能が有効になります。

ご注意

この設定を無効にしても、現在このストレージに記録中の場合は、記録が継続されます。無効に設定した後で、記録を開始した場合は、このストレージに記録することはできません。

最小値
空き容量の最低限度を入力します。%または MB で指定します。

メモ

本機では、各項目で設定した容量に加えて、約 12 GB が空くようにファイルが削除されます。例えば、最小値を 10 GB と設定した場合は、約 22 GB が空くように削除が実行されます。

容量
ストレージの容量が表示されます。
この項目は変更できません。

空き領域
空き領域をバイト単位および%で表示します。

合計サイズ
このストレージの総容量を表示します。

システムアラートの通知
ストレージの空き容量が指定の容量を下回りそうになったとき、ディスク残量不足のシステム警報を発生させます。
システム警報発生時の動作については、「アクション」画面 （133 ページ）で設定します。

メモ

- この機能を有効にするには、「一般」の「メイン」画面（84 ページ）で、［システムアラートを有効にする］にチェックマークを付けておく必要があります。
- 外部ストレージに対してシステムアラートの通知を設定しておくと、外部ストレージとの接続が切れたときにアラームを発生させることができます。

有効
チェックマークを付けると、この機能が有効になります。

残り容量条件
システムアラートを発生する容量の限度を入力します。%または MB で指定します。

3 各項目を設定したら、画面右上の［保存］ボタンをクリックする。

設定が有効になります。
設定を変更しないで元に戻したいときは、［変更中止］ボタンをクリックします。

ご注意

- 「記録削除」を設定する際は、保存しておきたい画像の容量がストレージに充分記録できることを見積もった上で日数を設定してください。
- 複数のストレージに対して上書き設定をすると、特定のストレージのカメラに偏って削除が実施されることがあります。上書き設定を 1 つにするか、事前にカメラに設定した画像のサイズと必要な保存期間から使用する容量を想定し、記録削除の設定をすることを強くおすすめします。
- 通常記録の記録データに対してデータ上書きが行われると、1 レコード内の複数のファイルが一度に削除されるため、特定のカメラの記録だけが一度に削除されてしまうことがあります。以下の設定にすることにより、複数カメラの記録データをより均一に削除することができます。
  - 通常記録の周期的なスケジュールで、1 日最低 1 秒の空白を入れる
    例）開始時刻：00:00:00　終了時刻：23:59:59

メモ

- 内蔵ハードディスクの記録容量で足りない場合は、外部ストレージによる拡張を行うことができます。ストレージの拡張については、お買い上げ店にお問い合わせください。
- NSR 本体には、以下のストレージが定義されており、削除できません。
  - Default
  - Alarm
  - Manual
  - Normal

  上記の 4 つのストレージは、実際には同一パーティション上の別々のディレクトリ（フォルダ）に記録されます。したがって、本体ストレージは、すべて空き容量や合計サイズが同一になり、削除や上書き設定はそれぞれのディレクトリ（フォルダ）に対して動作します。
- 本体ストレージでは、主に記録削除や上書きに関する設定を行い、記録画像の種類に応じた保存期間を設定できます。ただし、各ストレージに容量を割り当てることはできません。
- 各カメラの標準保存先は「Default」になります。カメラごとに保存先を変える場合は、「基本設定」画面の「カメラ」の「メイン」のストレージ設定で指定することができます。

以下は、4 つのストレージ設定例とその説明です。それぞれの目的に応じて、カメラのストレージ設定で記録タイプに応じた保存先ストレージを指定します。

設定例）
Default： 削除－ Disable、データ上書き－ Enable（20%）
Alarm： 削除－ Enable（30%、366 日間）、データ上書き－ Disable
Manual： 削除－ Enable（40%、7 日間 ）、データ上書き－ Disable
Normal： 削除－ Enable（50%、31 日間）、データ上書き－ Disable

説明）

Default：　保存先ストレージの残り容量が 20％以下になると、保存されている記録画像が古いものから削除されます。
容量に余裕がある場合に、保存しておきたい記録画像の保存先として設定します。

Alarm　：　保存先ストレージの残り容量が 30％以下になると、1 年以上前の記録画像が削除されます。
1 年以内に記録された画像が削除されることはありません。
1 年間は保存しておきたい記録画像の保存先として設定します。

Manual：　保存先ストレージの残り容量が 40％以下になると、1 週間以上前の記録画像が削除されます。
1 週間以内に記録された画像が削除されることはありません。
1 週間は保存しておきたい記録画像の保存先として設定します。

Normal：　保存先ストレージの残り容量が 50％以下になると、1 か月以上前の記録画像が削除されます。
1 か月以内に記録された画像が削除されることはありません。
1 か月は保存しておきたい記録画像の保存先として設定します。

カメラ

本機で管理するカメラを新規登録したり、カメラの動作を詳細に設定したりすることができます。

カメラの登録のしかたには、以下の 2 つがあります。
・カメラの IP アドレスまたはホスト名を指定して登録する。
・ネットワーク上のカメラを自動検索して、検出したものを一括登録する（ただし NSR と同一セグメントのネットワークに存在するカメラのみ）。
また、自動検出して一括登録する前に、IP アドレスを設定することもできます。

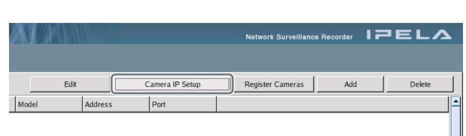
カメラを自動検出した後に IP アドレスを設定する（カメラ IP 設定）

カメラを自動検出した後、IP アドレスを設定することができます。
IP アドレスの設定後は、「カメラ一括登録」画面に移って一括登録を行うことができます。

ご注意

NSR に登録済みカメラに関しても IP アドレスの変更ができますが、その場合、NSR 上の登録情報（「カメラ」画面の「メイン」の設定）のアドレス設定を手動で更新する必要があります。更新しない場合、NSR はそのカメラに接続できなくなります。

1　「カメラ」画面を表示させ、画面上部の［カメラ IP 設定］ボタンをクリックする。

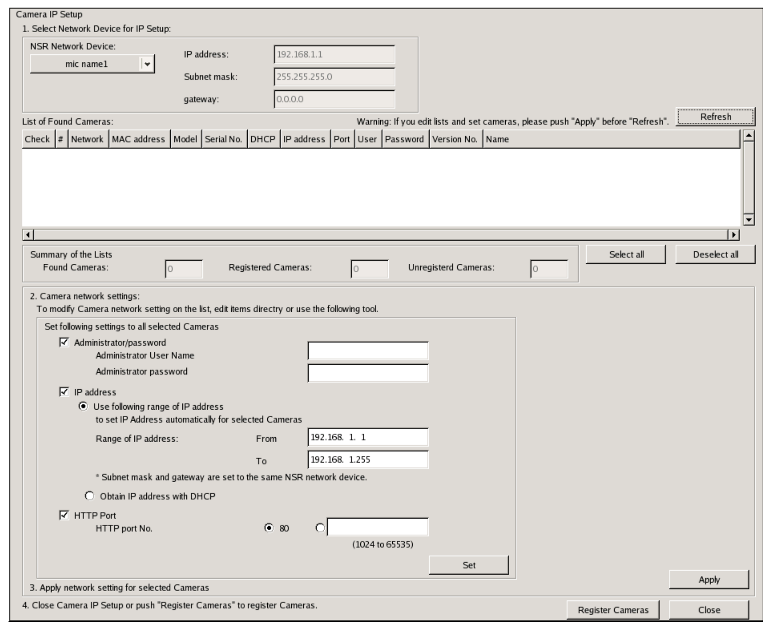


カメラの自動検索が行われ、「カメラ IP 設定」画面が表示されます。
「カメラ IP 設定」画面には、自動検索の結果が一覧表示されます。NSR のネットワークデバイスすべてに対する検索結果が表示されます。

メモ

- 再度自動検索を行う場合は、［更新］ボタンをクリックします。
- カメラサーバー（SNT シリーズなど）は、接続カメラ台数に関係なく 1 台のカメラサーバーとして検出されます。一括登録するときは、接続チャンネル別のカメラとして登録します。

2 IP アドレス設定を含む各項目を設定する。



NSR ネットワークデバイス

［▼］ボタンをクリックし、表示されたリストからネットワークポートをクリックすると、そのネットワークポートの IP 情報を表示します。

検出カメラ一覧

検出したカメラを一覧表示します。
リスト内容を更新する場合は、［更新］ボタンをクリックします。それまでに入力した値は、管理者のユーザー名とパスワードを除き、IP Setup プロトコルでの取得結果に置き換わります。
NSR に登録済みカメラについては、カメラ名を表示します。なお、NSR に登録済みカメラが、「カメラ」画面の「メイン」設定の「ネットワークアドレス」でホスト名を指定している場合、DNS より IP アドレスを解決した上で、検出したカメラの IP と比較して判断します。

チェック

IP アドレスを設定したいカメラにチェックマークを付けます。［すべて選択］ボタンをクリックすると、全選択できます。
登録済みカメラについても、IP アドレス変更をする場合はチェックマークを付けます。

番号
検出した順にカメラに連番を割り当てます。表示用に付けられただけのもので、特に優先順位などを示すものではありません。

ネットワーク
NSR のネットワークデバイス番号が表示されます。

MAC アドレス
カメラの MAC アドレスが表示されます。IP Setup プロトコルでの検出結果です。

モデル
カメラのモデル名が表示されます。IP Setup プロトコルでの検出結果です。

シリアル番号
カメラのシリアル番号が表示されます。IP Setup プロトコルでの検出結果です。

DHCP
自動検出後、カメラのネットワーク設定が DHCP の場合はチェックマークが付きます。IP アドレスを設定する場合は、チェックを外す必要があります。

IP アドレス
IP アドレスを設定します。自動検出後には、IP Setup プロトコルで検出した IP アドレスが表示されます。IP アドレスを設定する場合は、DHCP のチェックを外す必要があります。

メモ

IP アドレスは、リストの下にある「カメラ設定補助機能」で一括入力することができます。

ポート
カメラのポート番号設定を設定します。自動検出後には、IP Setup プロトコルで検出したポート番号が表示されます。

メモ

ポート番号は、リストの下にある「カメラ設定補助機能」で一括入力することができます。

ユーザー
カメラの管理者ユーザー名を設定します。

パスワード
カメラの管理者ユーザーのパスワードを設定します。

メモ

・ ここで設定したユーザー名とパスワードは、カメラへのアクセスに使用されます。IP アドレスやポートを設定する際に必要になります。

・管理者ユーザー名とパスワードは、リストの下にある「カメラ設定補助機能」で一括入力することができます。

バージョン No.

カメラのソフトウェアバージョンを表示します。IP Setup プロトコルでの検出結果が表示されます。

名前

登録済みカメラのカメラ名が表示されます。

サマリー

「検出したカメラ数」、「NSR に登録済みカメラ数」、「登録されていないカメラ数」が表示されます。

カメラ設定補助機能

複数のカメラに同一の設定値を入力する場合、設定値を一括して入力するための補助機能です。
一括入力のしかたは、以下のとおりです。

(1) 設定値を入力したいカメラの「チェック」欄にチェックマークを付ける。
(2) 一括入力したい「カメラ設定補助機能」の項目にチェックマークを付け、設定値を入力する。
(3) ［セット］ボタンをクリックする。
(1) でチェックマークを付けたすべてのカメラに設定値が一括入力されます。

「カメラ IP 設定」画面では、以下の項目について一括入力できます。

- **管理者／パスワード**

- **IP アドレス**
以下のどちらかの方法で指定します。

下記範囲の IP アドレスを選択したカメラに割り当てる

IP アドレスの範囲を指定して、自動的に割り当てます。リストの上方から順に割り当てていきます。
指定した範囲の IP アドレスがチェックしたカメラ数よりも少ない場合は、警告が表示され、割り当てを中止します。
また、範囲内に NSR 自身の IP アドレスが含まれていた場合は、その IP アドレスを避けて割り当てます。

DHCP により IP アドレスを割り当てる

DHCP サーバーから IP アドレスを割り当てます。

- **HTTP ポート**
カメラへのアクセス用のポート番号を指定します。
80 番、または 1024 から 65535 の範囲で指定できます。

3 ［適用］ボタンをクリックする。

IP アドレスの設定値をカメラに設定します。

メモ

サブネットマスクとデフォルトゲートウェイアドレスは、NSR の設定と同じ値がカメラに設定されます。

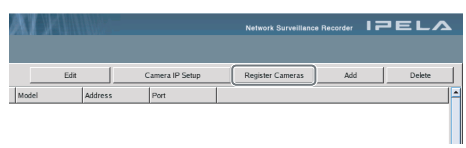
4 各項目の設定後、引き続き NSR への登録を行う場合は、［カメラ一括登録］ボタンをクリックする。

「カメラ一括登録」画面に遷移します。「カメラ IP 設定」画面で管理者やパスワードを入力していた場合、それらの情報は保持したまま遷移します。
「カメラ一括登録」画面の操作については、前項「ネットワーク上のカメラを自動検出して一括登録する」を参照してください。
一括登録しない場合は、［閉じる］ボタンをクリックして「カメラ IP 設定」画面を閉じます。

ネットワーク上のカメラを自動検出して一括登録する

カメラを自動検出し、そのままの IP アドレスで一括して NSR への登録を行います。カメラ名と管理者ユーザー名、パスワードは指定することができます。
なお、カメラを自動検出した後、登録を行う前にカメラの IP アドレスを設定する場合は、「カメラ IP 設定」で設定します。詳しくは、「カメラを自動検出した後に IP アドレスを設定する（カメラ IP 設定）」（92 ページ）を参照してください。

1 「カメラ」画面を表示し、画面上部の［カメラ一括登録］ボタンをクリックする。

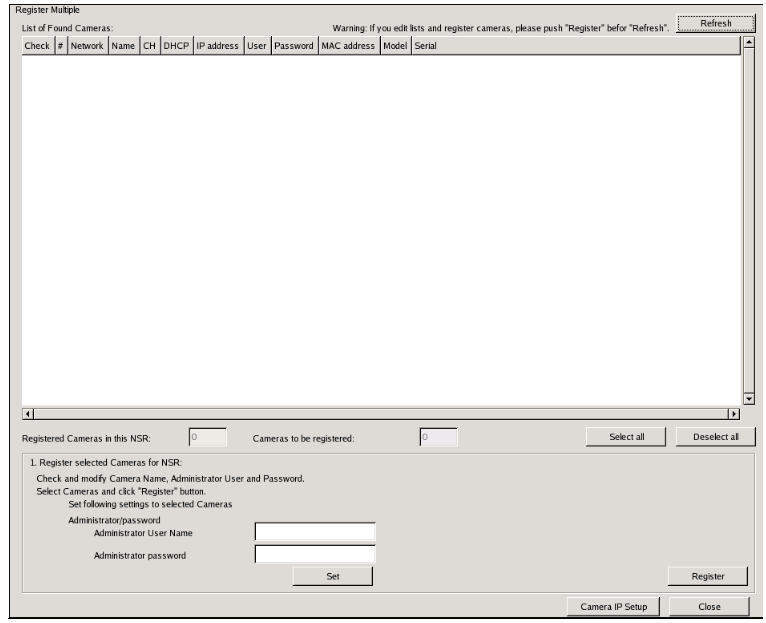


カメラの自動検索が行われ、「カメラ一括登録」画面が表示されます。
「カメラ一括登録」画面には、自動検索の結果が一覧表示されます。NSR のネットワークデバイスすべてに対する検索結果が表示されます。

メモ

自動検索を再度行う場合は、［更新］ボタンをクリックします。

2 各項目を設定する。



検出カメラ一覧
検出したカメラを一覧表示します。
リスト内容を更新する場合は、[更新] ボタンをクリックします。それまでに入力した値は、管理者のユーザー名とパスワードを除き、IP Setup プロトコルでの取得結果に置き換わります。
NSR に登録済みカメラは表示しません。なお、NSR に登録済みカメラが、「カメラ」画面の「メイン」設定の「ネットワークアドレス」でホスト名を指定している場合、DNS で名前解決を行った上で、検出したカメラの IP と比較して判断します。

チェック
登録したいカメラにチェックマークを付けます。[すべて選択] ボタンをクリックすると、全選択できます。

番号
検出した順にカメラに連番を割り当てます。表示用に付けられただけのもので、特に優先順位などを示すものではありません。

ネットワーク
NSR のネットワークデバイス番号が表示されます。

名前
カメラに割り振られた名前が表示されます。

CH
SNT-V704 などのように複数チャンネルがある場合、それぞれのチャンネルを別々のカメラとみなし、チャンネル番号を表示します。各チャンネルごとに登録する／しないを選択することができます。

DHCP
カメラのネットワーク設定が DHCP のときにチェックマークが付きます。この項目は変更できません。

IP アドレス
カメラの IP アドレス設定が表示されます。IP Setup プロトコルでの検出結果です。この項目は変更できません。

ポート
カメラのポート番号設定が表示されます。IP Setup プロトコルでの検出結果です。この項目は変更できません。

ユーザー
カメラの管理者ユーザー名を設定します。

パスワード
カメラの管理者ユーザーのパスワードを設定します。

メモ

- ここで設定したユーザー名とパスワードは、カメラへのアクセスに使用されます。
- 管理者ユーザー名とパスワードは、リストの下にある「カメラ設定補助機能」で一括入力することができます。

MAC アドレス
カメラの MAC アドレスが表示されます。IP Setup プロトコルでの検出結果です。この項目は変更できません。

モデル
カメラのモデル名が表示されます。IP Setup プロトコルでの検出結果です。この項目は変更できません。

シリアル番号
カメラのシリアル番号が表示されます。IP Setup プロトコルでの検出結果です。この項目は変更できません。

NSR 登録済みカメラ台数
NSR に登録されているカメラの台数を表示します。

登録候補カメラ台数
リスト上でチェックマークが付いているカメラ台数です。NSR に登録可能な残りカメラ台数よりも多い場合、赤く表示されます。このとき、［登録］ボタンは使用できなくなります。

カメラ設定補助機能
複数のカメラに同一の設定値を入力する場合、設定値を一括して入力するための補助機能です。
「カメラ一括登録」画面では、管理者ユーザー名とパスワードを一括入力できます。
一括入力のしかたは、以下のとおりです。
(1) 設定値を入力したいカメラの「チェック」欄にチェックマークを付ける。
(2) 「カメラ設定補助機能」の項目を入力する。
(3) ［セット］ボタンをクリックする。

3 登録前にカメラの IP アドレスを設定する場合は、［カメラ IP 設定］ボタンをクリックする。

「カメラ IP 設定」画面に遷移します。「カメラ一括登録」画面で管理者やパスワードを入力していた場合、それらの情報は保持したまま遷移します。
「カメラ IP 設定」画面の操作については、次項「カメラを自動検出した後に IP アドレスを設定する（カメラ IP 設定)」の手順 2 以降を参照してください。
IP アドレスを設定しない場合は、手順 4 に進みます。

4 各項目を設定したら、［登録］ボタンをクリックする。

「チェック」欄にチェックマークを付けたカメラが NSR に登録されます。

メモ

- 処理の際に登録台数の制限を超えているかどうかをチェックし、超えている場合はその旨を伝える警告メッセージを表示して処理を中止します。
- カメラ IP 設定で検出されたカメラサーバー（SNT シリーズなど）の場合、接続チャンネル別に登録候補としてリストアップされます。登録する必要のないカメラは、「チェック」欄のチェックマークを外してから登録を行ってください。後からチャンネルを追加することは可能です。

登録が終了すると、「カメラ一括登録」画面が更新されます。

5 ［閉じる］ボタンをクリックする。

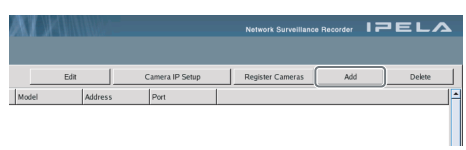
「カメラ一括登録」画面が閉じます。

カメラの IP アドレスまたはホスト名を指定して登録する

1 画面左側のツリーから［カメラ］をクリックする。

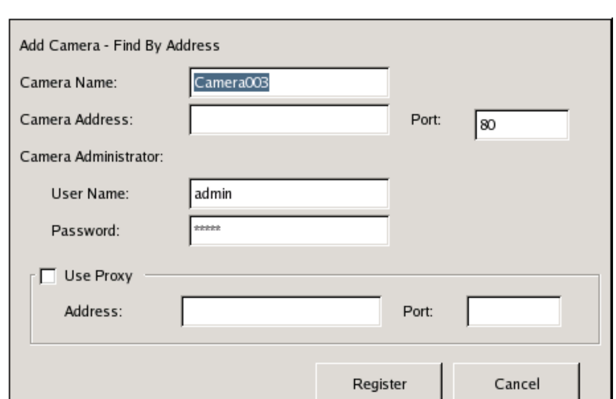
「カメラ」画面が表示されます。

2 画面右上の［追加］ボタンをクリックする。



カメラの追加画面が表示されます。

3 各項目を設定する。



カメラ名
追加するカメラに付ける名前を入力します。
使用できる文字は、英数字、_（アンダーバー）、－（マイナス）です。

カメラアドレス
カメラのホストアドレス（IP アドレス）を入力します。

HTTP ポート
カメラの HTTP サーバーのポート番号を入力します。デフォルトでは「80」が設定されています。

カメラ管理者
カメラの管理者を設定します。

ユーザー名
カメラの管理者の名前を 16 文字以内の半角英数字で入力します。

パスワード
カメラの管理者のパスワードを 16 文字以内の半角英数字で入力します。

プロキシ使用
プロキシサーバーを経由してカメラにアクセスする場合にチェックマークを付け、以下の項目を設定してください。

アドレス
プロキシサーバーのホストアドレス（ホスト名）を入力します。

ポート
プロキシサーバーのポート番号を入力します。

ご注意
本機からは、カメラの管理者名やパスワードの変更はできません。変更する場合は、パソコンの Web ブラウザから直接カメラにアクセスして行います。登録されているカメラの管理者名やパスワードを変更した場合は、本機のカメラ設定も変更する必要があります。

4 各項目を設定したら、［登録］ボタンをクリックする。

設定した内容でカメラに接続し、カメラが見つかると、そのカメラが登録されます。

ご注意
すでに登録されているカメラと重複する IP アドレスを指定した場合は、警告が表示され、登録できません。

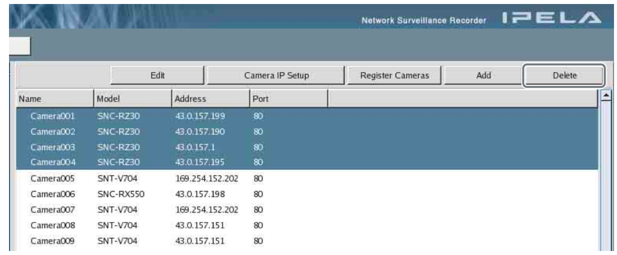
カメラを削除する

1 画面左側のツリーから［カメラ］をクリックする。

「カメラ」画面が表示されます。

2 削除するカメラを選択し、画面右上の［削除］ボタンをクリックする。

複数のカメラを削除するときは、Shift キーまたは Ctrl キーを押しながらカメラを選択します。



削除確認画面が表示されます。

3 ［OK］ボタンをクリックする。

カメラが削除されます。

メモ

カメラを削除した場合、レイアウトではモニターウィンドウが「No Camera」になります。デフォルトレイアウトの場合は、次にカメラを登録したときに空いているモニタウィンドウにカメラが割り当てられます。
一度登録したカメラを削除した場合、登録されている間に記録したデータは検索できなくなります。このとき記録データは削除されません。記録データはストレージの記録削除またはデータ上書きの条件に合致した時点で、削除対象となります。設定の詳細については、「詳細設定」の「一般」にある「ストレージ」（89ページ）を参照してください。

カメラの動作を詳細に設定する

カメラごとに、各種設定、プリセット、マスク、動体検知などを詳細に設定できます。

設定の基本操作

1 「カメラ」画面を表示し、左側のツリーで設定したいカメラをクリックする。

カメラの下に設定項目が表示されます。

2 設定したい項目をクリックし、右側の設定画面で設定する。

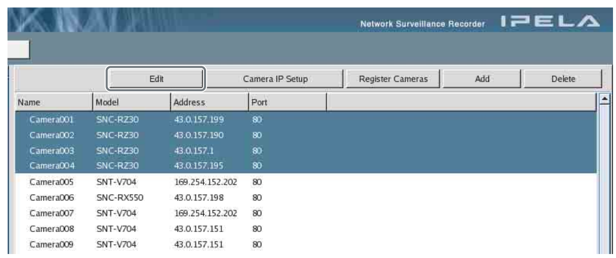
3 画面右上の［保存］ボタンをクリックする。

各項目の詳細については、以下のページを参照してください。
・メイン （102 ページ）
・プリセット （109 ページ）
・マスク （110 ページ）
・VMD（レコーダー）（112 ページ）
・VMF （116 ページ）

メイン

カメラの基本的な設定を行います。

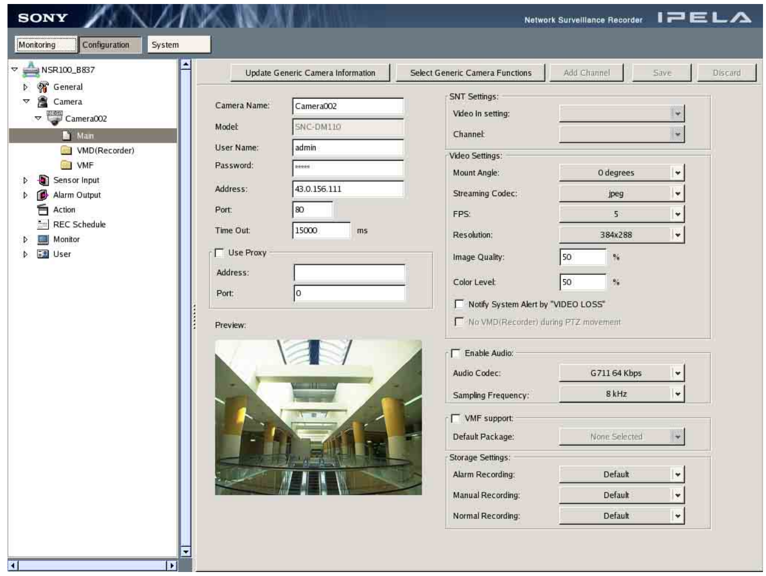
「メイン」画面の設定項目は、複数のカメラを同時に設定することもできます。その場合は、「カメラ」画面で、Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら複数のカメラを選択し、[編集] ボタンをクリックします。
また、カメラの登録時にカメラから各種情報を取得し、その情報を元に接続される「Generic Camera」を使用できます。Generic Camera では情報の取得方法や制御方法が統一されていますので、Generic Camera に対応しているカメラであれば今後発売されるカメラでもお使いいただけます。Generic Camera の設定方法については、「Generic Camera を使ってカメラの設定する」（106 ページ）をご覧ください。



メモ

1 つのカメラの設定を行う場合と複数のカメラを設定を同時に行う場合とでは、一部の設定項目が異なります。
複数のカメラの設定を行う場合は、設定項目によって以下のようになります。

・カメラごとに設定状態が異なる設定項目は、空欄になります。そのまま保存した場合は、各カメラの該当設定項目は変更されません。リストを選択しなおすか、数値を入力しなおすことにより、複数のカメラすべてに新しい設定値が設定されます。
・設定がチェックボックスの場合で、カメラごとに設定状態が異なるときは、チェックの状態が混在していることを示す－（マイナス）が表示されます。複数のカメラに対して共通の設定を行う場合は、再度クリックをしてチェックマークを付けるか、チェックマークを外してください。
・複数のカメラに対して共通の値が設定できない場合は、その設定項目は設定不可状態となります。選択するカメラの組み合わせを変更して設定を行ってください。



設定項目の詳細は以下のとおりです。

［Generic Camera 情報の再取得］ボタン

カメラから情報を取得します。

メモ

カメラのファームウェアが更新されたときなど、カメラ側の情報に変更があったときは、このボタンをクリックし、カメラの情報を再取得してください。その際、制御範囲が自動的に変更されることがありますので、再取得を行った後は、必ず全設定値を確認してください。

［Generic Camera 機能の選択］ボタン

Generic Camera で使用する機能の組み合わせを選択するための画面（107 ページ）が表示されます。

［チャンネル追加］ボタン

他のチャンネル用にカメラ設定を追加します。

カメラ名

- 1 つのカメラの設定を行う場合は、カメラの名前を入力します。
  使用できる文字は、英数字、_（アンダーバー）、－（マイナス）です。
- 複数のカメラの設定を同時に行う場合は、カメラ名がカンマで区切られて表示されます（カメラ名の編集はできません）。

モデル

カメラの名前が表示されます。

複数のカメラの設定を同時に行う場合は、カメラのモデル名がカンマで区切られて表示されます。

ユーザー名

カメラの管理者の名前を 16 文字以内の半角英数字で入力します。

パスワード

カメラの管理者のパスワードを 16 文字以内の半角英数字で入力します。

ネットワークアドレス

カメラの IP アドレスを入力します。
この項目は、複数のカメラの設定を同時に行う場合は表示されません。

HTTP ポート

カメラにアクセスするためのポート番号を入力します。

タイムアウト

カメラに対するアクセスのタイムアウトを秒単位で入力します。

プロキシ使用

プロキシサーバーを経由してカメラにアクセスする場合にチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、プロキシサーバーのアドレスとポート番号を設定してください。

SNT 設定

選択したカメラが SNT シリーズの場合に表示されます。SNT のモデルに応じた特有の設定を行います。
複数チャンネルを持つ SNT として登録されている場合、チャンネル指定をします。また各チャンネルのカメラを登録するためには、[チャンネル追加] ボタンをクリックして新たなカメラとして登録します。

カメラモデル選択

接続されているアナログカメラを選択します。
SNT-V304 の場合　：指定できません。

メモ

SNT-V704 の場合に表示される「New Protocol 1」～「New Protocol 5」は、将来のための予約項目です。

チャンネル選択

利用するチャンネルを選択します。
SNT-V704、SNT-V304 の場合：
Channel 1、Channel 2、Channel 3、Channel 4 から選択します。
SNT-V501 の場合　：Channel 1 固定です。変更はできません。

画像設定

カメラ画像を取得する場合のモニターや記録に関する設定を行います。

設置角度

カメラ画像の向きを設定します。0 度、90 度、180 度、270 度から選択します。

ご注意

VMF および Video Motion Detection（カメラ）では、90、270 degrees はサポートしておりません。VMF および Video Motion Detection（カメラ）を使用する場合は、必ず 0 または 180 degrees で使用してください。

ビデオコーデック
カメラの画像コーデックを設定します。JPEG または MPEG4 から選択します。

FPS
カメラの画像フレームレートを指定します。

画像サイズ
カメラの解像度を指定します。
カメラによっては、NTSC と PAL で実際に適用されるサイズが異なります。詳しくは、「カメラの画サイズについて」（174 ページ）をご覧ください。

画質
0 ～ 100%の間で設定します。

色彩度
0 ～ 100%の間で設定します。

システムアラート「VIDEO LOSS」の通知
カメラとのネットワーク接続が切れて画像が取得できなくなったとき、システムアラート（System Alert）として VIDEO LOSS を通知する場合にチェックマークを付けます。通知したときの動作については、「アクション」画面で設定します。

PTZ 動作中は VMD（レコーダー）を停止する
パン、チルト、ズームの動作による誤検知を防ぐため、パン、チルト、ズーム中は動体検知を停止するときにチェックマークを付けます。

音声を有効にする
カメラ音声を NSR が取得する場合に、チェックマークを付けます。
実際の音声をモニタリングするには、カメラ側のマイク入力が有効になっている必要があります。

ご注意

チェックマークを外して音声を無効にした場合は、音声を有効にしたときに記録された音声の再生もできません。再度チェックマークを付けて有効にすることにより、再生できるようになります。

音声コーデック
音声コーデックを指定します。
音声標準 G711（64 kbps）と G726（16/24/32/40 kbps）をサポートしています。

サンプリング周波数
サンプリング周波数を指定します。

VMF を使用する
VMF（Video Motion Filter）を使って、カメラ画像のメタデータによる Video Motion Detection を有効にするときにチェックマークを付けます。
VMF の設定については、「VMF」（116 ページ）を参照してください。

ご注意

- NSR は、VMF とそのカメラの Video Motion Detection（カメラ）を併用することはできません。ここにチェックマークを付けた場合は、そのカメラの Video Motion Detection（カメラ）の設定は無効になります。
- ライブ映像に対して同時に適用できる VMF パッケージは、1 つだけです。そのため、VMF によるアラーム記録スケジュールが実行されているときにこの設定を行うと、アラーム記録スケジュールのパッケージが、設定中のパッケージに置き換わってしまいます。

メモ

不動体検知では、開始時に約 40 秒の初期化時間が必要です。

標準パッケージ

使用する VMF パッケージを選択します。
標準パッケージは、スケジュールで VMF パッケージの設定が行われていない時間帯で使用されます。
［選択されていない］を選択し、かつスケジュールで VMF パッケージの設定が行われていない場合は、動体のメタデータを受信して記録することはできますが、モニタリング画面で表示することはできません。

ストレージ設定

このカメラが記録に使うストレージを記録タイプに応じて指定できます。

アラーム記録

アラーム記録時に、このカメラの記録画像が保存されるストレージを選択します。

マニュアル記録

マニュアル記録時に、このカメラの記録画像が保存されるストレージを選択します。

通常記録

通常記録時に、このカメラの記録画像が保存されるストレージを選択します。

ご注意

ストレージ設定を変更した場合は、変更後に記録を開始する記録から設定が反映されます。記録中のカメラのストレージ設定を変更しても、現在行われている記録については反映されません。

Generic Camera を使ってカメラの設定する

本バージョンの NSR では、カメラの登録時にカメラから各種情報を取得し、その情報を元に接続される「Generic Camera」を使用できます。Generic Camera では情報の取得方法や制御方法が統一されていますので、Generic Camera に対応しているカメラであれば今後発売されるカメラでもお使いいただけます。

メモ

本バージョンでは、Generic Camera バージョン 1 に対応しています。

Generic Camera を使用するときの流れ

Generic Camera の登録 / 設定は、ほかのカメラの手順と少し異なり、まず使用する機能の組み合わせを選択し、その後各種設定を行います。機能の組み合わせを選択した時点で、自動的に各項目で設定できる値の範囲が決まります。そのため、運用に合わせた機能の組み合わせを選択することが重要になります。

1　Generic Camera を登録する

↓

2　使用する機能の組み合わせを選択する

↓

3　各設定画面で、必要な設定を行う
設定が終わったら、必ず全設定値を確認してください。

↓

4　運用を開始する

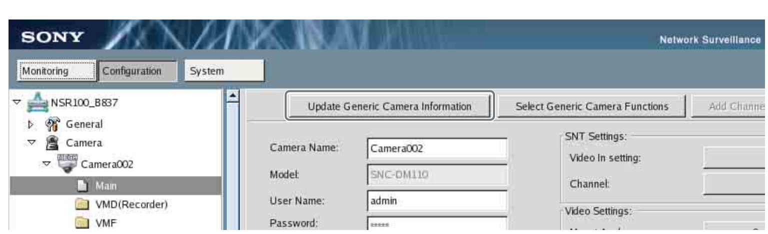
ご注意

・機能の組み合わせによっては、設定可能な値の範囲や項目が変わります。必ず運用に合わせた設定を行ってください。
　例 1）あるコーデックを使用すると動体検知ができない場合、そのコーデックを使用する組み合わせを選択すると、動体検知の設定ができなくなります。
　例 2）設定可能な値の範囲が 1 ～ 50 の機能を使用する組み合わせを選択した場合、カメラで設定可能な値の範囲が 1 ～ 100 であっても、各設定画面で選択できる範囲は 1 ～ 50 になります。
・必ず使用する機能の組み合わせを選択してから、各種設定を行ってください。設定を始めてから機能の組み合わせを選択したり変更すると、設定可能な値の範囲が変わり、先に設定した内容が別の値に変更されてしまう可能性があります。
　例）設定可能な値の範囲が 1 ～ 100 で 70 に設定し、その後組み合わせを変更したところ、設定可能な値の範囲が 1 ～ 50 に変わってしまい、設定値が 25 に変更されてしまった。
・設定を変更した後は、必ず運用前に全設定を確認してください。変更した値が設定可能範囲内であれば問題ありませんが、範囲外のときは自動的に範囲内の値に変更されます。

Generic Camera を使ってカメラの設定する

1 画面左側のツリーで、設定したいカメラの［メイン］を選択する。

2 「カメラ」画面上部の［Generic Camera 情報の再取得］ボタンをクリックする。



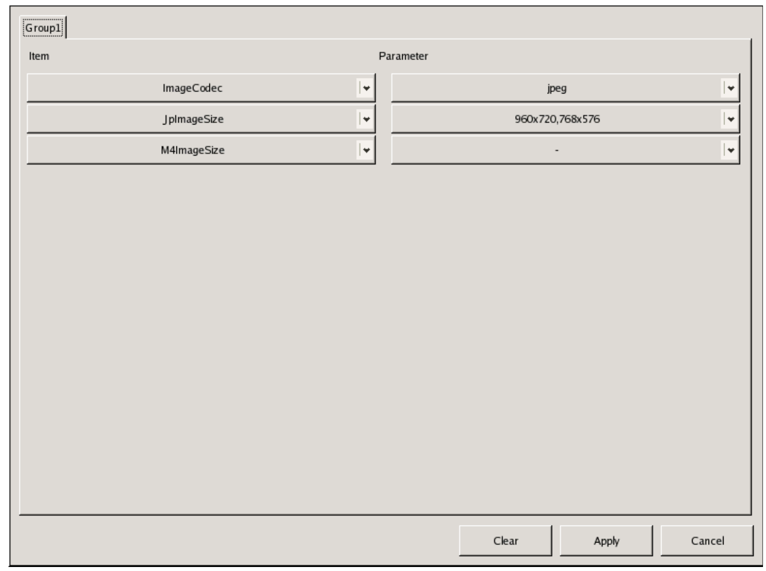
カメラから情報が取得されます。

3 ［Generic Camera 機能の選択］ボタンをクリックする。

Generic Camera で使用する機能の組み合わせを選択するための画面が表示されます。

4 左上から順に 1 行ずつ機能の組み合わせを選択し、［適用］をクリックする。

選択済みの行を変更すると、それより下の行が未選択の状態に戻ります。
ここで選択した組み合わせによって、各設定画面で設定できる値の範囲が決まりますので注意してください。



項目
設定したい機能を選択します。

パラメータ
設定値を選択します。

メモ
項目を選択した順番やパラメータによって、制御範囲が絞り込まれ、次の行で選択できる項目や値が変動します。

「メイン」画面に戻ります。

5 その他の項目を設定する。

必要に応じて、各画面でも設定を行います。

6 設定が終わったら、全設定をチェックし、適切な値が設定されているか確認する。

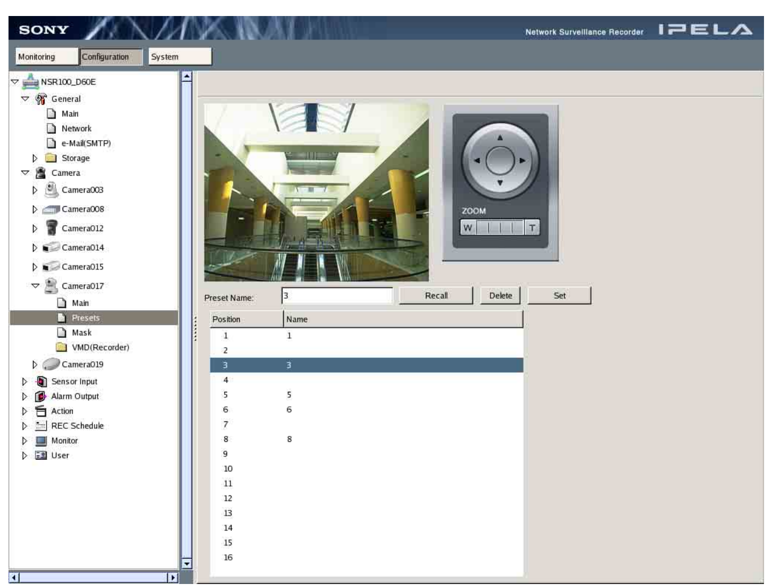
7 運用を開始する。

Generic Camera は、以下の機能に対応しています。

- コーデック
  JPEG と MPEG4 のみに対応しています。
- 画像サイズ
  以下の制限があります。
  横方向：1,280 ピクセル以下
  縦方向：960 ピクセル以下
  （縦長は不可）
- フレームレート
  30 fps まで対応しています。
- 画質
  JPEG の場合：カメラの画質が n レベルで構成されている場合、0 ～ 100% に 1 ～ n レベルが割り当てられます。
  MPEG4 の場合：本ソフトウェアの許容範囲は 2,048 kbps までです。カメラの設定可能範囲と 2,048 kbps までの値のうち、小さいほうが 0 ～ 100%に割り当てられます。
- カラーレベル
- Video Motion Detection（カメラ）
  検知枠数は 4 つまでになります。
- 動体 / 不動体検知メタデータ
- Sensor In/Alarm Out
  入力端子、出力端子とも 16 端子まで割り当てできます。
- 音声装置
- プリセット位置
  64 個まで設定できます。

プリセット

カメラのプリセット位置を設定します。
プリセット位置の設定機能を持つカメラのみ設定できます。プリセット位置設定ができないカメラの場合、「プリセット」画面の項目やボタンは選べません。



新規にプリセット位置を追加するには

1 「プリセット」画面を表示し、プリセット位置リストから未設定の（名前が付いていない）プリセット位置を選択する。

2 プレビューで画像を確認しながらパン／チルト、ズームを操作し、設定したい位置にカメラを動かす。

3 「プリセット名」欄に新しいプリセット位置の名前を入力する。

名前を入力しないと、プリセット位置は設定できません。

4 ［セット］ボタンをクリックする。

現在のカメラ位置がプリセット位置として保存されます。

プリセット位置の設定を変更するには

1 「プリセット」画面を表示し、設定を変更したいプリセット位置を選択する。

設定されているプリセット位置を確認する場合は、プリセット位置を選択して［リコール］ボタンクリックすると、カメラ位置がそこへ移動します。

2 パン／チルト、ズームを操作してカメラを動かし、位置を変更する。

3 ［セット］ボタンをクリックする。

変更したカメラ位置が保存されます。

プリセット位置の設定を削除するには

1 「プリセット」画面を表示し、削除したいプリセット位置を選択する。

2 ［削除］ボタンをクリックする。

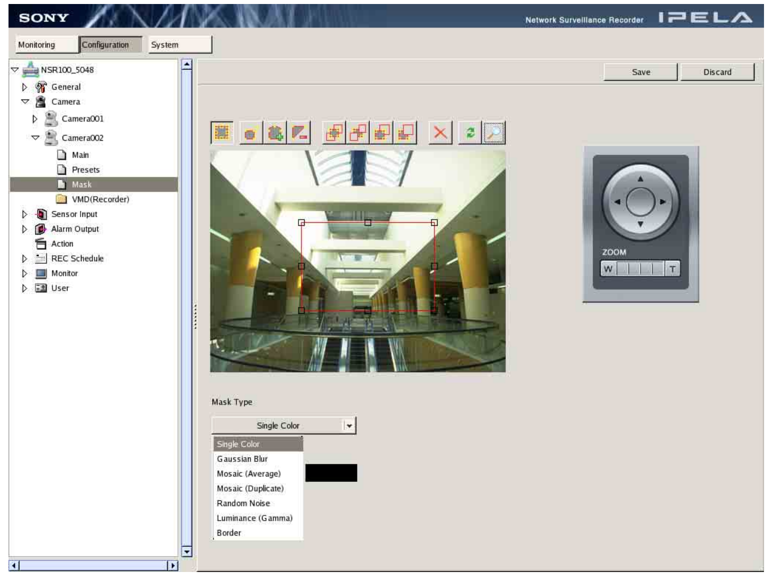
設定が削除され、プリセット位置リストから名前が消えます。

マスク

カメラにダイナミックマスクを設定します。複数のマスクを設定することができます。

ご注意

記録中のカメラに対してマスクを変更しても、現在行われている記録ファイルについては反映されません。マスクの設定を変更する場合は、記録を開始する前に行ってください。



1 「マスク」画面を表示する。

2 ［マスクの種類］でマスクのパターンを選択する。

マスクは、単色またはパターンで塗ることができます。
［▼］ボタンをクリックし、表示される一覧から［単色］またはパターンを選択します。

メモ

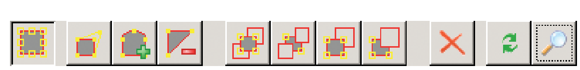
- ［単色］を選択したときは、表示されるダイアログでマスクの塗り色を選択します。
- ［ランダムノイズ］や［輝度（ガンマ）］などを選択した場合は、マスキングのレベルも設定できます。

ご注意

［ガウスぼかし］と［モザイク］では、ズームに応じてぼかしのサイズ（ピクセル）は変化しませんので、ズームを最大にして設定してください。ズームを最大にしないで設定し、マスクが読めないときは、ズームインすると読めるようになります。

3 プレビューで画像を確認しながらボタンを使ってマスクを作成・編集する。

ボタンとその機能



**(多角形の移動)**
マスクをドラッグして長方形のマスクを作成したり、マスクを移動するときに使います。

**(ポイントの編集)**
ポイントを追加／削除して、複雑な形状のマスクを作成するときに使います。

(ポイントの追加)
辺を特定の位置で分割するときに使います。
辺の上でクリックすると、マスクに編集ポイントが追加されます。

(ポイントの削除)
辺の数を 1 つ減らすときに使います。
編集ポイントの上でクリックすると、マスクの編集ポイントが削除されます。

(最前面に移動)
選択したマスクをマスクの重なりの一番上に移動します。

(最背面に移動)
選択したマスクをマスクの重なりの一番下に移動します。

(前面に移動)
選択したマスクをマスクの重なりの 1 つ上に移動します。

(背面に移動)
選択したマスクをマスクの重なりの 1 つ下に移動します。

(多角形の削除)
選択したマスクを削除します。

(画像のリフレッシュ)
すべてのマスクを含む静止画を更新します。

(プレビュー)
マスクを含むカメラのライブ画像を表示します。
設定したマスク領域がどのように表示されるかを確認できます。

4 パン、チルト、ズーム機能を備えたカメラの場合は、各ボタンを使ってカメラのパン／チルトやズームをコントロールし、設定した領域を隠すようにカメラが正しく移動するか確認する。

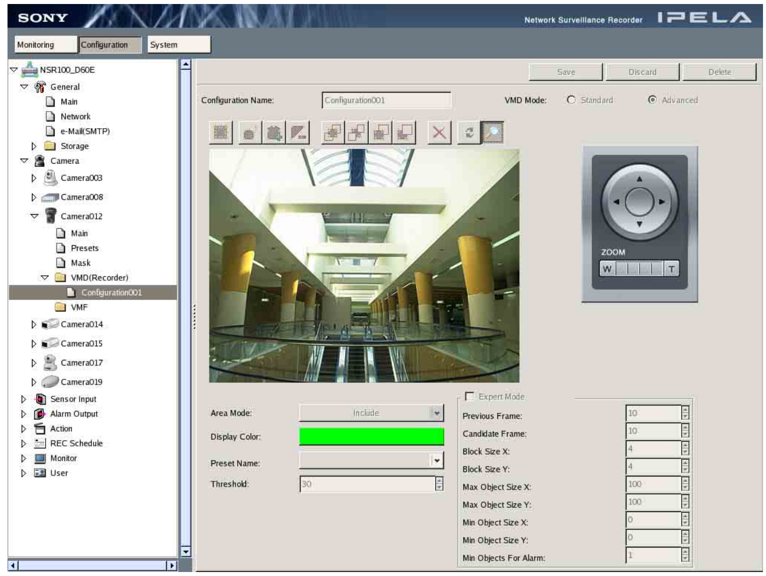
5 画面右上の［保存］ボタンをクリックする。

メモ

パン・チルトを持つカメラに対して設定したマスク領域は、パン・チルトまたはズーム操作を行うとずれる場合があります。マスクをかけたい対象物の周り上下左右に、画像サイズの 10％程度の余裕を持って設定してください。また、パン・チルト機能を持つカメラでマスクの設定を行う場合は、マスクをかける対象物がモニター画面の中央にくる状態にしてから行ってください。

VMD（レコーダー）

動体検知（Video Motion Detection（レコーダー））の設定をします。
動体検知の機能は、カメラと NSR に装備されています。本設定では、NSR で行われる動体検知の機能を設定します。
なお、カメラの動体検知機能を利用すると、NSR のシステム負荷を軽減できます。カメラの登録台数や記録・モニタリングの運用形態に応じて、どちらのモードを利用するか決めてください。カメラの動体検知の設定については、「Video Motion Detection（カメラ）端子を設定する」（126 ページ）を参照してください。



1 「VMD（レコーダー）」画面を表示し、画面右上の［追加］ボタンをクリックする。

VMD（レコーダー）の設定画面が表示されます。

2 ［設定名］に領域設定に付ける名前を入力する。

3 VMD モードを選択する。

モードによって性能に違いがあるため、利用環境を確認してから設定してください。

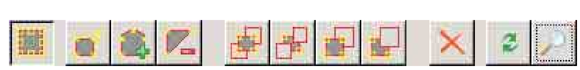
- 高性能モードに比べて標準モードの方が、同時により多くのカメラの動体検知を行えます。
- 高性能モードの方が検知精度が優れています。
- VMD モードを変更した場合、［比較画像枚数］と［検知判定回数］には各モードのデフォルト値が設定されますので、ご注意ください。
- コーデックが MPEG4 の場合は、高性能モードのみサポートしています。

ご注意

標準モードに設定されているカメラのコーデックを MPEG に変更した場合、VMD モードは高性能モードに変更されます。また、比較画像枚数と検知判定回数は、高性能モードの初期値に設定されます。

4 プレビューで画像を確認しながらボタンを使って動体検知領域を作成・編集し、各項目を設定する。

ボタンとその機能



 **(多角形の移動)**

領域をドラッグして長方形の領域を作成したり、領域を移動するときに使います。

(ポイント編集)
ポイントを追加／削除して、複雑な形状の領域を作成するときに使います。

(ポイント追加)
辺を特定の位置で分割するときに使います。辺の上でクリックすると、領域に編集ポイントが追加されます。

(ポイント削除)
辺の数を 1 つ減らすときに使います。編集ポイントの上でクリックすると、領域の編集ポイントが削除されます。

(最前面に移動)
選択した領域を重なりの一番上に移動します。

(最背面に移動)
選択した領域を重なりの一番下に移動します。

(前面に移動)
選択した領域を重なりの 1 つ上に移動します。

(背面に移動)
選択した領域を重なりの 1 つ下に移動します。

(多角形の削除)
選択した領域を削除します。

(画像のリフレッシュ)
すべての領域を含む静止画を更新します。

(プレビュー)
動体検知領域を含むカメラのライブ画像を表示します。
設定した領域でどのように表示されるかを確認できます。

設定項目

検知領域モード

[▼] ボタンをクリックし、表示される一覧から設定領域の内側を検知するか、外側を検知するかを選択します。
設定領域内の動体を検知するときは [矩形領域内] を、すべての設定領域の外側の動体を検知するときは [矩形領域外] を選択します。

表示色

[表示色] ボックスをクリックし、表示されるダイアログで動体検知領域の塗り色を選択します。

プリセット名

[▼] ボタンをクリックし、表示される一覧から領域設定に含まれるカメラのプリセット位置を選択します。
この項目を設定すると、動体検知が開始されたときに、指定したプリセット位置にカメラが移動します。

しきい値

動体を検知するしきい値を 1 ～ 100 の範囲で設定します。

この値は、動体検知プロセッサーが、フレーム間に動体があったかどうかを判断するための基準値として使用されます。

エキスパートモード
領域を詳細に設定するときにチェックマークを付けます。
チェックすると、以下の項目を設定できます。

比較画像枚数
物体が移動したと判断するために、比較する元となる画像の数をフレーム数で指定します。
指定されたフレームを使用して、検知する候補となるフレームの選出とノイズの除去を行います。

ご注意
この枚数が多くなると、ノイズの除去をしやすくなりますが、処理の負荷が増すため、メモリーの使用量が増加し処理速度が遅くなります。

検知判定回数
この値を元に、動体候補が動体と検知されるために必要な判定回数が設定されます。ここで設定する値は、動体候補が動体と検知されるために必要な判定回数のパラメータになります。

検知単位（横画素数）
検知しようとする領域の横の長さを、画素数（ピクセル数）で指定します。

検知単位（縦画素数）
検知しようとする領域の縦の長さを、画素数（ピクセル数）で指定します。

最大動体矩形（横%）
検知しようとする領域の横の長さの最大値を、%で指定します。

最大動体矩形（縦%）
検知しようとする領域の縦の長さの最大値を、%で指定します。

最小動体矩形（横%）
検知しようとする領域の横の長さの最小値を、%で指定します。

最小動体矩形（縦%）
検知しようとする領域の縦の長さの最小値を、%で指定します。

アラーム動体矩形数
アラームを通知するための動体矩形の数を指定します。

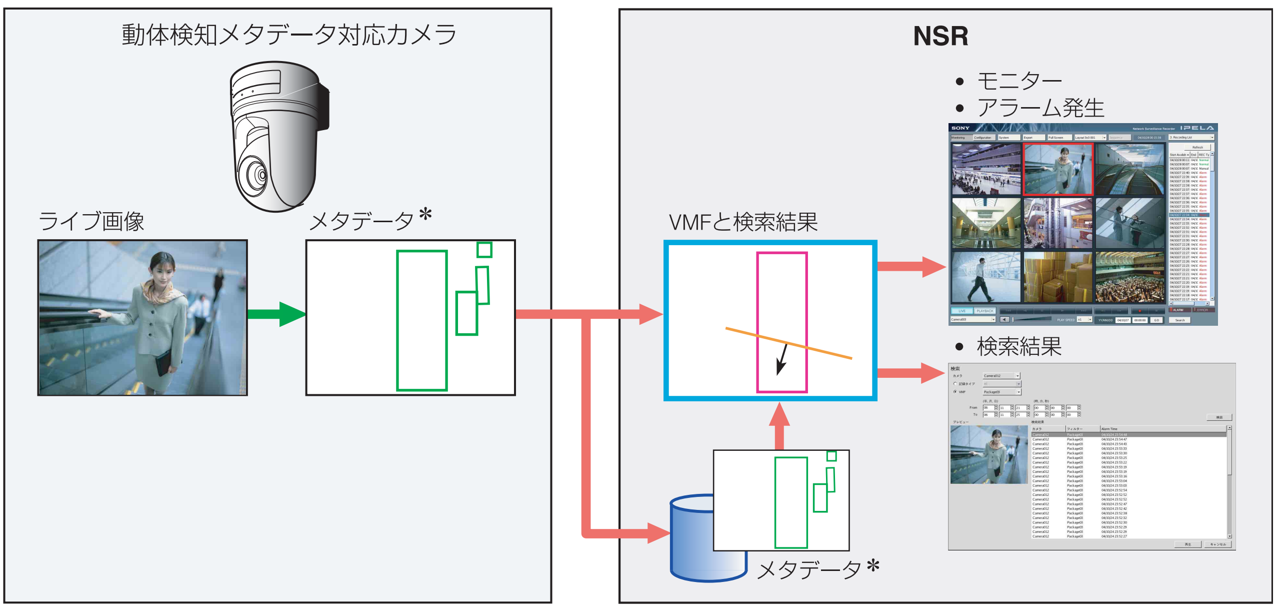
5 パン、チルト、ズーム機能を備えたカメラの場合は、各ボタンを使ってカメラのパン／チルトやズームをコントロールし、設定した領域をカメラが正しく移動するか確認します。

6 各項目を設定したら、画面右上の［保存］ボタンをクリックする。

VMF

動体検知メタデータ対応カメラの場合に、メタデータによる動体検知に使用するVMF（Video Motion Filter）に関する設定を行います。
VMF とは、カメラ内で生成された動体に関するメタデータから特定の現象を検出するするためのフィルターです。
VMF には、動体用と不動体用があり、3 つまでの VMF を 1 つにまとめて VMF パッケージとして管理されます。組み合わせには、順番に現象が発生することをとらえる順序型と、どれか 1 つのフィルターでも成立すればアラームとなる独立型があります。

カメラ画像のメタデータによる動体検知の概念



＊メタデータには、時間やカメラ情報、動体の位置、種類、状態などが書かれています。

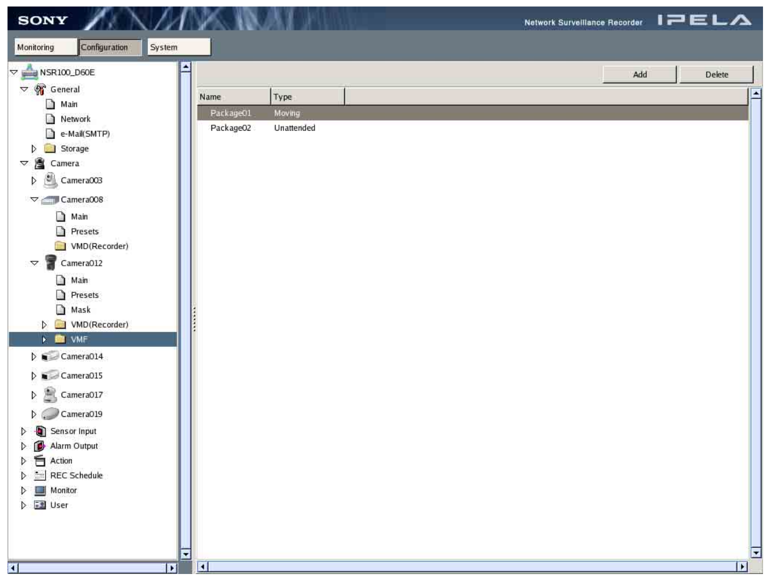
メモ

- ［VMF］は、動体検知メタデータ対応カメラの場合にのみ表示されます。
- VMF を設定するには、「一般」の「メイン」画面（102 ページ）で、［VMF を使用する］にチェックマークを付けておく必要があります。
- メタデータを使用して動体、不動体検知を行う場合は、動体検知メタデータに対応しているカメラが必要です。
- 動体検知用 VMF の［存在］タイプでは、オブジェクトを検知した後、オブジェクトが存続する限りアラーム状態が保持されるため、この状態で 2 つ目のアラームが発生しても、アラーム記録の開始は行われません。2 つ目のアラームを記録したい場合は、スケジュールの設定で［アラーム終了点］（142 ページ）を選択してください。これにより、アラーム中のすべてが記録されるため、2 つ目のアラームも記録されるようになります。
- 不動体のメタデータの処理では、不動体として認識された状態は約 3 時間保持されますが、VMF によって検出された状態は約 10 秒で解除されます。
- 1 つのカメラのライブ映像に対する処理に関して、VMF パッケージは、同時には、1 つのみ適用されます。
- メタデータの記録では、その時点で適用されている VMF を元に、動体検知用メタデータか不動体検知用メタデータかが選択されます。判断の優先順位は、次のようになります。

① スケジュールに指定されているものがある場合は、その VMF パッケージが動体用か不動体用かによって判断されます。
② VMF パッケージが指定されていない場合は、標準パッケージを元に判断されます。
③ 標準パッケージも指定されていない場合は、動体検知用メタデータとして記録されます。

ご注意

不動体検知では、開始時に約 40 秒の初期化時間が必要です。また、動きを止めてから約 40 秒経過した検知物が不動体とみなされます。これらの時間は、状況によって延長されます。



1 「VMF」画面を表示し、画面右上の［追加］ボタンをクリックする。

「VMF パッケージの追加」画面が表示されます。

2 動体用のパッケージを追加するか、不動体用のパッケージを追加するかを選び、［OK］ボタンをクリックする。



一覧にパッケージが追加され、VMF を設定する画面が表示されます。

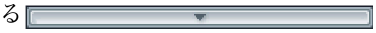
メモ

このとき、パッケージ名は自動的に作成されます。

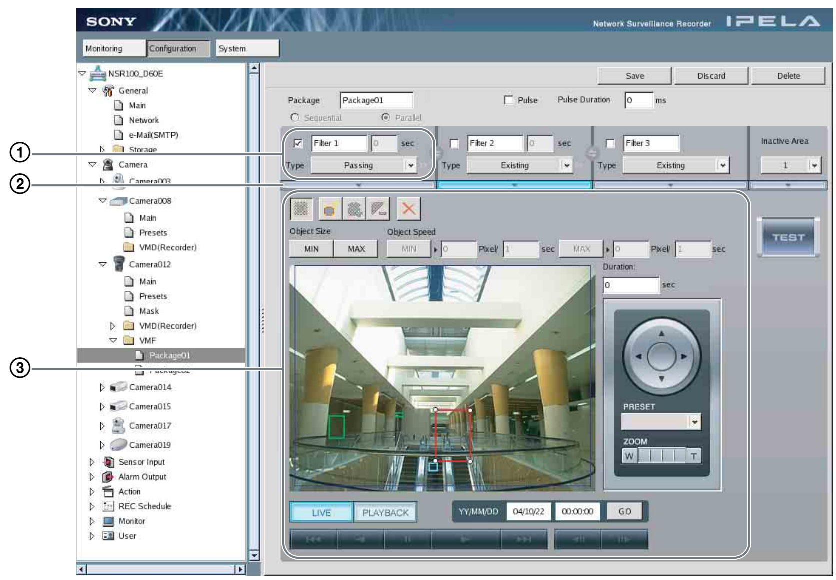
3 各項目を設定する。

VMF パッケージは、パッケージが所有する 3 つのフィルター（検出条件）のコンビネーションと各フィルターの詳細設定、パッケージが所有する 6 つの非検知エリアの設定で構成されます。
フィルターと非検知エリアは、以下の手順で設定します。

(1) フィルター名とフィルタータイプを設定する（①）。

(2) ①のエリアの下にある （②）をクリックし、③のエリアで条件を設定する。

条件を設定するときは、必ず目的のフィルターまたは非検知エリアの下にある  をクリックしてください。
（オフ）をクリックすると、
（オン）に変わり、条件を設定できるようになります。



パルス設定

パルス間隔を指定して入力したいときに設定します。

パルス

パルス間隔を指定して入力したいときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、次の［パルス間隔］を入力します。

パルス間隔

入力がオンになってから、オンの状態を持続させる期間をミリ秒単位で入力します。
信号の仕様については、カメラとセンサーの取扱説明書を参照してください。

順序型

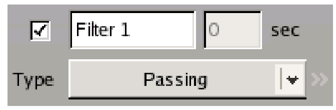
順番にフィルターを適用して、特定の現象を検出するときに選択します。
フィルターは、左から順に適用されます。
ここを選択したときは、フィルターを適用する順番や時間を設定します。
不動体検知のパッケージを設定するときは、［順序型］は設定できません。

独立型

すべての条件を同時に適用して、特定の現象を検出するときに選択します。

ご注意

［順序型］と［独立型］を切り替えるには、各フィルターと非検知エリアの がすべてオフになっている必要があります。ボタンが （オン）になっているときは、クリックして （オフ）に切り替えてください。



このフィルターを有効にするときは、フィルター名の先頭にチェックマークを付けます。

フィルター名

フィルター名を入力します。



［順序型］を選択した場合に、左側のフィルターを適用している時間（次のフィルターに移行するまでの時間）を秒単位で入力します。

ご注意

時間を設定するには、各フィルターと非検知エリアの がすべてオフになっている必要があります。ボタンが （オン）になっているときは、クリックして （オフ）に切り替えてください。

タイプ

［▼］ボタンをクリックし、表示される一覧からフィルタータイプを選択します。フィルターは、パッケージタイプ（「動体用」または「不動体用」）によって設定できる種類が異なります。

■動体用

出現

条件に合致する物体が設定したエリア内に出現したことを検出します。

消失

条件に合致する物体が設定したエリア内から消えたことを検出します。

存在

条件に合致する物体が設定したエリア内に滞留していることを検出します。

数量

条件に合致する物体の数が設定したエリア内で指定数を超えたことを検出します。

通過

条件に合致する物体が設定したラインを通過したことを検出します。

■不動体用

不動体／持ち去り

不動体または物体が持ち去られたことを検出します。



左右のフィルターの順番を入れ替えます。



プレビューで画像を確認しながらボタンを使ってフィルターや非検知エリアを作成・編集する。

メモ

- 八角形までの凸型の多角形を設定できます。
- フィルタータイプが［通過］のときは、物体の通過を検知する方向を設定します。終点を設定した後、ラインの中点付近をクリックし、方向を示す矢印を表示させて設定します。矢印の向きは、クリックするたびに、双方向→右向き→左向き→双方向…と変わります。

 **（多角形の移動）**
図形をドラッグして長方形の図形を作成したり、図形やラインを移動するときに使います。

 **（ポイントの編集）**
ポイントを追加／削除して、複雑な形状の図形やラインを作成するときに使います。

 **（ポイントの追加）**
辺を特定の位置で分割するときに使います。
辺の上でクリックすると、図形やラインに編集ポイントが追加されます。

 **（ポイントの削除）**
辺の数を 1 つ減らすときに使います。
編集ポイントの上でクリックすると、図形やラインの編集ポイントが削除されます。

 **（多角形の削除）**
選択した図形やラインを削除します。

対象サイズ

検知する物体の大きさを設定します。

MIN

検知する物体の最小の大きさを設定します。
設定画面上に表示される水色の枠をマウスでドラッグし、大きさを変更してください。

MAX

検知する物体の最大の大きさを設定します。
設定画面上に表示される青色の枠をマウスでドラッグし、大きさを変更してください。

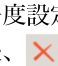
対象速度

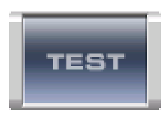
検知する物体の速度を設定します。



［MIN］をクリックし、検知する物体の最小速度を入力します。
設定画面上をマウスでドラッグして線分を描くと、［pixel］欄に数値が入力されます。その距離を何秒で移動するかを設定してください。
また、初期状態では、最小速度はシステム上の最小値に設定されています。一度設定を変更した後に最小値に戻す場合、速度を示す図形をクリックした後、 をクリックしてください。



［MAX］をクリックし、検知する物体の最大速度を入力します。
設定画面上をマウスでドラッグして線分を描くと、［pixel］欄に数値が入力されます。その距離を何秒で移動するかを設定してください。
また、初期状態では、最大速度はシステム上の最大値に設定されています。一度設定を変更した後に最大値に戻す場合、速度を示す図形をクリックした後、 をクリックしてください。



（プレビュー）

設定したパッケージを用いたフィルタリングを実行し、動作を確認するときに使います。

期間（フィルタータイプが［存在］、［不動体／持ち去り］の場合）

フィルタータイプが［存在］の場合は、物体が動体として認識されてからアラームが発生するまでの時間を入力します。初期値は 0 です。
［不動体 / 持ち去り］の場合は、不動体であると認識された時点から、アラームが発生するまでの時間を入力します。

メモ

物体が不動体として認識されると、約 3 時間、不動体状態が保持され、検知枠が表示され続けます。

対象数（フィルタータイプが［数量］の場合）

設定したエリア内に物体が何個以上検知されたときにアラームを発生させるかを入力します。

判定部分（フィルタータイプが［通過］の場合）

［▼］をクリックし、表示される一覧から物体の重心、またはどの辺の中心がラインを越えたときにアラームを発生させるかを選択します。

［LIVE］ボタン

カメラのライブ映像を表示させるときにクリックします。

このボタンをクリックすると、「カメラコントロール」パネルが表示されます。



パン、チルト、ズーム機能を備えたカメラの場合は、各ボタンを使ってカメラのパン、チルトやズームをコントロールし、エリアを設定しやすいようにカメラの向きやをズームを変えたり、設定したエリアをカメラが正しく移動するか確認するときに使います。

［PRESET］ボタン

カメラをプリセット位置に移動させるときは、［▼］をクリックし、表示される一覧からプリセットを選択します。

ご注意

ここでできるのは、カメラをプリセット位置に移動することだけです。VMF パッケージをプリセット位置ごとに設定することはできません。

［PLAYBACK］ボタン

カメラに保存されている記録データの画像を表示させるときにクリックします。
このボタンをクリックすると、再生操作ボタンとクイックサーチボタンが表示されます。



記録を再生するときに使います。
各ボタンについては、「「モニタリング」画面（モニター 1）」の「14 再生操作ボタン」（54 ページ）を参照してください。



記録画像の再生位置を日時で指定し、クイックサーチするときに使います。
詳しくは、「クイックサーチ」（66 ページ）を参照してください。

4 各項目を設定したら、画面右上の［保存］ボタンをクリックする。

センサー入力

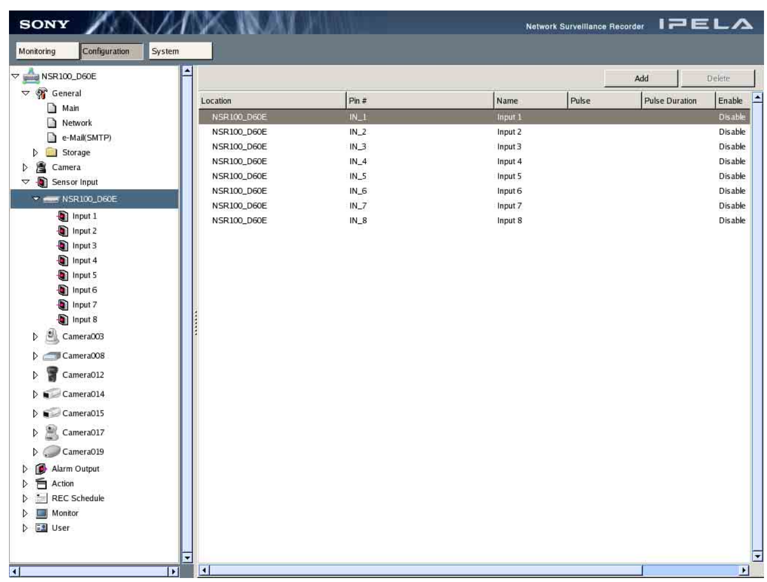
「センサー入力」では、NSR およびカメラ本体のセンサー入力端子や、Video Motion Detection（カメラ）端子に関する設定が行えます。

NSR にセンサー入力端子を追加する

NSR に論理的なセンサー入力端子を追加することにより、外部機器との連携を行うことができます。追加したセンサー入力端子の操作（オン / オフ）を外部機器から行うことにより、それをトリガーにした記録やアクションが行えます。

1 画面左側のツリーから［センサー入力］をクリックする。

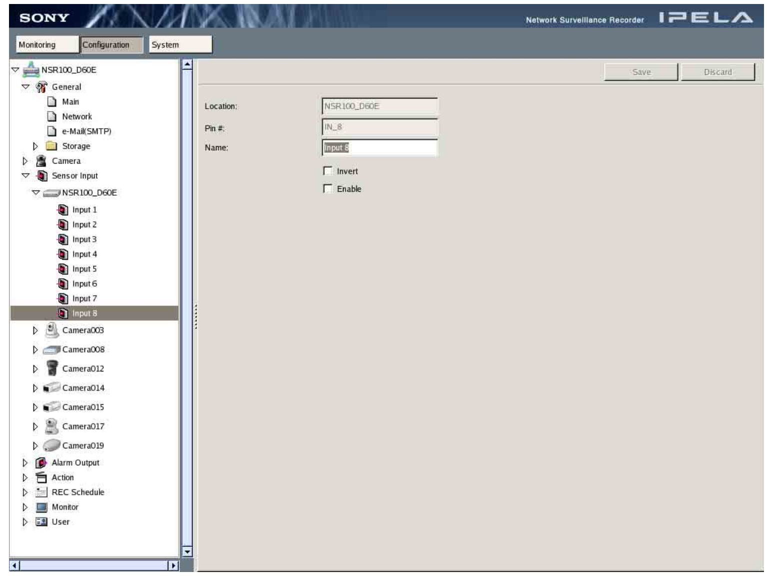
2 ［センサー入力］の下位にある NSR 本体を選択する。



3 ［追加］ボタンをクリックする。

「センサー入力」画面が表示されます。

4 項目を設定する。



名前
センサー入力端子の名前を入力します。

信号反転
パルスの極性を反転させる場合に選択します（例えば、高→低を低→高に反転させるとき）。

有効
センサー入力端子を使用するときにチェックマークを付けます。

5 各項目を設定したら、［保存］ボタンをクリックする。

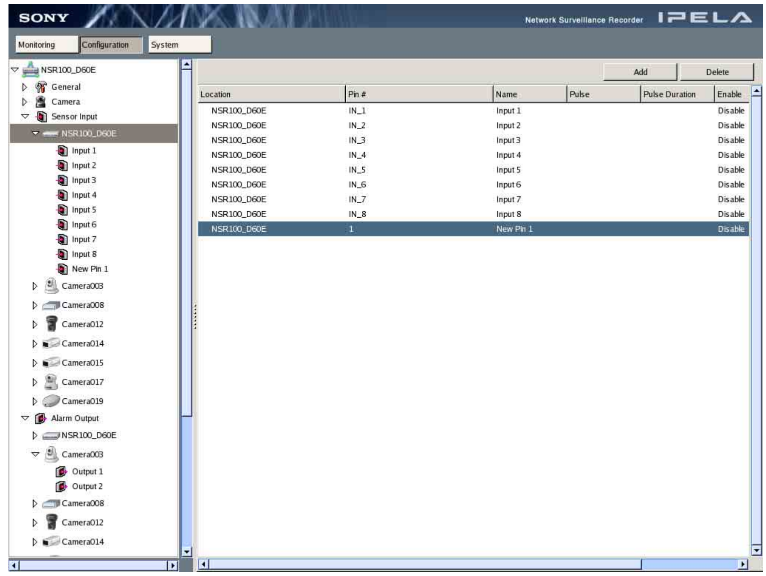
設定が有効になります。
設定を変更しないで元に戻したいときは、［変更中止］ボタンをクリックします。

NSR に作成したセンサー入力端子を削除する

メモ
デフォルトで存在しているセンサー入力は削除できません。

1 画面左側のツリーから［センサー入力］をクリックする。

2 削除する NSR 本体を選択し、削除するセンサー入力をクリックする。



3 ［削除］ボタンをクリックする。

確認画面が表示されます。

4 ［はい］をクリックする。

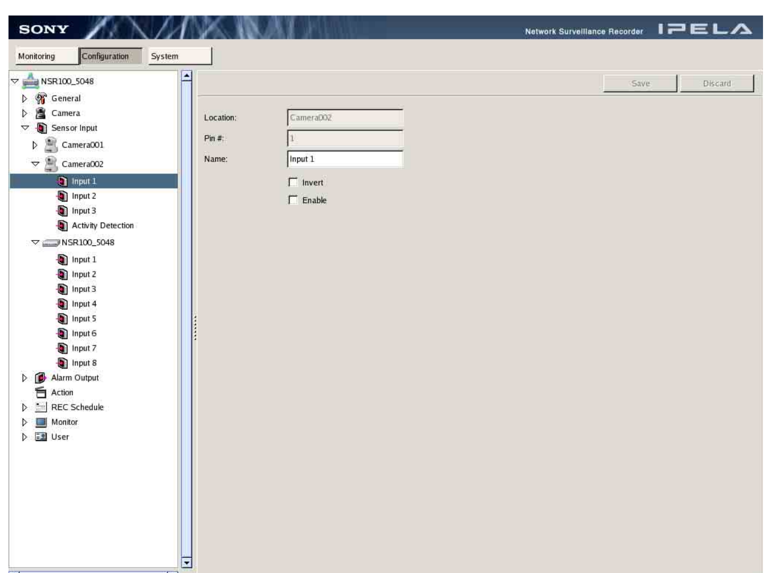
センサー入力が削除されます。

NSR およびカメラ本体のセンサー入力端子の設定を変更する

1 画面左側のツリーから［センサー入力］をクリックする。

「センサー入力」画面が表示されます。

2 各項目を設定し直す。



名前

センサー入力端子の名前を入力します。

信号反転

パルスの極性を反転させる場合に選択します（例えば、高→低を低→高に反転させるとき)。

有効

センサー入力端子を使用するときにチェックマークを付けます。

3 各項目を設定したら、画面右上の［保存］ボタンをクリックする。

設定が有効になります。
設定を変更しないで元に戻したいときは、［変更中止］ボタンをクリックします。

Video Motion Detection（カメラ）端子を設定する

カメラによる動体、不動体検知機能（Video Motion Detection（カメラ)）を使用するには、以下の手順でVideo Motion Detection（カメラ）端子を設定し、動体検知、不動体検知エリアを設定します。
動体検知、不動体検知エリアの設定項目は、使用するカメラによって異なります。

メモ

- Video Motion Detection（カメラ）の場合は、動体検知か、動体／不動体検知の両方に対応しているかは、カメラによって異なります。
- SNT-V304およびSNT-V501では、Video Motion Detection（カメラ）は使用できません。

ご注意

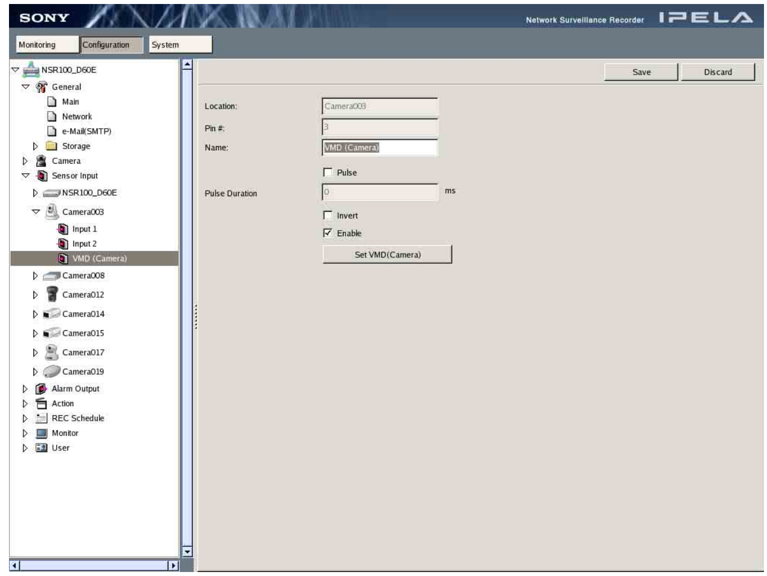
- NSRでは、メタデータの配信とそのカメラのVideo Motion Detection（カメラ）を併用することはできません。Video Motion Detection（カメラ）を有効にした場合は、そのカメラのVideo Motion Filterの設定は無効になります。
- 不動体検知では、開始時に約40秒の初期化時間が必要です。

1 画面左側のツリーから［センサー入力］をクリックする。

2 ［センサー入力］の下位にあるカメラを選択し、設定したいVideo Motion Detection（カメラ）端子をクリックする。

「センサー入力」画面が表示されます。

3 各項目を設定する。



名前
端子の名前を入力します。

パルス
パルス間隔を指定して入力したいときにチェックマークを付けます。
ここにチェックマークを付けたときは、次の［パルス間隔］を入力します。

パルス間隔
VMD（カメラ）端子の入力がオンになってから、オンの状態を持続させる期間をミリ秒単位で入力します。

信号反転
パルスの極性を反転させるときは、ここにチェックマークを付けます。

有効
ここにチェックマークを付けると、VMD（カメラ）端子が使用可能になります。

4 ［VMD（カメラ）設定］ボタンをクリックする。

動体検知、不動体検知エリアを設定する画面が表示されます。
設定画面や設定項目は、カメラによって異なります。

ご注意

設定画面を開くと、そのカメラの Video Motion Filter の設定は無効になります。

メモ

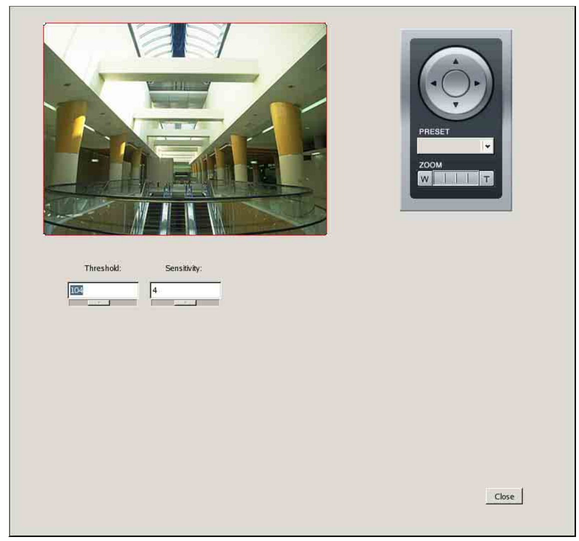
パン、チルト、ズーム機能を備えたカメラの場合は、「カメラコントロール」パネルを使ってカメラのパン／チルトやズームをコントロールし、エリアを設定しやすいようにカメラの向きやをズームを変えたり、設定したエリアをカメラが正しく移動するか確認してください。

■ SNC-RZ30 などのカメラの場合

赤い枠をマウスでドラッグし、動体を検知するエリアを設定します。エリアの各辺をドラッグすると、大きさを変更できます。
エリアの削除はできません。

ご注意

VMD（カメラ）の設定は、設置角度が 90、270 degrees に設定されている状態では行えません。



しきい値

動体を検知するしきい値を 0 〜 255 の範囲で入力します。
この値は、動体検知プロセッサーが、フレーム間に動体があったかどうかを判断するための基準値として使用されます。

データ増幅レベル

感度レベルを 0 〜 8 の範囲で設定します。
通常は特に設定する必要はありません。

■ SNC-P1 などのカメラの場合

動体検知エリアは、4 箇所まで設定できます。設定中のエリア名は青色で表示されます。
赤い枠をマウスでドラッグし、動体を検知するエリアを設定します。エリアの各辺をドラッグすると、大きさを変更できます。
エリアの削除はできません。



ご注意

・VMD（カメラ）の設定は、設置角度が 90、270 degrees に設定されている状態では行えません。
・VMD（カメラ）は、コーデックが MPEG に設定されている場合にのみ動作します。

検知後の非検知時間（sec）
動体を検知した後、動体の検知を行わない時間を 1 ～ 30 の範囲（秒単位）で入力します。

検知エリア 1 ～検知エリア 4
有効にする検知エリアにチェックマークを付けます。

しきい値
動体を検知するしきい値を 1 ～ 2000 の範囲で入力します。
この値は、動体検知プロセッサーが、フレーム間に動体があったかどうかを判断するための基準値として使用されます。

データ増幅レベル
感度レベルを 0 ～ 20 の範囲で設定します。
通常は特に設定する必要はありません。

■ SNC-V704 などのカメラの場合

動体検知エリアは、2 箇所まで設定できます。設定中のエリア名は青色で表示されます。
赤い枠をマウスでドラッグし、動体を検知するエリアを設定します。エリアの各辺をドラッグすると、大きさを変更できます。
エリアの削除はできません。

ご注意

VMD（カメラ）の設定は、設置角度が 90、270 degrees に設定されている状態では行えません。



検知エリア１～検知エリア２
有効にする検知エリアにチェックマークを付けます。

データ増幅レベル
感度レベルを１～９の範囲で設定します。
通常は特に設定する必要はありません。

■ SNC-RX550、Generic Camera などのカメラの場合

動体／不動体検知エリアは、４箇所まで設定できます。設定中のエリア名は青色で表示されます。
赤い枠をマウスでドラッグし、動体を検知するエリアを設定します。エリアの各辺をドラッグすると、大きさを変更できます。
エリアの削除はできません。

ご注意

VMD（カメラ）の設定は、設置角度が 90、270 degrees に設定されている状態では行えません。



カメラ位置
設定するカメラ位置を選択します。

現在位置
現在のカメラ位置に対して設定するときに選択します。

プリセット位置
プリセットごとに設定するときに選択します。
ここを選択したときは、[▼] ボタンをクリックし、表示される一覧からプリセットを選択し、そのプリセット位置にカメラを移動させます。
設定したプリセット位置にカメラが移動したときに、その設定が有効となります。あるプリセット位置でほかのプリセット位置の設定を使用することはできません。

検知対象種別
[動体] または [不動体] を選択します。
[動体]、[不動体] によって、以下の項目が異なります。
1 つの画面内では、[動体]、[不動体] のどちらか一方しか設定できません。

■動体の場合



しきい値
動体を検知するしきい値を 0 〜 99 の範囲で入力します。

■不動体の場合



検知時間
物体が静止してから不動体として認識され、アラームが発生するまでの時間を 40 〜 43200 の範囲（秒単位）で入力します。
設定した時間内で再び物体が動くと、カウントは解除されます。

ご注意
不動体検知（アラーム発生）後、最大 1 分、他の不動体が発生してもアラームが発生しない場合があります。

メモ
[現在位置]、[プリセット位置] ごとに不動体検知の [検知時間] の項目がありますが、これは設定作業をしやすくするためで、[検知時間] の設定値は全体で 1 つだけです。

検知エリア 1 〜検知エリア 4
各検知領域の検知／非検知を選択します。

最小検知対象サイズ
検知する物体の最小の大きさを入力します。または、最小検知対象サイズ設定枠（水色）をマウスでドラッグし、大きさを設定します。各辺をドラッグすると、大きさを変更できます。設定枠の削除はできません。

最大検知対象サイズ
検知する物体の最大の大きさを入力します。または、最大検知対象サイズ設定枠（青色）をマウスでドラッグし、大きさを設定します。各辺をドラッグすると、大きさを変更できます。設定枠の削除はできません。

5 各項目を設定したら、［閉じる］ボタンをクリックする。

設定が有効になります。
設定を変更しないで元に戻したいときは、［変更中止］ボタンをクリックします。

アラーム出力

「アラーム出力」では、カメラや NSR のアラーム出力端子に関する設定が行えます。

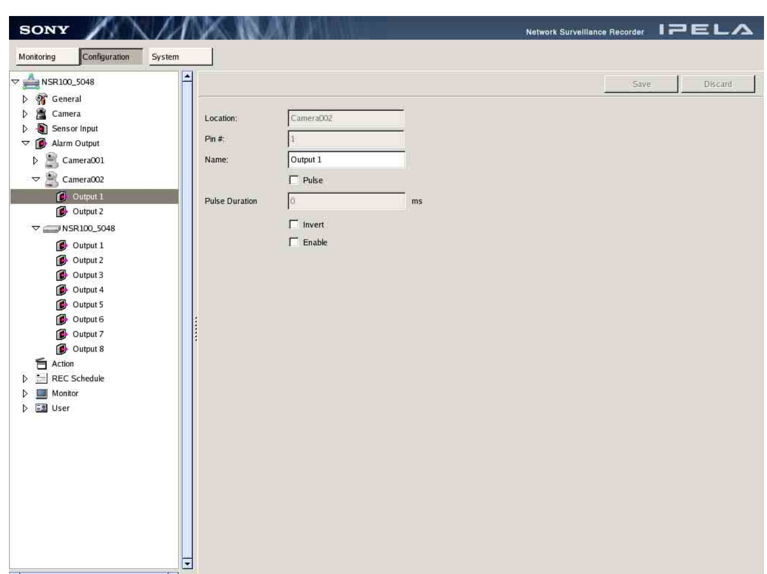
アラーム出力端子の設定を変更する

ご注意
カメラのアラーム出力を利用する場合は、あらかじめ Web ブラウザからカメラに接続し、カメラの設定を有効にしておく必要があります。

1 画面左側のツリーから［アラーム出力］をクリックする。

「アラーム出力」画面が表示されます。

2 各項目を設定し直す。



名前

アラーム出力端子の名前を入力します。

有効

アラーム出力端子を使用するときにチェックマークを付けます。

パルス

出力端子をオンにしたときに、指定した時間でオフに戻す場合にチェックマークを付けます。

パルス間隔

出力端子をオンにしておく時間を入力します。

信号反転

出力端子の極性を反転させる場合に選択します。
反転を有効にしても、出力端子の状態は変化しません。反転した状態で出力端子のオン／オフを行うと、実際の出力信号の状態がオフ／オンに反転されます。
また、NSR 本体の出力端子は、起動時に反転の設定に応じて、状態の初期化が行われます（反転時：起動時にオン、反転なし時：起動時にオフ）。

3 各項目を設定したら、画面右上の［保存］ボタンをクリックする。

設定が有効になります。
設定を変更しないで元に戻したいときは、［変更中止］ボタンをクリックします。

手動でアラーム出力を操作する

オプションウィンドウの「アラーム出力状況一覧」で、現在のアラーム出力の状態確認とオン／オフの変更ができます。
操作のしかたについては、「オプションウィンドウ（補助機能エリア）」の「アラーム出力状況一覧」（79 ページ）を参照してください。

アクション

「アクション」では、センサー入力や VMD（レコーダー）、VMF、ハードウェア障害、システムアラートなどを検知したとき、またはマニュアルトリガーを行ったときの動作を設定できます。

新規にアクションを登録する

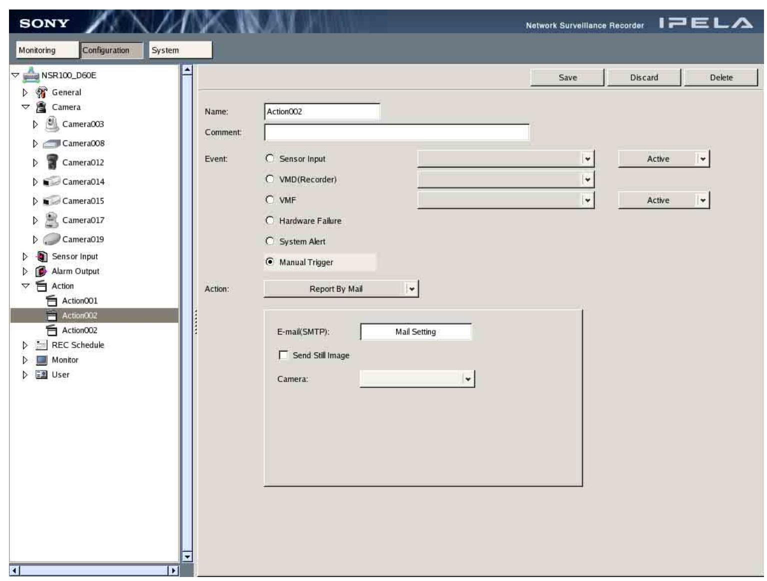
1 画面左側のツリーから［アクション］をクリックする。

「アクション」画面が表示されます。

2 画面右上の［追加］ボタンをクリックする。



3 各項目を設定する。



名前
アクションの名前を入力します。

コメント
このアクションについてコメントを入力します。

イベント
イベントの種類を選択します。

センサー入力
センサー入力があったときにアクションを行う場合に選択します。
ここを選択したときは、以下の項目を選択します。
- センサー入力端子を選択します。
- トリガーをアクティブ（オフからオン）にするか、インアクティブ（オンからオフ）にするかを選択します。

VMD（レコーダー）

アクションのトリガーに使用するカメラを指定します。
ここで指定したカメラの動体検知をトリガーとしてアクションが行われます。

VMF

VMF パッケージでアラームが発生したときに、アクションを行う場合に選択します。
ここを選択したときは、以下の項目も設定します。

- VMF パッケージを選択します。
- トリガーをアクティブ（オフからオン）にするか、インアクティブ（オンからオフ）にするかを選択します。

ハードウェア障害

ハードウェアに異常があったときにアクションを行う場合に選択します。
ハードディスク、ファン、電圧、温度のいずれかで不具合が発生したときに、異常と判定されます。

システムアラート

システムアラートを検知したときにアクションを行う場合に選択します。

マニュアルトリガー

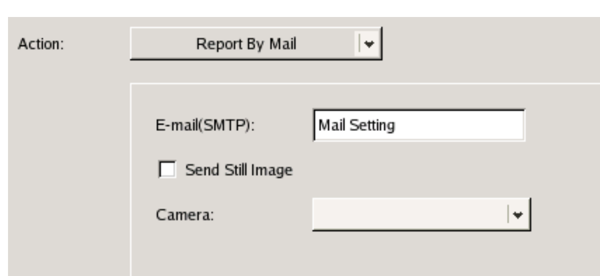
手動操作したときにアクションを行う場合に選択します。
マニュアルトリガーでは、「モニタリング」画面のオプションウィンドウから起動できます。

アクション

アクションの種類を選択します。
［メール送信］、［ビープ］、［ビープ停止］、［モニターレイアウト変更］、［アラーム出力 On］、［アラーム出力 Off］、［プリセット］から選択します。
ここで選択したアクションによって、以下に表示される設定項目が異なります。

・［メール送信］を選択した場合

イベントに応じて、静止画添付の有無を選択できます。ハードウェア障害やシステムエラーなどをイベントにした場合、そのエラー情報も簡易情報としてメール本文に含めます。



メール（SMTP）

宛先の設定は、「一般」の「メール」で設定します。ここでは設定できません。

ご注意

メールの設定は、アクションを設定する前に行ってください。アクションを設定した後にメールの設定を変更した場合は、該当するアクションを保存しなおすことにより、設定が反映されます。

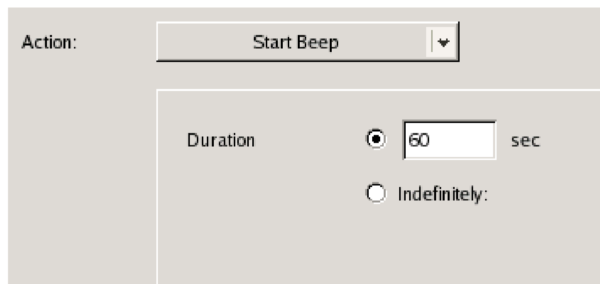
静止画の送信

メールに静止画を添付して送信する場合、チェックマークを付けます。ただし、静止画が生成できない場合には、チェックマークを付けていても静止画を添付せずにメールを送信します。

カメラ

静止画を記録するカメラを選択します。

・［ビープ］を選択した場合



時間

ビープの鳴動時間を設定するときに選択します。
ここを選択したときは、鳴動時間を秒単位で入力します。

無限

他のイベントにより、ビープ停止が起こるまで鳴動し続けるときに選択します。
あらかじめマニュアルやセンサー入力によるイベントで、ビープを停止するアクションを定義しておいてください。

・［ビープ停止］を選択した場合

鳴っているビープ音を停止するだけのため、設定項目はありません。

ご注意

ビープ音が鳴っている間は、カメラからの音声モニタリングは停止します。ただし、その間も音声の記録は正常に行われます。

・［モニターレイアウト変更］を選択した場合



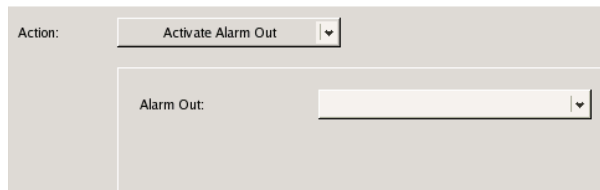
モニターレイアウト
モニター 1 に表示するモニターレイアウトを選択します。

元のレイアウトに戻す
アクションの発生後に、変更前のレイアウトに戻す場合にチェックマークを付けます。

イベント終了時
イベントが終了したときにレイアウトを元に戻す場合に選択します。

期間
指定した期間後にレイアウトを元に戻す場合に選択します。

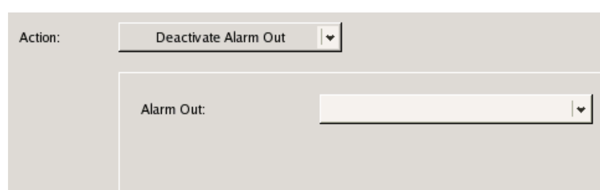
・[アラーム出力 On]を選択した場合



アラーム出力
アラーム出力をオンにするアラーム出力端子を選択します。

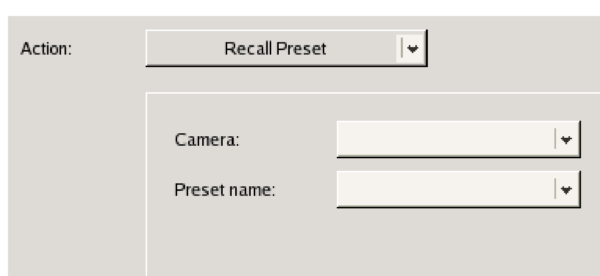
メモ
アラーム出力をオンにする時間を設定する場合、アラーム出力の設定でパルス間隔を設定してください。

・[アラーム出力 Off]を選択した場合



アラーム出力
アラーム出力をオフにするアラーム出力端子を選択します。

・[プリセット]を選択した場合



カメラ
プリセットを呼び出すカメラを選択します。

プリセット
プリセットを選択します。

4 各項目を設定したら、画面右上の［保存］ボタンをクリックする。

設定が有効になります。
設定を変更しないで元に戻したいときは、［変更中止］ボタンをクリックします。

記録スケジュール

「記録スケジュール」では、新規に記録スケジュールを作成したり、記録スケジュールの設定内容を変更したりすることができます。

長期間継続記録におけるレコード分割処理について

長期間継続して記録を行っている場合（毎日0：00～24：00の連続記録を長期間行っているような場合）、記録レコードの構成ファイル数が10,000 *を超えることがあります。構成ファイル数が10,000を超えた場合は、記録レコードが分割され、以降のデータは新しいレコードとして記録されます。レコードが分割されれると、検索などでは別のレコードとして表示されます。

* ファイル数「10,000」とは、記録開始からのすべてファイル数です。クリーンアップやデータ上書き機能によって削除されたファイルも含まれます。

分割される期間は、フレームレートや解像度によって異なります。
例）

条件	コーデック 解像度 フレームレート 画像品質	：JPEG ：VGA ：10 fps ：50%
分割までの期間	約19日	

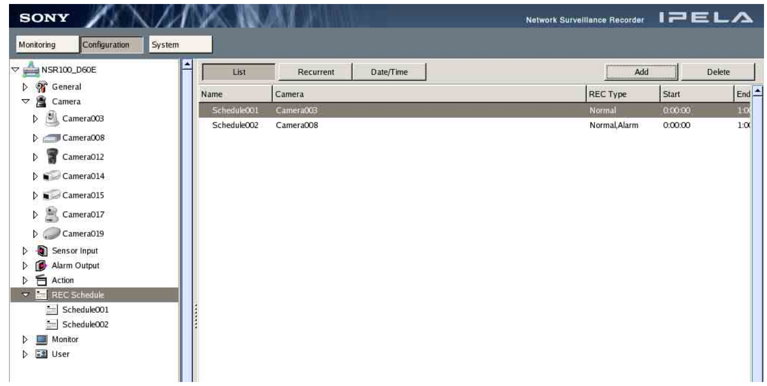
長期間連続して記録する場合は、1日につき1秒の空白時間を入れるスケジュールを設定し、記録レコードを分割することをおすすめします。詳しくは、新規に記録スケジュールを作成する （138ページ）をご覧ください。

新規に記録スケジュールを作成する

1 画面左側のツリーから［記録スケジュール］をクリックする。

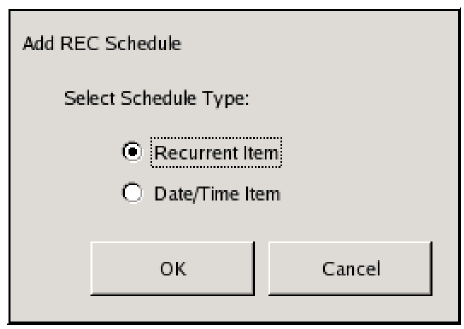
「記録スケジュール」画面が表示されます。

2 画面右上の［追加］ボタンをクリックする。



スケジュールのタイプの選択画面が表示されます。

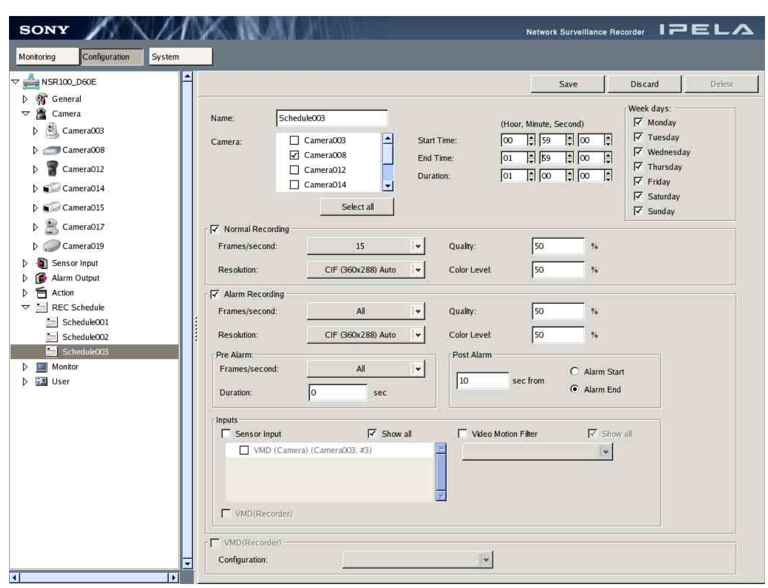
3 周期的なスケジュールを設定するか、日時指定のスケジュールを設定するかを選択し、［OK］ボタンをクリックする。



4 各項目を設定する。

「記録スケジュール」画面は、設定するスケジュールが周期的か日時指定かによって、表示される設定項目が異なります。

- **周期的なスケジュールを設定する場合**



名前
記録スケジュールの名前を入力します。

カメラ
対象となるカメラにチェックマークを付けます。
複数のカメラにチェックマークを付けた場合は、選択したすべてのカメラに同じ設定が適用されます。
ただし、Generic Camera とそれ以外のカメラを混合させることはできません。

全て選択
このボタンをクリックすると、表示されているすべてのカメラにチェックマークが付きます。

週単位
スケジュールを実行する曜日を指定します。この項目は、週単位のスケジュールを設定する場合に表示されます。

開始時刻
スケジュールの適用を開始する時刻を指定します。
指定可能範囲は、00:00:00 から 24:00:00（時分秒）までです。
日時の表示形式は、「一般」画面の「メイン」の［日時フォーマット］（84 ページ）の設定に基づきます。

終了時刻
スケジュールの適用を終了する時刻を指定します。
日時の表示形式は、「一般」画面の「メイン」の［日時フォーマット］（84 ページ）の設定に基づきます。

期間
開始時刻と終了時刻から算出した期間が表示されます。逆に、期間を指定することでも終了時刻を設定できます。
指定可能範囲は 00:00:01 から 24:00:00（時分秒）までです。00:00:00 と指定した場合や開始時刻から計算した終了時刻が 24:00:00 を超える場合は、終了時刻が 24:00:00 と指定されたとみなし、値を修正します。
日時の表示形式は、「一般」画面の「メイン」の［日時フォーマット］（84 ページ）の設定に基づきます。

通常記録の設定
通常の記録を行うときにチェックマークを付け、以下の項目を設定します。

メモ

通常記録とアラーム記録の設定時間が重なっているときに、通常記録時の解像度を 360 × 288 dpi に設定し、アラーム記録時の解像度を 720 × 576 dpi に設定した場合は、カメラから取り込まれる画像の解像度は 720 × 576 dpi になります。通常、カメラから取り込まれる画像は、実行中のすべての動作に関するフレームレートや解像度の最大値が使用されます。

[フレーム／ sec]、[画像サイズ]、[画質]、[色彩度]
スケジュール開始時にカメラに送られる画質設定を設定します。

ご注意

カメラやコーデックによって配信可能なフレームレートが異なるため、［フレーム／sec］の［▼］ボタンをクリックし、表示される一覧からそのカメラで配信可能なフレームレートを選択し、必ず動作確認をしてから運用してください。なお、Generic Camera の場合、フレームレートと画像サイズは設定可能な値が選択肢に一覧表示されます。

アラーム記録の設定

アラーム記録を行うときにチェックマークを付け、以下の項目を設定します。

ご注意

アラーム記録や通常記録のカメラ設定がモニター時のカメラ設定と異なる場合は、記録開始時と記録終了時に画像の更新が数秒間停止します。必ず設定を確認してから運用してください。

［フレーム／ sec］、［画像サイズ］、［画質］、［色彩度］

スケジュール開始時にカメラに送られる画質設定を設定します。

ご注意

カメラによって配信可能なフレームレートが異なるため、［フレーム／sec］の［▼］ボタンをクリックし、表示される一覧からそのカメラで配信可能なフレームレートを選択し、必ず動作確認をしてから運用してください。なお、Generic Camera の場合、フレームレートと画像サイズは設定可能な値が選択肢に一覧表示されます。

プリアラーム

アラームが発生した際、アラーム発生前の画像にさかのぼって画像を記録する場合に、以下の項目を設定します。

フレーム／ sec

アラーム前の画像を記録する際のフレームレート（fps）を指定します。

ご注意

カメラによって配信可能なフレームレートが異なるため、［フレーム／sec］の［▼］ボタンをクリックし、表示される一覧からそのカメラで配信可能なフレームレートを選択し、必ず動作確認をしてから運用してください。

メモ

MPEG に対しては、「カメラ」－「メイン」で設定されているフレームレートよりも、ここで設定したフレームレートが小さい場合、「カメラ」－「メイン」で設定されているフレームレートが適用されます。

プリアラーム期間

ここで指定した時間までさかのぼって、画像を記録します。

ご注意

音声に対してプリアラーム記録を行うことはできません。

メモ

プリアラームの記録時間の最大値は、以下の両方の制限を受けます。

- 総フレーム数：1,500 フレーム
- データサイズ：5 MB[1) 2)]

1) 以下の条件で、1 MB あたり約 6 秒のプリアラーム記録ができます。
  - VGA、JPEG で 1 秒間 5 フレーム記録

2) Generic Camera で以下の条件をすべて満たす場合は、プリアラーム記録時間を確保するために、データサイズの制限が 20 MB に拡張されます。
  - 画像サイズの横方向：1,280 ピクセル以上
  - プリアラーム時間：3 秒以上
  - フレームレート：5 fps 以上

ポストアラーム

アラーム発生後に画像を記録する場合に、以下の項目を設定します。

期間

ポストアラームで記録する時間を指定します。

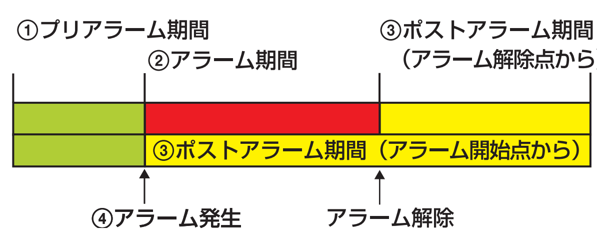
アラーム開始点／アラーム終了点

ポストアラームを行う期間を選択します。

- ［アラーム開始点］を選択したときは、アラーム発生時から設定した期間の記録が行われます。
- ［アラーム終了点］を選択したときは、アラームが終了してから設定した期間の記録が行われます。

メモ

プリアラーム、アラーム、ポストアラームの関係は、以下のようになります。



① プリアラーム期間

アラーム発生から、［プリアラーム期間］で設定した時間分さかのぼった期間です。

② アラーム期間

アラーム信号がアクティブな期間です。

③ ポストアラーム期間

アラーム解除後から、［ポストアラーム］の［期間］で設定した時間分の期間です。

ポストアラーム期間は、アラームの発生点からの期間、またはアラームの終了点からの期間のどちらかで設定します。

④ アラーム発生

アラーム信号がアクティブになった時点です。

入力

入力に関する設定を行います。

センサー入力

アラーム記録のトリガーとしてセンサー入力端子を選択する場合に、チェックマークを付け、センサー入力端子を選択します。

センサー入力端子は複数選択することもできます。

［すべて表示］にチェックマークを付けると、すべてのカメラの有効になっているセンサー入力が表示されます。チェックマークを外すと、対象となるカメラのセンサー入力のみ表示されます。

すべてのカメラおよび NSR 本体の「使用可能」になっているセンサー入力端子が選択できます。

VMD（レコーダー）

アラーム記録のトリガーとして動体検知を選択する場合にチェックマークを付けます。

この機能を使用するには、動体検知の設定が行われている必要があります。

ご注意

複数カメラにスケジュールを設定する場合は、センサー入力の場合と違い、各カメラ自身の動体検知を入力とします。

Video Motion Filter

アラーム記録のトリガーとして VMF パッケージを選択する場合にチェックマークを付け、VMF パッケージを選択します。

［すべて表示］にチェックマークを付けると、すべてのカメラの VMF パッケージが表示されます。チェックマークを外すと、対象となるカメラの VMF パッケージのみ表示されます。

ご注意

不動体用の VMF パッケージを用いた記録スケジュールを実行する場合、スケジュールの開始時に初期化を行うため、約 40 秒の初期化時間が必要になります。初期化している間は検出できませんので、ご注意ください。

VMD（レコーダー）の設定

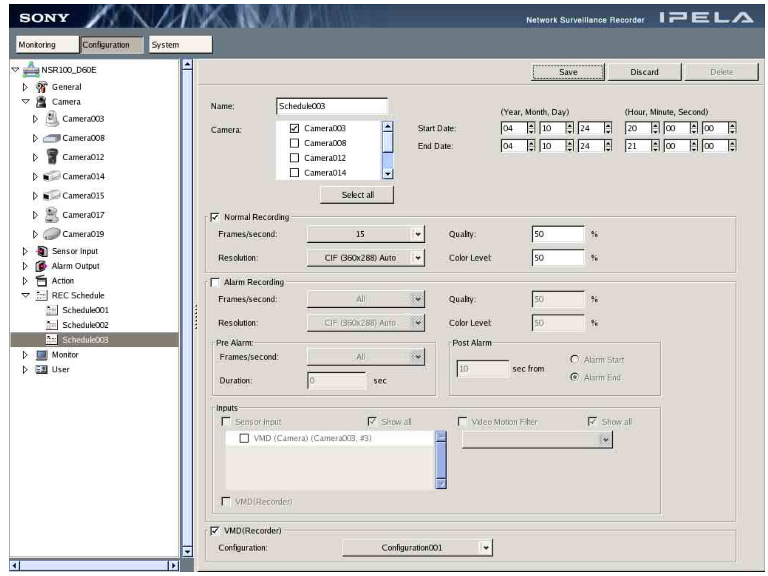
動体検知を行います。

VMD（レコーダー）設定

動体検知の設定情報を選択します。

・**日時指定スケジュールを設定する場合**

周期的なスケジュールとの違いは、開始と終了の日時の指定方法だけです。



開始日時

スケジュールの適用を開始する日時を指定します。

日時の表示形式は、「一般」画面の「メイン」の［日時フォーマット］（84ページ）の設定に基づきます。

終了日時

スケジュールの適用を終了する日時を指定します。

日時の表示形式は、「一般」画面の「メイン」の［日時フォーマット］（84ページ）の設定に基づきます。

5 各項目を設定したら、画面右上の［保存］ボタンをクリックする。

設定が有効になります。

設定を変更しないで元に戻したいときは、［変更中止］ボタンをクリックします。

メモ

連続して記録スケジュールを登録する場合は、前回登録した内容が追加するときの初期値に設定されます。

スケジュールの設定を変更する

スケジュールの変更は、次の方法で行えます。

・スケジュールの一覧から変更する

・周期的なスケジュールの一覧から変更する

・日時指定のスケジュールの一覧から変更する

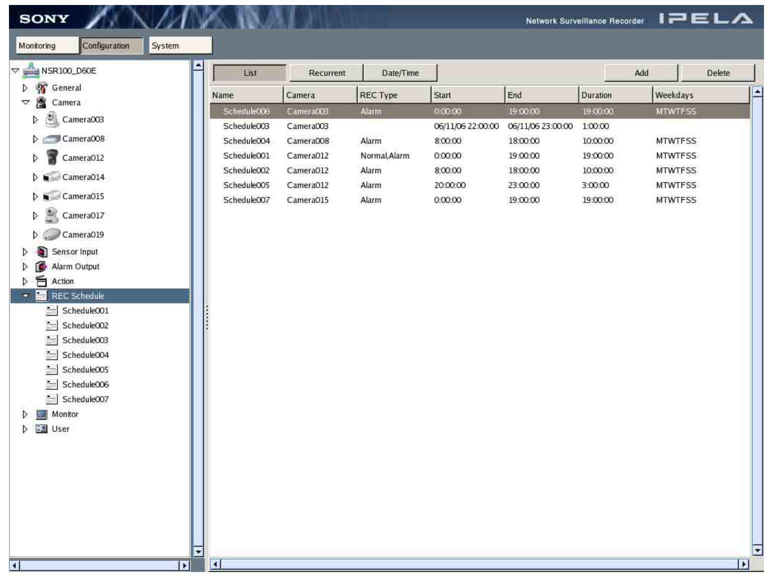
スケジュールの一覧から変更する

1 画面左側のツリーから［記録スケジュール］をクリックする。

「記録スケジュール」画面が表示されます。

2 ［リスト］ボタンをクリックする。

スケジュールの一覧が表示されます。
別のカメラで同じスケジュールが設定されている場合は、1 つのスケジュールとして表示されます。その場合は、［カメラ］欄にカメラ名が列記されます。

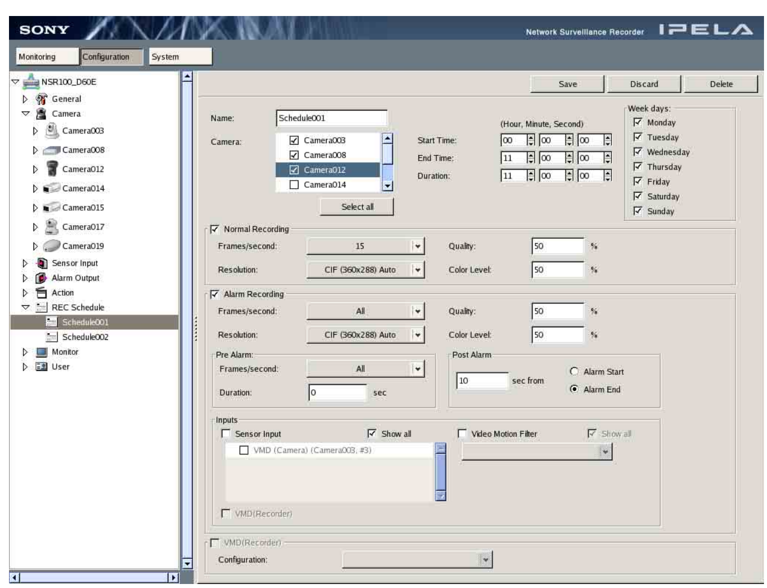


3 変更したいスケジュールをダブルクリックする。

スケジュールの設定画面が表示されます。

4 変更したい項目を設定しなおす。

設定項目については、「新規に記録スケジュールを作成する」（138 ページ）を参照してください。



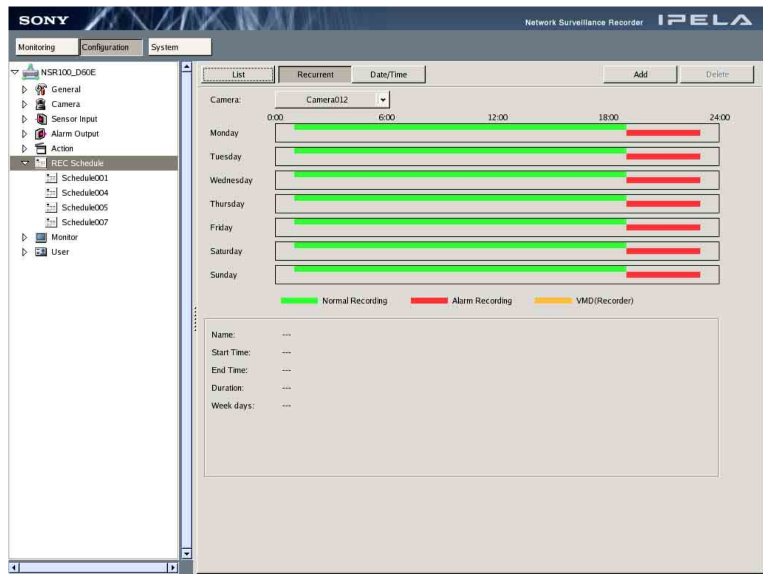
周期的なスケジュールの一覧から変更する

1 画面左側のツリーから［記録スケジュール］をクリックする。

「記録スケジュール」画面が表示されます。

2 ［周期］ボタンをクリックする。

周期的なスケジュールの一覧が表示されます。

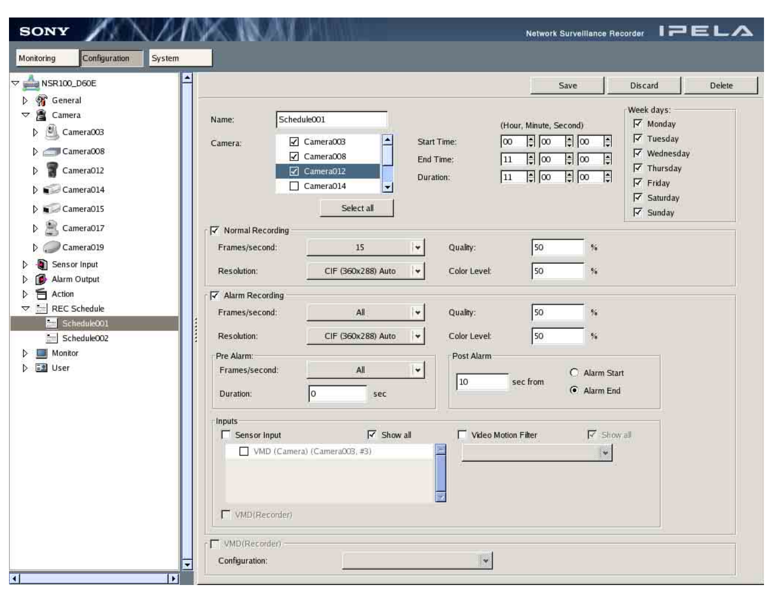


3 変更したいスケジュールをダブルクリックする。

シングルクリックすると、下の領域にスケジュール時間などの情報が表示されます。
周期的なスケジュールの設定画面が表示されます。

4 変更したい項目を設定しなおす。

設定項目については、「新規に記録スケジュールを作成する」の手順 4「周期的なスケジュールを設定する場合」（139 ページ）を参照してください。



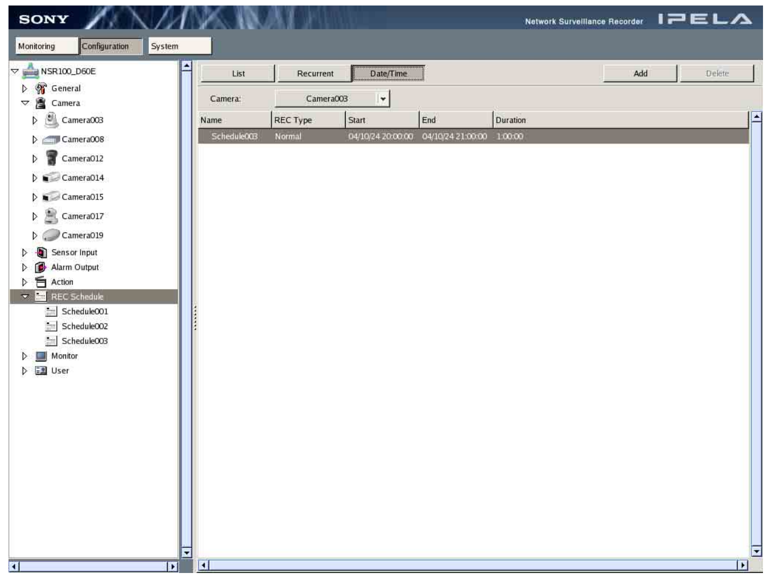
日時指定のスケジュールの一覧から変更する

1 画面左側のツリーから［記録スケジュール］をクリックする。

「記録スケジュール」画面が表示されます。

2 ［日時］ボタンをクリックする。

日時指定スケジュールの一覧が表示されます。

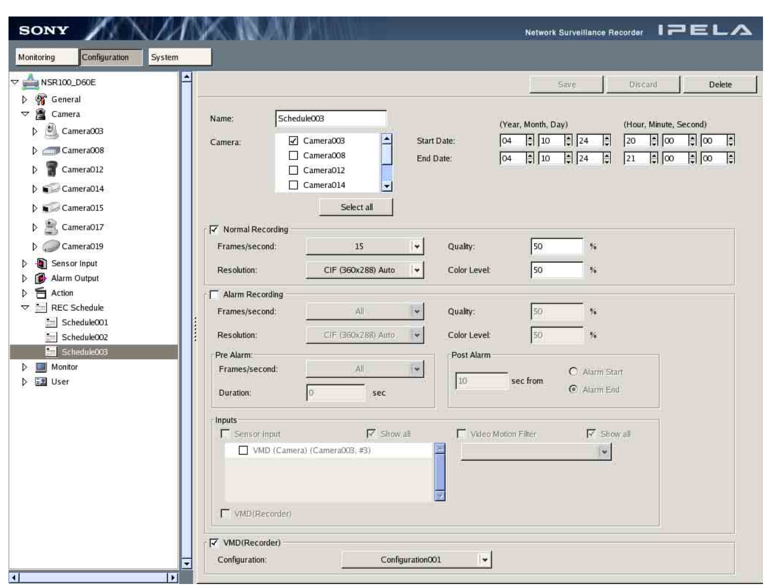


3 変更したいスケジュールをダブルクリックする。

日時指定スケジュールの設定画面が表示されます。

4 変更したい項目を設定しなおす。

設定項目については、「新規に記録スケジュールを作成する」の手順４「日時指定スケジュールを設定する場合」（144 ページ）を参照してください。



モニター

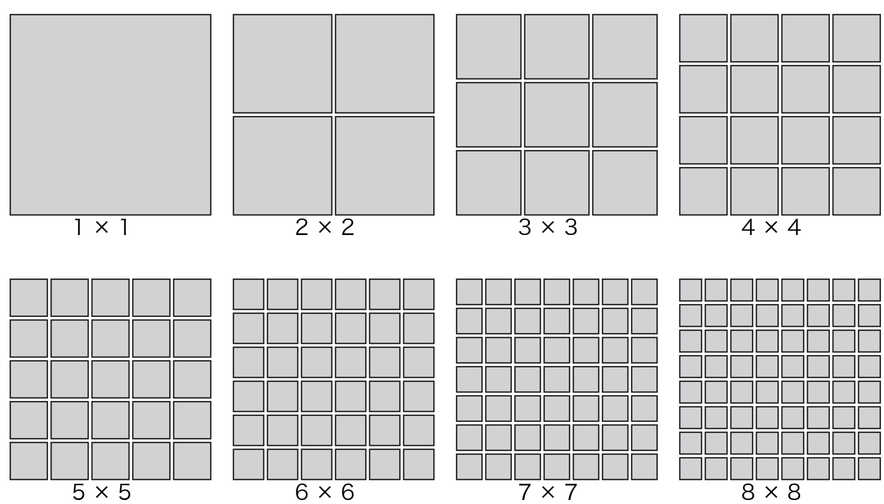
「モニター」では、モニターレイアウトの表示方法を設定できます。
「モニター」では、以下の設定が行えます。

- モニターレイアウトの登録
  モニターレイアウトの設定を登録します。
- モニターシーケンスの追加
  モニターシーケンスを設定すると、モニター中に、あらかじめ設定しておいた時間で各ディスプレイの表示を次々に切り替えることができます。

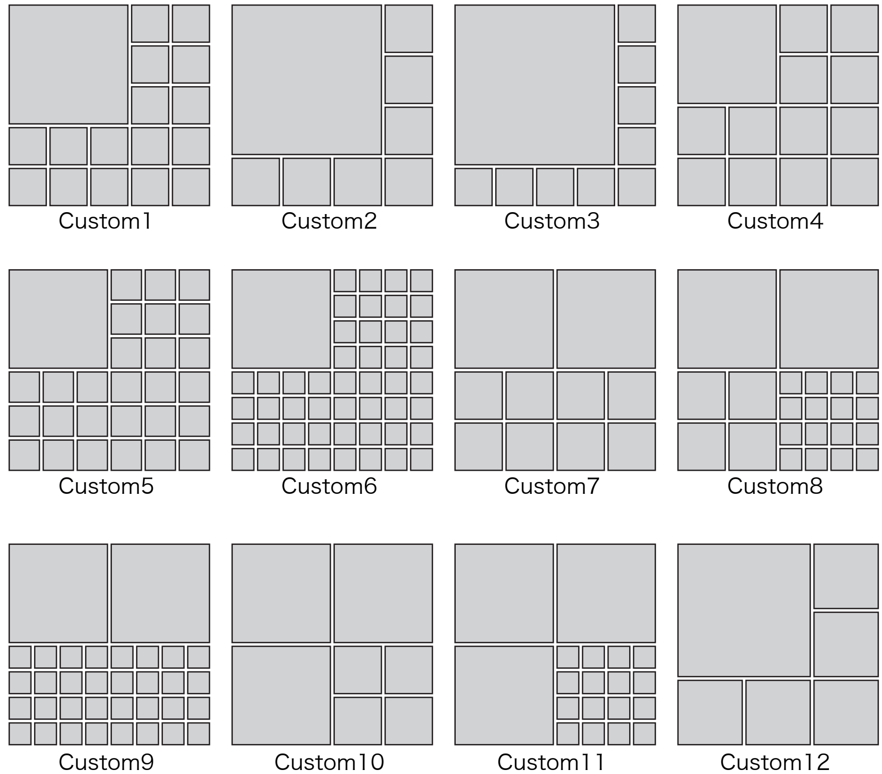
新規にモニターレイアウトを登録する

新規にモニターレイアウトの設定を登録します。
モニターレイアウトを登録するときは、テンプレートを利用します。テンプレートには、以下の種類が用意されています。用途に応じたテンプレートを選択し、各区画にカメラを割り当ててモニターレイアウトを設定してください。

規則的な区画割りのテンプレート



特殊な区画割のテンプレート



1 画面左側のツリーから［モニター］をクリックする。

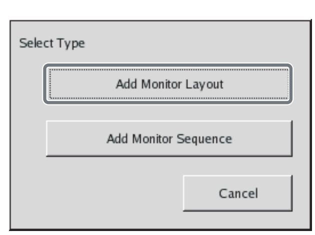
「モニター」画面が表示されます。

2 画面右上の［追加］ボタンをクリックする。



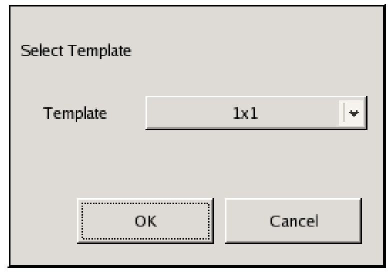
タイプの選択画面が表示されます。

3 ［モニターレイアウトの追加］をクリックする。

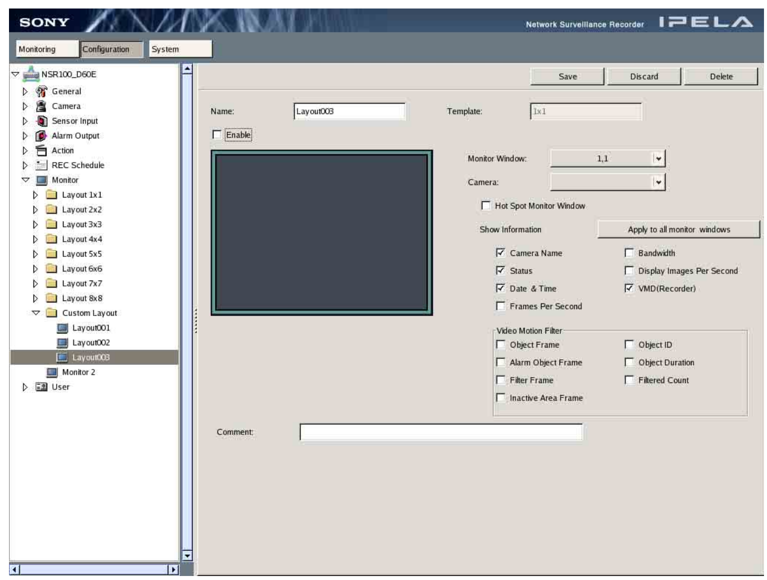


テンプレートの選択画面が表示されます。

4 テンプレートを選択し、[OK] ボタンをクリックする。



5 各項目を設定する。



名前

モニターレイアウトに付ける名前を入力します。

テンプレート

手順 4 で選択したテンプレートが表示されます。

2 番目のモニターを設定する場合は、[▼] ボタンをクリックし、表示される一覧から使用するテンプレートを選択します。

1 × 1、2 × 2、3 × 3 のレイアウトを選択できます。

また、2 番目のモニターでは、ホットスポットのモニターウィンドウを複数定義できます。ホットスポットモニターを複数定義する場合のウィンドウ数も、ここで選択します。

有効

現在設定中のモニターレイアウト設定を使用するときにチェックマークを付けます。チェックをしていない場合、「モニタリング」画面でこのモニターレイアウトを使用することはできません。また、デフォルトレイアウトのモニターウィンドウまたは 2 番目のモニターについては変更できません。

モニターウィンドウ

[▼] ボタンをクリックし、表示される一覧から設定するモニターウィンドウを選択します。

カメラ
ソースとなるカメラを指定します。
カメラを指定しない場合は、最初はモニターウィンドウには何も表示されません。また、デフォルトレイアウトのモニターウィンドウ、ホットスポットモニターウィンドウに指定しているモニターウィンドウには、カメラの指定はできません。

ホットスポットモニターウィンドウ
あるモニターウィンドウをクリックしたとき、またはアラームが発生したときに、あらかじめホットスポットとして設定されているモニターウィンドウに画像が表示されるようにする場合に設定します。ただし、デフォルトレイアウトのモニターウィンドウまたは 2 番目のモニターのモニターウィンドウに対して、本項目は設定できません。

情報表示
選択されたモニターウィンドウに表示する情報を指定します。以下の項目のうち、チェックマークを付けたもののみが表示されます。

カメラ名	:	カメラの名前を表示します。
状態	:	記録時には、記録タイプ（MANUAL REC、ALARM REC、NORMAL REC）を表示します。 記録画像の再生時には、再生操作の状態（PAUSE など）や再生速度（＋ 1 x、－ 0.2 x など）を表示します（正方向の再生速度には「＋」、逆方向の再生速度には「－」が付きます）。
時刻	:	現在の日時、または記録時の日時を表示します。 表示形式は、「一般」画面の「メイン」の［日時フォーマット］（84 ページ）の設定に基づきます。
受信フレーム数	:	カメラ画像を取り込む速度を表示します。
バンド幅	:	ネットワーク接続で画像を転送するために使用する帯域の値を表示します。
表示フレーム数	:	カメラ画像がモニター上で更新される速度を表示します。
VMD（レコーダー）	:	動体検知した物体に枠を表示します。

全てのモニターウィンドウに適用
このボタンをクリックすると、すべてのモニターウィンドウに情報表示の設定が適用されます。

Video Motion Filter
選択されたモニターウィンドウに表示する Video Motion Filter の情報を指定します。以下の項目のうち、チェックマークを付けたもののみが表示されます。

対象枠
オブジェクト枠を表示します。

アラーム対象枠
アラーム発生の対象枠を表示します。

フィルター枠
フィルターの枠線を表示します。

非検知エリア
非検知エリアの枠線を表示します。

対象 ID
オブジェクトの ID を表示します。
この項目は、[対象枠] にチェックマークが付いているときのみ有効になります。

滞留時間
物体が動体として認識されている時間、または物体が置き去りにされた、または持ち去られたと認識されている時間を表示します。
この項目は、[対象枠] にチェックマークが付いているときのみ有効になります。

検知カウント
フィルターの条件が満たされた回数が表示されます。この項目は、[フィルター枠] にチェックマークが付いているときのみ有効になります。

コメント
モニターレイアウトについてのコメントを入力します。

6 各項目を設定したら、画面右上の [保存] ボタンをクリックする。

モニターレイアウトの設定が登録されます。
設定を登録しないときは、[変更中止] ボタンをクリックします。

モニターシーケンスを追加する

モニターシーケンスを設定すると、モニタリング中に、あらかじめ設定しておいた時間で各ディスプレイの表示を次々に切り替えることができます。

1 画面左側のツリーから [モニター] をクリックする。

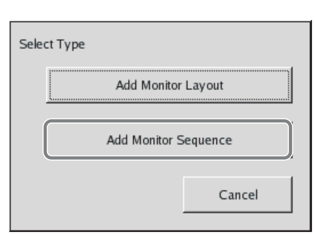
「モニター」画面が表示されます。

2 画面右上の [追加] ボタンをクリックする。

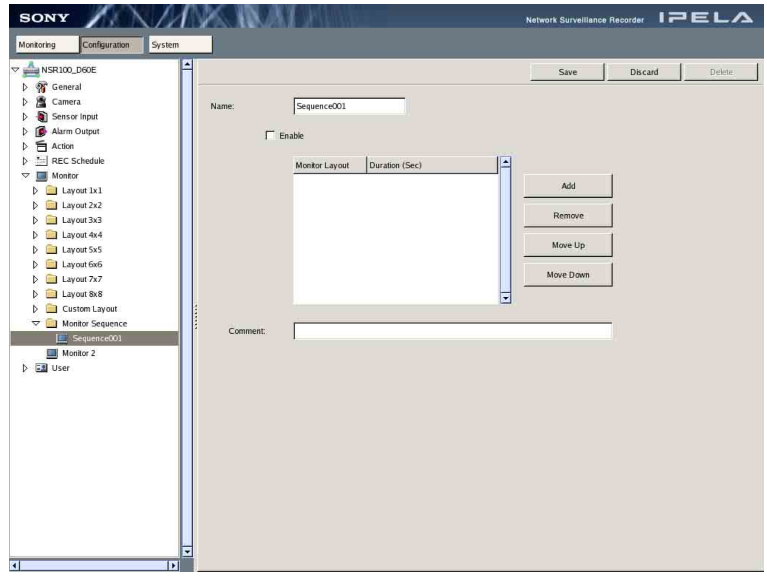


タイプの選択画面が表示されます。

3 [モニターシーケンスの追加] をクリックする。



4 各項目を設定する。



名前

モニターシーケンスの名前を入力します。

有効

現在設定中のモニターシーケンスを使用するときにチェックマークを付けます。

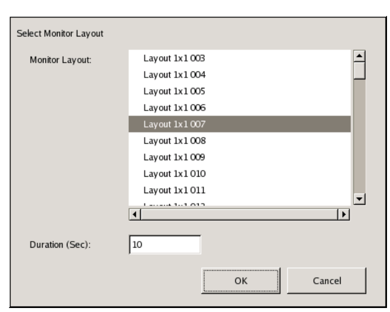
モニターレイアウト

設定中のモニターシーケンスで使用するモニターレイアウトを登録します。登録されたモニターレイアウトは、一覧に表示されます。

モニターレイアウトの追加

(1)［追加］ボタンをクリックする。
モニターレイアウトの追加画面が表示されます。

(2) 追加するモニターレイアウトを 1 つ選択し、［期間］にそのモニターレイアウトの表示時間を秒単位で入力する。



(3)［OK］ボタンをクリックする。

モニターレイアウトの削除

モニターレイアウト一覧で削除したいモニターレイアウトを選択し、［削除］ボタンを押します。

モニターレイアウトの順序入れ替え
モニターレイアウト一覧でモニターレイアウトを選択し、［上へ］ボタンまたは［下へ］ボタンをクリックすることで、表示順序を入れ替えることができます。

コメント
モニターシーケンスについてのコメントを入力します。

5 各項目を設定したら、画面右上の［保存］ボタンをクリックする。

モニターシーケンスが登録されます。
モニターシーケンスを登録しないときは、［変更中止］ボタンをクリックします。

ユーザー

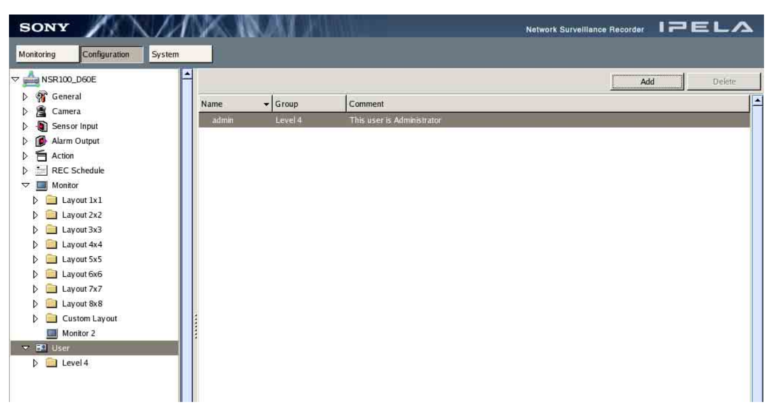
「ユーザー」では、本機を使用するユーザーの登録や権限の設定などが行えます。

ユーザーを作成する

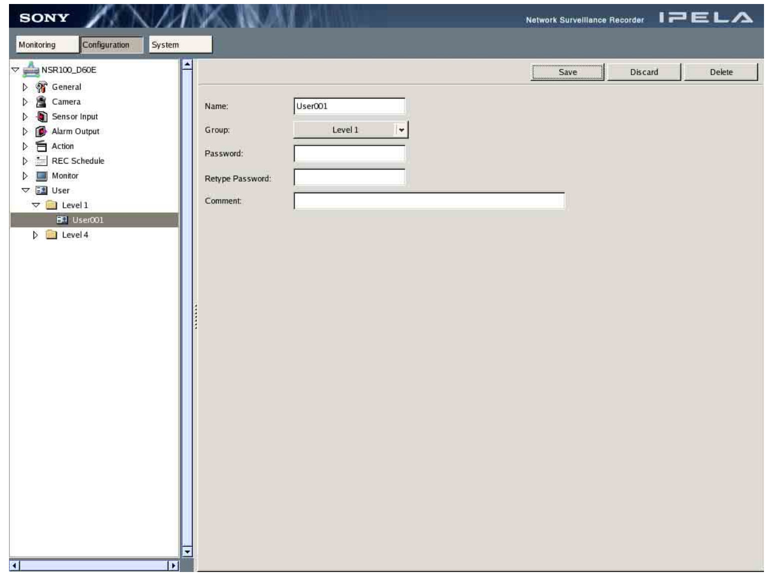
1 画面左側のツリーから［ユーザー］をクリックする。

「ユーザー」画面が表示されます。

2 画面右上の［追加］ボタンをクリックする。



3 各項目を設定する。



名前

ユーザーの名前を入力します。
名前については、ログオン時に大文字、小文字の区別はありません。

パスワード

パスワードを入力します。
後からパスワード変更する場合は、この欄に入力し直してください。

パスワード確認

確認のため、再度パスワードを入力します。

グループ

ユーザーにどの権限を与えるかを選択します。
各権限とレベルの詳細については、「その他」の「ユーザー権限について」（158 ページ）を参照してください。

コメント

このユーザーにコメントを付けます。

メモ

リモコンからは数値しか入力できないため、リモコンで操作するユーザーは、名前とパスワードをすべて数字で作成してください。

4 各項目を設定したら、画面上部の［保存］ボタンをクリックする。

ユーザーが作成されます。
ユーザーを作成しないで元に戻したいときは、［変更中止］ボタンをクリックします。

その他

リモコンの各キーが対応する機能

キー	機能
画面切り替え機能	
(1 × 1)	モニターレイアウトを 1 × 1（1 面）にします。続けてこのキーが押されると、元のレイアウトに戻ります。 ただし、1 × 1 のレイアウトに切り替えた後にアクション、モニターシーケンス、モニターレイアウトの変更によってレイアウトの切り替えが行われた場合にこのキーが押されると、1 × 1 のレイアウトで登録されているカメラを順番に切り替えて表示します。
(2 × 2)	モニターレイアウトを 2 × 2（4 面）にします。続けてこのキーが押されると、2 × 2 のレイアウトで登録されているカメラを順番に切り替えて表示します。
(3 × 3)	モニターレイアウトを 3 × 3（9 面）にします。続けてこのキーが押されると、3 × 3 のレイアウトで登録されているカメラを順番に切り替えて表示します。
(4 × 4)	モニターレイアウトを 4 × 4（16 面）にします。続けてこのキーが押されると、4 × 4 のレイアウトで登録されているカメラを順番に切り替えて表示します。
5×5 (5 × 5) ＊	モニターレイアウトを 5 × 5（25 面）にします。続けてこのキーが押されると、5 × 5 のレイアウトで登録されているカメラを順番に切り替えて表示します。
6×6 (6 × 6) ＊	モニターレイアウトを 6 × 6（36 面）にします。続けてこのキーが押されると、6 × 6 のレイアウトで登録されているカメラを順番に切り替えて表示します。
7×7 (7 × 7) ＊	モニターレイアウトを 7 × 7（49 面）にします。続けてこのキーが押されると、7 × 7 のレイアウトで登録されているカメラを順番に切り替えて表示します。
8×8 (8 × 8) ＊	モニターレイアウトを 8 × 8（64 面）にします。続けてこのキーが押されると、8 × 8 のレイアウトで登録されているカメラを順番に切り替えて表示します。
CUSTOM	モニターレイアウトをカスタム登録したものに変更します。続けてこのキーが押されると、カスタム登録されたレイアウトを順番に切り替えて表示します。
SEQUENCE	現在の画面に定義されているシーケンスをオン／オフします。

＊ SHIFT LOCK が ON の状態で使用します。

キー	機能
カメラ選択制御機能	
CAMERA SELECT	カメラコントロール（パン、チルト、ズーム、フォーカスなど）を行うカメラを選択します。このキーを押した後に、カメラ番号を数字キー（0 ～ 9）で入力し、［ENTER］キーを押してカメラを選択します。
W ZOOM T	現在選択されているカメラのズームの設定値を大きくまたは小さくします。
− FOCUS +	現在選択されているカメラのフォーカスの設定値を大きくまたは小さくします。
− BRIGHT +	現在選択されているカメラの明るさの設定値を大きくまたは小さくします。
AUTO FOCUS	現在選択されているカメラのオートフォーカスをオンにします。
AUTO BRIGHT *	現在選択されているカメラの 明るさをオートにします。
CAMERA PRESET RECALL	現在選択されているカメラのプリセット位置を呼び出します。
CAMERA PRESET DELETE	現在選択されているカメラのプリセット位置を削除します。（現在サポートされておりません）
CAMERA PRESET SET	現在選択されているカメラのカメラ位置（設定）をプリセットします。（現在サポートされておりません）
ALL HOME *	登録されたすべてのカメラをホームポジション（プリセットの設定値）に戻し、画像の記録を開始します。（現在サポートされておりません）
検索再生／記録機能	
QUICK SEARCH	クイックサーチを行います。
SEARCH MENU *	記録画像の検索メニューを表示します。
RECORD LIST	記録画像のリストを表示します。
REC	現在選択されているカメラ画像を記録します。
REC STOP	現在選択されているカメラ画像の記録を停止します。
PLAY SPEED − +	再生／逆再生のスピードを早くまたは遅くします。
◀ / ▶	逆再生または再生します。
II	再生を一時停止します。
⏮ / ⏭	1 つ古いまたは新しい記録画像の先頭へ移動します。
◀II / II▶ *	1 コマ戻しまたは進めます。
その他の機能	
LIVE/PLAYBACK	現在選択されているカメラのモニターウィンドウのモード（ライブ／再生）を切り替えます。
MONITOR/CONFIG *	「モニタリング」画面と「基本設定」画面を切り替えます。（現在サポートされておりません）
LOG OFF	現在操作中のユーザーをログオフします。
LOCK *	キー操作を禁止します。
EXPORT	記録されたカメラ画像を DVD/CD などにコピーします。（「注意事項」の「リモコン操作」（180 ページ）参照）
MIC	マイク（音声）の機能をオン／オフします。（現在サポートされておりません）
MUTING *	スピーカーの音声を消音します。再度押すと解除します。
CUSTOM FULL SCREEN *	画像の部分だけを画面全体に表示します。

＊ SHIFT LOCK が ON の状態で使用します。

キー	機能
− FOCUS + ＊ MIC VOLUME	マイクボリューム（音声出力）の値を大きくまたは小さくします。（現在サポートされておりません）
− BRIGHT + ＊ SPEAKER VOLUME	スピーカーボリューム（音声出力）の値を大きくまたは小さくします。
← / →	設定項目を 1 つ後または先へ移動します。
ENTER	機能の設定を実行します。
CHECK	設定項目の中のボタンやモニターウィンドウの複数選択をします。
CANCEL	入力を取り消します。
0 ～ 9	ログオンやカメラ番号などを入力する数字キーです。
F1	オプションウィンドウを切り替えます。
F2	オプションウィンドウを更新します。
F3	カメラコントロールに切り替えます。
F4 ＊ F5 ＊ F6 ＊	あらかじめ登録された機能を呼び出すときに使います。（現在サポートされておりません）

＊ SHIFT LOCK が ON の状態で使用します。

メモ

各キーの対応は変更になる可能性があります。

ユーザー権限について

ユーザーに設定できる権限は、以下のとおりです。権限には、Level 1 ～ Level 4 までのレベルがあります。

Level 1： モニタリングとオプションウィンドウの参照が行えます。
Level 2： Level 1 の権限に加え、パン、チルト、ズームなどのカメラコントロールと記録画像の検索、再生が行えます。
Level 3： Level 2 の権限に加え、記録の開始、停止、エクスポート、参照以外のオプションペインの操作が行えます。
Level 4： すべての設定・操作が行えます。

画面	動作区分	ボタン名／マウス操作	リモコン操作時の特記	Level 4	Level 3	Level 2	Level 1
モニタリング	モニタリング	画面を見る	―	○	○	○	○
		カメラ選択	CAMERA SELECT				
		レイアウト切り替え、シーケンス、画面をダブルクリック	MONITOR LAYOUT, SEQUENCE				
		画面クリックでフォーカス移動、複数選択	ジョイスティックで移動、CHECK				
		［基本設定］／［システム］ボタン					
		Full Screen	Full Screen				
		音声コントロール	F1、SPEAKER VOLUME、MUTING				
	オプションウィンドウの操作 (参照のみ)	2. 記録中カメラ一覧（ダブルクリック可）	F1	○	○	○	○
		3. 記録画像一覧（ダブルクリック不可）	F1、F2				
		4. アラームログ（ダブルクリック可）	F1、F2				
		5. システムログ（ダブルクリック可）	F1、F2				
		6. アラーム出力状況一覧（ダブルクリック不可）	F1、F2				
		7. センサー入力状況一覧	F1、F2				
		8. VMD（レコーダー）状況一覧	F1、F2				
		9. マニュアルトリガー（ダブルクリック不可）	F1				
	カメラコントロール	カメラコントロール	F1、F3、PTZ、(auto) FOCUS/BRIGHT	○	○	○	×
			CAMERA PRESET（リコール）				
		マイクコントロール（現在サポートされておりません）	MIC VOLUME				
	再生	PLAY、REVERSE、PAUSE、Play Speed Next/Prev Frame、Next/Prev Record	各操作ボタン				
	検索系	クイックサーチ	QUICK SEARCH				
		検索メニュー	SEARCH MENU				
		記録画像一覧（ダブルクリック可）からの再生	F1、F2				
	記録開始（マニュアル）	REC START	REC	○	○	×	×
	記録停止（マニュアル）	REC STOP（マニュアルのみ）	REC STOP				
	記録停止（スケジュール）	REC STOP（スケジュールのみ）	REC STOP				
	エクスポート	エクスポート（静止画）	EXPORT				
		エクスポート（動画）	EXPORT				
	オプションウィンドウの操作（参照以外）	マニュアルトリガー（ダブルクリック可）の ON/OFF	F1				
		アラーム出力（ダブルクリック可）の ON/OFF	F1、F2				
	カメラコントロール (Preset 設定)	モニタ画面でのカメラプリセットの設定・削除	CAMERA PRESET（設定／削除）（現在サポートされておりません）				
	基本設定	［基本設定］ボタン	―				
	システムメニュー	［システム］ボタン	―	○	○	○	○

画面	動作区分	ボタン名／マウス操作	リモコン操作時の特記	Level 4	Level 3	Level 2	Level 1
基本設定	基本設定	一般設定 (一般)	ー	○	○	×	×
		カメラ設定 (カメラ)	ー				
		センサーイン (センサー入力)	ー				
		アラームアウト (アラーム出力)	ー				
		アクション設定 (アクション)	ー				
		スケジュール設定 (記録スケジュール)	ー				
		モニターレイアウト設定（モニター）	ー				
		ユーザー設定（ユーザー）		○	×	×	×
システム	ログイン、ログオフ	ログイン画面、システムニュー	ー	○	○	○	○
	ロック	システムメニュー、ロック画面	ー				
	パスワードの変更	システムメニュー	ー				
	ログファイルのエクスポート	システムメニュー	ー	○	○	○	×
	リブート／シャットダウン	システムメニュー	ー	○	○	×	×
	構成データの保存	システムメニュー	ー				
	セットアップメニュー	システムメニュー	ー				
	構成データの復元	システムメニュー		○	×	×	×

メモ
ユーザー権限については変更になる可能性があります。

システム基本設定項目一覧

大項目	中項目	小項目	説明	初期値	最小設定
Language Display	ー	ー	言語設定	English	ー
Keyboard Layout	ー	ー	キーボード設定	English	ー
Date and Time	ー	ー	日時設定	ー	ー
Network	General	Primary DNS	プライマリ DNS	ー	ー
		Secondary DNS	セカンダリ DNS	ー	ー
		Default Gateway	デフォルトゲートウェイ	ー	ー
		Hosts Setting	/etc/hosts setting	ー	ー
	Network Device 1	IP Address	ポート 1 の IP アドレス (DHCP/Static)	192.168.0.1	○
		Netmask	サブネットマスク	255.255.255.0	○
		Route Setting	ルートテーブルの設定	ー	ー
	Network Device 2	IP Address	ポート 2 の IP アドレス (DHCP/Static)	192.168.1.1	ー
		Netmask	サブネットマスク	255.255.255.0	ー
		Route Setting	ルートテーブルの設定	ー	ー
	Network Device 3	IP Address	ポート 3 の IP アドレス (DHCP/Static)	192.168.2.1	ー
		Netmask	サブネットマスク	255.255.255.0	ー
		Route Setting	ルートテーブルの設定	ー	ー

大項目	中項目	小項目	説明	初期値	最小設定
Monitor	Dual Display		モニターを 2 台使用するとき	Not Checked	–
	Generic Monitor	Display Types	モニタータイプ	LCD 1600 × 1200	○
	Others	Display Types	Generic タイプ以外	–	–
	Resolution	–	出力解像度	1024 × 768	○
Video	–	–	PAL/NTSC	PAL	○
Hostname	Host Name	–	ホスト名	NSRnnn_XXXX	–
	Domain Name	–	ドメイン名	Localdomain	–
NTP	Enable/Disable	–	NTP の使用	Disable	–
	Server1	–	NTP サーバ 1	–	–
	Server2	–	NTP サーバ 2	–	–
	Server3	–	NTP サーバ 3	–	–
SNMP	Agent	Enable/Disable	SNMP エージェント設定	Disable	–
		Community	–	public	–
		Contact	–	contact@localhost.localdomain	–
		Location	–	office	–
	Traps	Enable/Disable	SNMP トラップ設定	Disable	–
		Host IP Address	–	127.0.0.1	–
		Community	–	public	–
		Temperature Events	–	選択	–
		Voltage Events	–	選択	–
		UPS Events	–	選択	–
		Power Events	–	選択	–
		Fan Events	–	選択	–
		RAID Events	–	選択	–
		HDD Events	–	選択	–
UPS	Enable/Disable	–	UPS 設定	Disable	–
	UPS models	–	基本的に APC を使用のこと	–	–
	Power off seconds	–	停電後の時間設定	300	–

メモ

ホスト名、ドメイン名、サーバー名などで使用できる文字は、a ～ z、A ～ Z、0 ～ 9、– （マイナス）、_ （アンダーバー） です。

モニタリングの設定項目一覧

大項目	中項目	小項目	詳細項目／（*）特記事項	初期値
一般	メイン	コメント	−	−
		日時フォーマット	−	年 / 月 / 日　時：分：秒
		NTP サーバーを有効にする	−	非選択
		NTP サーバーと同期する	−	非選択
		RealShot Manager サーバーのユーザー名／パスワード	(*) ユーザー名／パスワードともに使用できる文字は a 〜 z、A 〜 Z、0 〜 9。15 文字まで。	admin/admin
		ポート	80 または 1024-65535	8081
		システムアラートを有効にする	−	非選択
		FTP サーバーを有効にする	−	非選択
		FTP パスワード	(*) 使用できる文字は a 〜 z、A 〜 Z、0 〜 9。15 文字まで。	−
	ネットワーク	なし	−	−
	メール（SMTP）	SMTP サーバー（メールサーバー）	−	−
		宛先（To アドレス）	(*) 225 文字まで。複数アドレスはカンマ (,) 区切り。	−
		送信元　(From アドレス)	−	−
	ストレージ	Default	有効／無効	有効
			削除を実行する	無効
			削除を実行する　残り容量条件	32,767 MB
			削除を実行する　保存日数	30 日
			データ上書き　有効／無効	有効
			最小値	30,720 MB
			システムアラートの通知	無効
			残り容量条件	30,720 MB
		Alarm	有効／無効	有効
			削除を実行する	無効
			削除を実行する　残り容量条件	32,767 MB
			削除を実行する　保存日数	100 日
			データ上書き　有効／無効	有効
			最小値	1,536 MB
			システムアラートの通知	無効
			残り容量条件	0 MB
		Manual	有効／無効	有効
			削除を実行する	無効
			削除を実行する　残り容量条件	32,767 MB
			削除を実行する　保存日数	50 日
			データ上書き　有効／無効	有効
			最小値	12,288 MB
			システムアラートの通知	無効
			残り容量条件	0 MB

大項目	中項目	小項目	詳細項目／（*）特記事項	初期値
一般（つづき）	ストレージ（つづき）	Normal	有効／無効	有効
			削除を実行する	無効
			削除を実行する　残り容量条件	32,767 MB
			削除を実行する　保存日数	30 日
			データ上書き　有効／無効	有効
			最小値	30,720 MB
			システムアラートの通知	無効
			残り容量条件	0 MB
カメラ	メイン	カメラ名	(*) 50 文字まで。英数字、−（マイナス）、_（アンダーバー）のみ。	−
		ユーザー名	−	−
		パスワード	−	−
		アドレス	−	−
		ポート	−	80
		タイムアウト	−	15,000
		プロキシ使用	アドレス	−
			ポート	−
		SNT 設定	カメラモデル選択	−
			チャンネル	−
		画像設定	設置角度	0
			ビデオ・コーデック	−
			フレーム／ sec	−
			画像サイズ	−
			画質	50
			色彩度	50
			システムアラート「VIDEO LOSS」の通知	非選択
			PTZ 動作中は VMD（レコーダー）を停止する	非選択
		音声設定	音声を有効にする	非選択
			音声コーデック	−
			サンプリング周波数	−
		VMF 設定	VMF を使用する	非選択
			標準パッケージ	選択されていない
		ストレージ設定	アラーム記録	Default
			マニュアル記録	Default
			通常記録	Default
	プリセット	プリセット名	(*) 32 文字まで。英数字のみ。ただしカメラに依存する場合あり。	−
	マスク	マスクの種類（単色）	RGB Color	0-0-0
		マスクの種類（ガウスぼかし）	Radius (1-18)	3
		マスクの種類（モザイク（Average））	DeltaX/DeltaY	10/10
		マスクの種類（モザイク（Duplicate））	DeltaX/DeltaY	10/10
		マスクの種類（ランダムノイズ）	Amplitude (1-1024)	256
		マスクの種類（輝度（ガンマ））	Level (10-1000%)	150
		マスクの種類（境界）	RGB Color/Width (1-255)	254-0-0/2

大項目	中項目	小項目	詳細項目／（*）特記事項	初期値
カメラ（つづき）	VMD（レコーダー）	設定名	（*）50 文字まで。英数字、－（マイナス）、_（アンダーバー）のみ。	－
		検知領域	－	Include
		VMD モード	標準	非選択
			高性能	選択
		表示色	RGB	0-254-0
		プリセット名	－	－
		しきい値	－	30
		エキスパートモード	－	非選択
			比較画像枚数	10
			検知判定回数	10
			検知単位（横画素数）	4
			検知単位（縦画素数）	4
			最大検知サイズ（横%）	100
			最大検知サイズ（縦%）	100
			最小検知サイズ（横%）	0
			最小検知サイズ（縦%）	0
			アラーム動体数	1
	VMF	パッケージ名	（*）32 文字まで。英数字、スペースのみ。	－
		パルス	－	非選択
		パルス間隔	－	－
		パッケージタイプ	順序型／独立型	独立型
		フィルター 1 ～ 3	有効／無効	非選択
			フィルター名	非選択
			フィルターを適用している時間 （*）順序型の場合。32 文字まで。英数字、－（マイナス）、スペースのみ。	0 秒
			フィルタータイプ	存在
		対象サイズ	最小サイズ／最大サイズ	－
		対象速度	最小速度／最大速度	0 ピクセル／ 1 秒
		期間	（*）フィルタータイプが［存在］、［不動体／持ち去り］の場合）	－
		対象数	（*）フィルタータイプが［数量］の場合	－
		判定部分	（*）フィルタータイプが［通過］の場合	－
センサー入力	センサー入力 N	名前	（*）50 文字まで。英数字、－（マイナス）、_（アンダーバー）のみ。	－
		信号反転	－	非選択
		有効	－	非選択
アラーム出力	アラーム出力 N	名前	（*）50 文字まで。英数字、－（マイナス）、_（アンダーバー）のみ。	－
		パルス	－	非選択
		パルス間隔	（*）1-60000 ms	500 ms
		信号反転	－	非選択
		有効	－	非選択

大項目	中項目	小項目	詳細項目／（*）特記事項	初期値
アクション	アクション N	名前	（*）127 文字まで。英数字、－（マイナス）、_（アンダーバー）のみ。	－
		コメント	－	－
		イベント	センサー入力（センサー名、アクティブ／インアクティブ）	－
			VMD（レコーダー）（カメラ名）	－
			ハードウェア障害	－
			システムアラート	－
			マニュアルトリガー	選択
		アクション	メール送信（静止画の送信、カメラ名）	－
			ビープ（期間）	－
			ビープ停止 （*）0-2147483 sec	－
			モニターレイアウト変更（レイアウト名、元のレイアウトに戻す、イベント終了時、期間(1-2147483646)）	－
			アラーム出力 On（アラーム出力名）	－
			アラーム出力 Off（アラーム出力名）	－
			プリセット（リコール）（カメラ、プリセット）	－
記録スケジュール	スケジュール（周期）N	名前	（*）50 文字まで。英数字、－（マイナス）、_（アンダーバー）のみ。	－
		カメラ	－	－
		週単位	月曜日	選択
			火曜日	選択
			水曜日	選択
			木曜日	選択
			金曜日	選択
			土曜日	選択
			日曜日	選択
		開始時刻（HH/MM/SS）	－	
		終了時刻（HH/MM/SS）	－	
		期間	－	
		通常記録	－	選択
			フレーム／sec	すべて
			画像サイズ	CIF (360 × 288) Auto
			画質	50%
			カラーレベル	50%
		アラーム記録	－	非選択
			フレーム／sec	すべて
			画像サイズ	CIF (360 × 288) Auto
			画質	50%

大項目	中項目	小項目	詳細項目／（*）特記事項	初期値
記録 スケジュール （つづき）	スケジュール（周期） N（つづき）	アラーム記録 （つづき）	カラーレベル	50%
			プリアラーム　フレーム／sec	すべて
			プリアラーム　期間（秒）	0
			ポストアラーム　期間（秒）	10
			ポストアラーム　sec後 （アラーム開始点／終了点）	アラーム終了点
			センサー入力	非選択
			センサー名	−
			Video Motion Fileter	非選択
			VMFパッケージ名	−
			VMD（レコーダー）	非選択
		VMD（レコーダー）	−	非選択
			VMD（レコーダー）	設定名
	スケジュール （日時指定）N	名前	（*）50文字まで。英数字、−（マイナス）、_（アンダーバー）のみ。	−
		カメラ	−	−
		開始時刻（YY/MM/DD HH/MM/SS）	−	
		終了時刻（YY/MM/DD HH/MM/SS）	−	
		通常記録	−	選択
			フレーム／sec	すべて
			画像サイズ	CIF (360×288) Auto
			画質	50%
			カラーレベル	50%
		アラーム記録	−	非選択
			フレーム／sec	すべて
			画像サイズ	CIF (360×288) Auto
			画質	50%
			カラーレベル	50%
			プリアラーム　フレーム／sec	すべて
			プリアラーム　期間（秒）	0
			ポストアラーム　期間（秒）	10
			ポストアラーム　sec後（アラーム開始点／終了点）	アラーム終了点
			センサー入力	非選択
			センサー名	−
			Video Motion Fileter	非選択
			VMFパッケージ名	−
			VMD（レコーダー）	非選択
		VMD（レコーダー）	−	非選択
			VMD（レコーダー）	設定名

大項目	中項目	小項目	詳細項目／（*）特記事項	初期値
モニター	デフォルトレイアウト	名前	－	－
		有効	有効／無効	選択
		表示	カメラ名	選択
			状態	選択
			時刻	選択
			受信フレーム数	非選択
			バンド幅	非選択
			表示フレーム数	非選択
			VMD（レコーダー）	選択
			対象枠	非選択
			アラーム対象枠	非選択
			フィルター枠	非選択
			非検知エリア	非選択
			対象 ID	非選択
			滞留時間	非選択
			検知カウント	非選択
	モニター２	ホットスポットモニターウィンドウ	－	選択
		テンプレート	1 × 1/2 × 2/3 × 3	－
		表示	カメラ名	選択
			状態	選択
			時刻	選択
			受信フレーム数	非選択
			バンド幅	非選択
			表示フレーム数	非選択
			VMD（レコーダー）	選択
			対象枠	非選択
			アラーム対象枠	非選択
			フィルター枠	非選択
			非検知エリア	非選択
			対象 ID	非選択
			滞留時間	非選択
			検知カウント	非選択
	カスタムレイアウト	名前	(*) 63 文字まで。英数字、－（マイナス）、_（アンダーバー）のみ。	－
		有効	有効／無効	選択
		ホットスポットモニターウィンドウ	－	非選択
		表示	カメラ名	選択
			状態	選択
			時刻	選択
			受信フレーム数	非選択
			バンド幅	非選択
			表示フレーム数	非選択
			VMD（レコーダー）	選択
			対象枠	非選択
			アラーム対象枠	非選択
			フィルター枠	非選択
			非検知エリア	非選択
			対象 ID	非選択
			滞留時間	非選択
			検知カウント	非選択

大項目	中項目	小項目	詳細項目／（*）特記事項	初期値
モニター（つづき）	モニターシーケンス	名前	（*）63 文字まで。英数字、－（マイナス）、_（アンダーバー）のみ。	
		有効／無効	－	無効
		シーケンスの一覧	モニターレイアウト	－
			表示期間	5
		コメント	－	－
ユーザー	Level N	－	（*）Level 1-4	－
		名前	（*）63 文字まで。英数字のみ。	－
		パスワード	（*）15 文字まで。英数字のみ。	－
		コメント	－	－

メモ

設定項目は変更になる可能性があります。

STATUS LED の見かた

本機にエラーが発生すると、前面の STATUS LED と ERROR LED が点灯 / 点滅します。



STATUS LED では、以下のようにエラーの状況を示します。

起動中のエラー

（起動中にエラーが発生すると、ERROR LED が点滅します）

エラーコード	STATUS LED	ERROR LED	考えられる原因
1	1 2 3 **4**	点滅	電圧供給に問題があります。
2	1 2 **3** 4	点滅	CPU ファンの故障です。
3	1 2 **3** **4**	点滅	メモリーモジュールに問題があります。
4	1 **2** 3 4	点滅	CMOS バッテリーに問題があります。
5	1 **2** 3 **4**	点滅	ビデオ RAM またはコントローラーに問題があります。
6	1 **2** **3** 4	点滅	ハードディスクのコントローラーに問題があります。
7	1 **2** **3** **4**	点滅	ブート可能なデバイスが見つかりません。
8	**1** 2 3 4	点滅	ブート可能な OS が見つかりません。
9	**1** 2 3 **4**	点滅	1 つ以上のハードディスクに問題があります。
A	**1** 2 **3** 4	点滅	RAID OS ボリュームに問題があります。
B	**1** 2 **3** **4**	点滅	X11 の起動に失敗しました。
C	**1** **2** 3 4	点滅	アプリケーションの起動に失敗しました。
D	**1** **2** 3 **4**	点滅	未使用
E	**1** **2** **3** 4	点滅	未使用
F	**1** **2** **3** **4**	点滅	RAID データボリュームに問題があります。

作動中のエラー
（作動中にエラーが発生すると、ERROR LED が点灯します）

エラーコード	STATUS LED	ERROR LED	考えられる原因
1	1 2 3 **4**	点灯	温度が上昇しました。
2	1 2 **3** 4	点灯	CPU ファンに問題があります。
3	1 2 **3** **4**	点灯	電源のファンに問題があります。
4	1 **2** 3 4	点灯	電圧供給に問題があります。
5	1 **2** 3 **4**	点灯	HDD ファン 1 に問題があります。
6	1 **2** **3** 4	点灯	HDD ファン 2 に問題があります。
7	1 **2** **3** **4**	点灯	HDD に障害があります。
8	**1** 2 3 4	点灯	未使用
9	**1** 2 3 **4**	点灯	未使用
A	**1** 2 **3** 4	点灯	未使用
B	**1** 2 **3** **4**	点灯	未使用
C	**1** **2** 3 4	点灯	アプリケーションの動作に異常があります。
D	**1** **2** 3 **4**	点灯	未使用
E	**1** **2** **3** 4	点灯	RAID データボリュームに異常があります。
F	**1** **2** **3** **4**	点灯	RAID データボリュームを再同期しています。*

* 再同期中に読み取りエラーが起きた場合は、システムのパフォーマンスが低下することがあります。

I/O ポートについて

I/O ポートのピン配列

センサー入力

Pin NO.	SENSOR IN
1	3.3 v
2	IN_8 −
3	IN_8 +
4	IN_7 −
5	IN_7 +
6	IN_6 −
7	IN_6 +
8	IN_5 −
9	IN_5 +
10	IN_4 −
11	IN_4 +
12	IN_3 −
13	IN_3 +
14	IN_2 −
15	IN_2 +
16	IN_1 −
17	IN_1 +
18	GND

アラーム出力

Pin NO.	ALARM OUT
1	GND
2	OUT_8 −
3	OUT_8 +
4	OUT_7 −
5	OUT_7 +
6	OUT_6 −
7	OUT_6 +
8	OUT_5 −
9	OUT_5 +
10	OUT_4 −
11	OUT_4 +
12	OUT_3 −
13	OUT_3 +
14	OUT_2 −
15	OUT_2 +
16	OUT_1 −
17	OUT_1 +
18	3.3 v

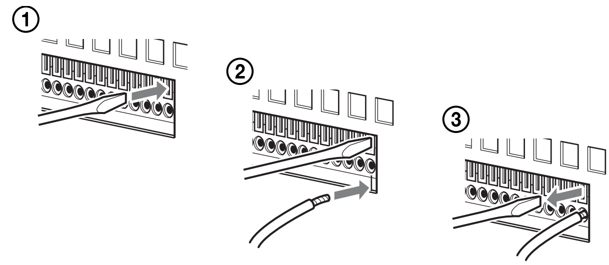
I/O ポートの接続方法

以下のようにして、センサー入力端子とアラーム出力端子にワイヤーを接続します。

ワイヤー（AWG No.28 ～ 18）を接続したい穴の上、または下のスロットにマイナスドライバーを差し込み、ワイヤーを差し込んでから、マイナスドライバーを引き抜く。

ご注意

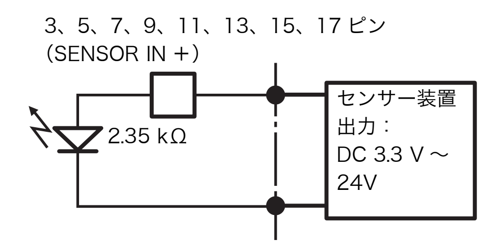
マイナスドライバーは、極端に強く差し込まないでください。故障の原因となります。



同じ手順で、必要なワイヤーをすべて接続します。

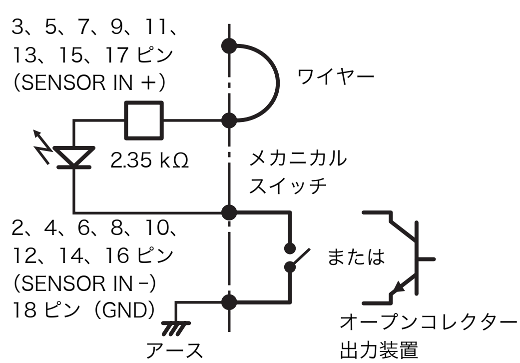
センサー入力への配線図 1

本機内部　　外部



センサー入力への配線図 2

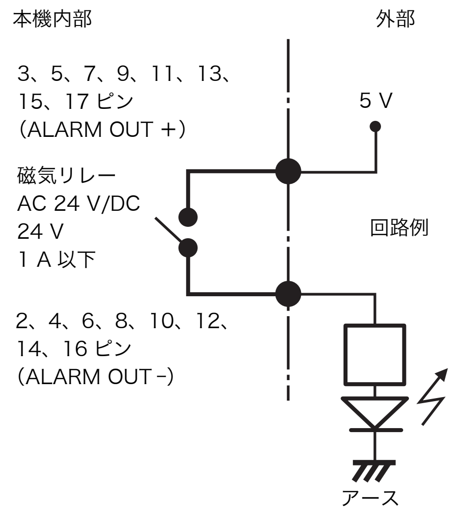
本機内部　　外部



ご注意

配線図 2 を使用した場合は、NSR と電気的に絶縁されなくなりますので、ノイズや過電圧、過電流を発生しない外部回路を構成してください。

アラーム出力への配線図



注意・制限事項

カメラの画サイズについて

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th colspan="2">カメラに設定される画サイズ</th><th rowspan="2">「カメラ-メイン」画面</th><th rowspan="2">「記録スケジュール」画面</th></tr>
<tr><th>NTSC</th><th>PAL</th></tr>
<tr><td rowspan="4">SNC-RX530、SNC-RX550、
SNC-RX570、SNC-RZ50、
SNC-CS50、SNC-DF50、SNC-DF80</td><td colspan="2">160 × 120（Auto）</td><td>160 × 120</td><td>SQCIF（90 × 60）Field
SQCIF（90 × 60）Frame
SQCIF（90 × 60）Auto
QCIF（180 × 144）Field
QCIF（180 × 144）Frame
QCIF（180 × 144）Auto</td></tr>
<tr><td colspan="2">320 × 240（Auto）</td><td>320 × 240</td><td>CIF（360 × 288）Field
CIF（360 × 288）Frame
CIF（360 × 288）Auto</td></tr>
<tr><td colspan="2">640 × 480（Auto）</td><td>640 × 480</td><td>4CIF（640 × 480）Field
4CIF（640 × 480）Frame
4CIF（640 × 480）Auto
Full Size（720 × 576）Field
Full Size（720 × 576）Frame
Full Size（720 × 576）Auto</td></tr>
<tr><td colspan="2">384 × 288</td><td>384 × 288</td><td>CIF（384 × 288）Mode</td></tr>
<tr><td rowspan="13">SNC-P1、SNC-P5、
SNC-DF40、SNC-DF70、
SNC-RZ25、SNC-CS10、SNC-CS11</td><td colspan="2">160 × 120</td><td>160 × 120</td><td>SQCIF（90 × 60）Field
SQCIF（90 × 60）Frame
SQCIF（90 × 60）Auto
QCIF（180 × 144）Field
QCIF（180 × 144）Frame
QCIF（180 × 144）Auto</td></tr>
<tr><td colspan="2">192 × 144</td><td>192 × 144</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">224 × 168</td><td>224 × 168</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">256 × 192</td><td>256 × 192</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">320 × 240</td><td>320 × 240</td><td>CIF（360 × 288）Field
CIF（360 × 288）Frame
CIF（360 × 288）Auto</td></tr>
<tr><td colspan="2">352 × 264</td><td>352 × 264</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">384 × 288</td><td>384 × 288</td><td>CIF（384 × 288）Mode</td></tr>
<tr><td colspan="2">416 × 312</td><td>416 × 312</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">448 × 336</td><td>448 × 336</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">480 × 360</td><td>480 × 360</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">512 × 384</td><td>512 × 384</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">544 × 408</td><td>544 × 408</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">576 × 432</td><td>576 × 432</td><td>–</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">640 × 480</td><td>640 × 480</td><td>4CIF（640 × 480）Field
4CIF（640 × 480）Frame
4CIF（640 × 480）Auto
Full Size（720 × 576）Field
Full Size（720 × 576）Frame
Full Size（720 × 576）Auto</td></tr>
</table>

	カメラに設定される画サイズ		「カメラ-メイン」画面	「記録スケジュール」画面
	NTSC	PAL		
SNC-RZ30、SNC-CS3、SNC-Z20、SNT-V501	160 × 120		160 × 120	SQCIF（90 × 60）Field SQCIF（90 × 60）Frame SQCIF（90 × 60）Auto QCIF（180 × 144）Field QCIF（180 × 144）Frame QCIF（180 × 144）Auto
	320 × 240		320 × 240	CIF（360 × 288）Field CIF（360 × 288）Frame CIF（360 × 288）Auto CIF（384 × 288）Mode
	640 × 480（Auto）		640 × 480（Auto）	4CIF（640 × 480）Auto
	640 × 480（Frame）		640 × 480（Frame）	4CIF（640 × 480）Frame
	640 × 480（Field）		640 × 480（Field）	4CIF（640 × 480）Field
	736 × 544（Auto）		736 × 544（Auto）	Full Size（720 × 576）Auto
	736 × 544（Frame）		736 × 544（Frame）	Full Size（720 × 576）Frame
	736 × 544（Field）		736 × 544（Field）	Full Size（720 × 576）Field
SNC-VL10	90 × 60	90 × 72	90 × 72	SQCIF（90 × 60）Field SQCIF（90 × 60）Frame SQCIF（90 × 60）Auto
	180 × 121	180 × 144	180 × 144	QCIF（180 × 144）Field QCIF（180 × 144）Frame QCIF（180 × 144）Auto
	360 × 243	360 × 288	360 × 288	CIF（360 × 288）Field CIF（360 × 288）Frame CIF（360 × 288）Auto CIF（384 × 288）Mode
	720 × 243	720 × 288	720 × 288	–
	720 × 486	720 × 576	720 × 576	4CIF（640 × 480）Field 4CIF（640 × 480）Frame 4CIF（640 × 480）Auto Full Size（720 × 576）Field Full Size（720 × 576）Frame Full Size（720 × 576）Auto
SNT-V704	320 × 240		320 × 240	SQCIF（90 × 60）Field SQCIF（90 × 60）Frame SQCIF（90 × 60）Auto QCIF（180 × 144）Field QCIF（180 × 144）Frame QCIF（180 × 144）Auto CIF（360 × 288）Field CIF（360 × 288）Frame CIF（360 × 288）Auto CIF（384 × 288）Mode
	640 × 480（Frame）		640 × 480（Frame）	4CIF（640 × 480）Frame 4CIF（640 × 480）Auto
	640 × 480（Field）		640 × 480（Field）	4CIF（640 × 480）Field
	720 × 480（Frame）	720 × 576（Frame）	720 × 480（Frame）	Full Size（720 × 576）Frame Full Size（720 × 576）Auto
	720 × 480（Field）	720 × 576（Field）	720 × 480（Field）	Full Size（720 × 576）Field

	カメラに設定される画サイズ		「カメラ-メイン」画面	「記録スケジュール」画面
	NTSC	PAL		
SNT-V304	176 × 112	176 × 144	Half Size	SQCIF（90 × 60）Auto QCIF（180 × 144）Auto
	176 × 112	176 × 144	Half Size（160 × 120）	SQCIF（90 × 60）Field QCIF（180 × 144）Field
	176 × 112	176 × 144	Half Size（176x144）	SQCIF（90 × 60）Frame QCIF（180 × 144）Frame
	352 × 240	352 × 288	Full Size	CIF（360 × 288）Auto
	352 × 240	352 × 288	Full Size（320 × 240）	CIF（360 × 288）Field
	352 × 240	352 × 288	Full Size（352 × 288）	CIF（360 × 288）Frame CIF（384 × 288）Mode
	704 × 480	704 × 576	Huge Size	4CIF（640 × 480）Auto Full Size（720 × 576）Auto
	704 × 480	704 × 576	Huge Size（640 × 480）	4CIF（640 × 480）Frame 4CIF（640 × 480）Field
	704 × 480	704 × 576	Huge Size（704 × 576）	Full Size（720 × 576）Frame Full Size（720 × 576）Field

カメラのフレームレートについて

「記録スケジュール」画面で選択できるフレーム／ sec はすべてのカメラで共通ですが、カメラによってはサポートしていない値もあります。設定しているカメラでサポートされていないフレームレートを選択した場合は、メッセージが表示されます。
Generic Camera の場合は、「カメラーメイン」、「記録スケジュール」画面では、設定可能なフレームレートが選択肢に表示されます。

ご注意

SNT-V704 の場合、「カメラーメイン」画面の［FPS］では、NTSC または PAL のどちらかで対応されているフレームレートが設定できます。
SNT-V704 の場合に、「カメラーメイン」画面の［FPS］および「記録スケジュール」画面の［フレーム／ sec］で設定可能な値は、以下のとおりです。

	「カメラーメイン」画面	「記録スケジュール」画面	最大フレームレート
NTSC	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 15, MAX	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 15, All	30 fps
PAL	1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 12, MAX	1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 12, All	25 fps

重要事項（必ずお読みください）

ここでは、NSR をお使いいただく上で、操作方法や設定に関する重要事項について説明します。内容については随時変更になる可能性があります。
下記以外にも、使用上の重要な制限事項がある場合があります。ご使用の前に、お買い上げ店にご確認ください。

- 録画時間が極端に短い場合に、Duration が 0 の記録ができる場合があります。ビデオコーデックに MPEG4 を設定したときに、発生する確率が高くなります。これらの記録映像は再生できません。アラーム記録をスケジュールで行っている場合にこの現象を回避するには、アラーム記録の設定で［ポストアラーム］

をアラーム後から 10 秒以上に指定してください(スケジュールの新規追加時は、デフォルトで 10 秒になっていますので、それ以上の時間を設定してください)。
- スケジュールで、合計フレームレートを制限値以上に設定した場合など、システム負荷が非常に高いときに、設定変更画面の動作が極端に遅く、設定の追加や変更ができない場合があります。その場合は、カメラが接続されている LAN ケーブルを外してから設定を行ってください。カメラの設定を変更するときなど、カメラに接続している必要がある場合は、スケジュールの時間を変更するなどして、記録や動体検知が動作しないようにしてから設定を行ってください。また、リモートクライアント（RealShot Manager コントローラー）を接続して、記録スケジュールの変更・削除が可能な場合もあります。
- 本体前面パネルの ERROR LED と、STATUS LED の 1、2 が点灯した場合は、記録ができない状態になっている可能性があります。NSR を再起動しても記録できない場合は、『設置説明書』の「故障かな？と思ったら」を参照してください。それでも復旧できない場合は、付属の NSR Series Recovery CD から起動し、Check File System を実行してください。Check File System が失敗（FAIL）した場合は、お買い上げ店までお問い合わせください。
- RealShot Manager コントローラーを接続する場合は、NSR-100/50 では必ず NSR の Network Device#2 のネットワークを使用してください。
- NSR-50 の場合、本体前面の LED がハードディスクの故障を示したときは、ハードディスクを抜かずにお買い上げ店に連絡してください。電源が入って動作している状態で、ハードディスクを交換しても修復できません。また、修復不可能になる場合があります。
- NSR で長期間モニタリングしていると、設定などによっては画面がリフレッシュされる場合があります。その間、数秒から数十秒は画面が黒くなりますが、記録にはまったく影響ありません。リフレッシュ後はモニタリングの初期状態に戻るため、記録画像の再生状態や一時的に行ったモニターウィンドウへのカメラ選択は保持されません。また、シーケンスを実行していた場合は、シーケンスを再開してください。

注意事項

ここでは、NSR をお使いいただく上で、操作方法や設定に関する注意事項について説明します。内容については随時変更になる可能性があります。
下記以外にも、使用上の注意事項がある場合があります。ご使用の前に、お買い上げ店にご確認ください。

モニタリング画面

- ポップアップウィンドウからマウスフォーカスが外れてしまうと、現在どの項目にフォーカスがあたっているかわからなくなってしまいます。マウスカーソルをポップアップウィンドウに重ねてご確認ください。
- ドロップダウンリストを連続でクリックすると、リストが開かない場合があります。その場合は、いったんマウスフォーカスをボタンから外し、再度クリックしてください。
- レイアウトをシーケンスで表示している場合、カメラコントロールは可能ですが、コントロール中に次のモニターレイアウトに移行してしまい、カメラコントロール動作が不定になることがあります。カメラコントロールは、シーケンス動作を止めてから行ってください。
- 表示するモニターウィンドウの大きさによって、日時や受信フレーム数、表示フレーム数などの付加情報が枠内に収まらず、情報が欠けたり、表示されないことがあります。表示項目を絞るか、モニターウィンドウ数が少ないレイアウトを選択してください。また、カメラ名を短く設定するなどしてください。

- 再生時には、バンド幅、受信フレーム数が一時的に大きな数値で表示されます。表示パフォーマンスについては、表示フレーム数の値をご覧ください。
- 画像を表示するカメラの数が 17 以上のレイアウトでは、受信フレーム数は表示されません。記録フレームは確保されますが、表示フレームには制限がかかっています。受信フレーム数は、16 カメラ以下のレイアウトで確認してください。
- 高負荷状態になった場合には、映像が一瞬停止したようになったり、カメラコントロール（PTZ）などでボタンの反応が鈍くなることがあります。また、リモートクライアントの表示と比べ、NSR 本体での表示が遅れることがあります。
- マスクのタイプを境界（Border）にしたとき、モニターウィンドウの大きさによっては枠が欠けることがありますのでご注意ください。枠が欠ける場合は、マスクの幅（Width）を太くすると、正常に表示されます。

カメラコントロール

- カメラを登録後、Focus/Bright 操作が可能な場合は、カメラコントロールでそれぞれの AUTO ボタンが点灯した状態になります。事前に設定を変更した場合などで、実際の設定が AUTO でないときは、一度それぞれで［−］または［+］を押してから AUTO ボタンを押すと、自動調整されます。
- ダイナミックマスクを設定している場合は、カメラコントロール（PTZ）操作時にマスク追従処理が遅延して、マスク内が見えてしまうことがあります。マスキングの設定を行う際には、余裕を持ったエリアを設定するしてください。
- ダイレクトパンチルト、エリアズームおよびマウスホイールでのズームイン、ズームアウトは、キーボード左側の Ctrl キーのみで行えます。右側の Ctrl キーではできません。

記録・再生・検索

- 記録スケジュールでアラーム記録を設定している場合、アラーム記録中にアラームが発生しても、最初のアラーム記録の動作が完了するまでは、後のアラームは無視されます。
- 高負荷時に複数のカメラに対して同時に記録停止を行った場合、一部の記録停止に失敗することがあります。記録が停止しない場合は、再度停止を実行してください。
- 高負荷状態では、記録画像検索（クイックサーチ／ PLAYBACK ボタン／検索画面）がタイムアウトする可能性があります。その場合、ライブ画像に切り替え、再度記録画像検索を行ってください。それでもタイムアウトする場合は、表示しているモニターウィンドウを減らすなど負荷を軽減した状態にして、再度記録画像検索を行ってください。
- 検索画面では、設定された条件に合う最大 5,000 件の検索結果が表示されます。対象が 5,000 件以上の場合は、検索条件を変更して再度検索してください。なお、検索結果数などは表示されません。
- 記録画像検索（クイックサーチ／ PLAYBACK ボタン／検索画面／エクスポート画面）中は、映像の更新が停止します。検索終了後に更新が開始されます。
- 記録保存先の記録削除設定が有効で、残り容量設定値よりも実際の残り容量が少ない場合は、システムアラートは ON になりません。
- スケジュールのプリアラームの時間の上限は、記録画像のバッファ（約 5 MB）内で可能です。記録画像のサイズとフレーム数からプリアラーム記録可能時間を算出できます。

設定

- NSR 本体および RealShot Manager コントローラーの両者で同時に設定を変更しないでください。

- カメラ一括登録で、一部の設定が間違っているときは、エラーメッセージが表示されます。その後、正しい設定のカメラのみ登録が行われます。登録されないカメラについては、再度リストに表示されますので、もう一度登録を行ってください。
- NSR の動体検知エリアを設定した後、設置角度（Mount Angle）を変更しても動体検知エリアは追随しません。再度動体検知エリアを設定し直してください。
- プリセット名には「"」が使用できません。なお、プリセット名はスペースのみの設定も可能です。ただし、スペースのみを設定した場合は、表示上では設定していないように見えるため、ご利用の際は注意してください。
-「カメラ」－「メイン」の設置角度（Mount Angle）を 90 度や 270 度に変えたときは、検索やエクスポートなどのプレビューで画像の縦横比率が正しく表示されません。なお、再生表示やエクスポートでメディアに出力された記録画像・静止画は、正しい縦横比率になります。
- デフォルトモニターレイアウトで NO CAMERA 状態のモニターウィンドウに映像を表示しているときに、カメラの追加を行い、、モニターウィンドウにカメラを割り当てても、自動的には割り当てられたカメラの映像に切り替わりません。モニターレイアウトの切り替えを行うと、割り当てられたカメラの映像が表示されます。
- アクションのメール送信で静止画送信を選択した場合でも、以下のケースでは静止画が添付されません。
  - 静止画を送信するカメラのコーデックが JPEG でない場合
  - 静止画を送信するカメラにマスクを設定している場合
  - 高負荷状態で静止画取得に失敗した場合
- カメラ一括登録画面で［登録］ボタンを押したときに、処理中であることを示すメッセージが［キャンセル］ボタンとともに表示されます。この［キャンセル］ボタンは、カメラの登録を中断するためのものではありません。このメッセージを表示中に、登録処理で何らかの異常があった場合に、ダイアログを閉じるために使われます。通常は使うことはありません。
- 基本設定画面でユーザーを編集して保存するときは、パスワードの変更がない場合でも再度パスワードを入力してください。なお、正しくパスワードが保存されると、パスワード欄は空欄となります。「パスワードなし」という状態になるわけではありませんので注意してください。
- カメラ一括登録で、カメラの設定時にエラーメッセージが表示されることがあります。ユーザー名やパスワードが設定されていない可能性があるので確認してください。
- SNT-V704 に PAL のカメラを接続している場合、「メイン」画面に、最大解像度が「720 × 480」と表示されますが、これは SNT-V704 の「720 × 576」に相当します。
- PAL のカメラの場合は、検知領域の位置がずれることがあります。必ず検知領域の設定を行ってから、動体検知を使用してください。

オプションウィンドウ

- システムアラートで VIDEO LOSS を検知した場合、システムログにログが記録されます。このログでは、VIDEO LOSS が発生したカメラをカメラ名で確認することはできません。カメラ名を確認するには、アラームログで該当するログを開いてください。

エクスポート

- エクスポートに使用する CD/DVD をフォーマットしたり、ブランクにしたりする機能はありません。ブランクメディアを使用してください。

- エクスポートメディアを使用する場合は、CF と USB メモリを同時にセットしないでください。
- 記録画像のエクスポートまたはログファイルのエクスポートで、エクスポート実施中に「Status」ダイアログの「Abort」ボタンをクリックすると、エクスポートが中断されます。中断を確認する警告メッセージなどは表示されません。また、中断は、そのときエクスポートしているファイルのコピーが完了してから行われます。
- 使用できるエクスポートメディアは、以下のとおりです。
  - CF（CompactFlash）
  - 汎用 USB メモリー
  - CD-R/RW
  - DVD-R
  - DVD+R

ご注意

- エクスポートメディアによっては使用できない場合があります。
- CD/DVD は、書き込みに失敗する場合があります。
  その場合は、メディアをイジェクトしないで再度書き込みを行ってください。または、メディアのほこりなどを取り除いてください。
- 一度書き込みが完了したメディアには、追記しないでください。
  追記に失敗した場合は、以前に書き込んだデータも読み出しできなくなる可能性があります。
- DVD は、DL（Dual Layer）をサポートしていません。
- NSR で複数のファイルを書き込みした DVD/CD は、DVD/CD ドライブまたは OS（オペレーティングシステム）により、一部のファイルしか参照できない場合があります（multi session、multi border のサポートを確認してください）。

システムメニュー

- セットアップメニュー使用時や、シャットダウンまたはリブート中でも、セカンドモニターには表示が継続されます。
- セットアップメニューのネットワーク設定で、ネットワークケーブルを接続していないポートのルート設定をしたときは、「network is unreachable」のエラーが表示されます。ネットワークケーブルを接続してから設定してください。
- セットアップウィザードやセットアップメニューで、NSR のホスト名や各種サーバー名には、英数字、_（アンダーバー）、－（マイナス）以外の文字は使用できません。

リモコン操作

- リモコン操作でもエクスポート機能は動作しますが、リモコンのみの操作は煩雑なため、マウスを併用してください。
- リモコンでカメラのパン／チルト操作中に、リモコンの F1 キーやマウス操作でオプションウィンドウをカメラコントロール以外に切り替えると、カメラのパン／チルト動作が止まらなくなることがあります。オプションウィンドウをカメラコントロールに戻し、再度ジョイスティックで操作すると停止します。
- リモコンの SHIFT キーを押すと、SHIFT LOCK が青色に点灯し、Shift Lock 機能が有効になります。この状態のときは、数字キー、Cancel/Enter/Camera Select キー以外は、各ボタンの下部に記載されている機能が有効になりますのでご注意ください。

- リモコンの操作では、オプションウィンドウなどのリスト表示の各カラムの移動ができません。カラムを選択し、ソートなどを行いたい場合は、マウスを併用してください。
- 高負荷時にリモコン操作が遅れる場合があります。その際、後で一度に動作することがあります。
- 1 × 1 レイアウト以外のレイアウトで、カメラの割り当てがなく「NO CAMERA」と表示されているモニターウィンドウを選択しているときは、リモコンの［1 × 1］ボタンを押してもレイアウトが切り替わりません。この場合は、カメラが割り当てられているモニターウィンドウを選択してから、［1 × 1］ボタンを押して切り替えてください。

リモートクライアント

- RealShot Manager コントローラーから NSR 本体に接続するときは、RealShot Manager コントローラーが起動した後、以下の手順で行ってください。
  1 ［Remote Servers］をクリックする。
  2 ［＋］（追加）をクリックする。
  3「device type（Remote PC Interrogator）」を選択し、名前、IP アドレス、ポートを入力して、登録を行う。
  4 登録が完了したら、［Remote PC］タブをクリックし、NSR 本体の RealShot Manager の接続ユーザー名とパスワードを入力する。
- カメラの設定は、基本的に NSR 本体から行ってください。RealShot Manager コントローラーから設定を行う場合は、名前などで英数字、および _（アンダーバー）、－（マイナス）以外の文字は使用しないでください。英数字、および _（アンダーバー）、－（マイナス）以外で登録することは可能ですが、正しく表示されません。
- RealShot Manager コントローラーから、音声装置の追加・変更・削除はできません。NSR 本体では、カメラとオーディオが必要に応じて同時に同じ名称で登録されます。
- カメラを登録するとき、該当カメラが音声をサポートしている場合は、音声装置も自動的に作成されます。作成時は、記録保存先が「Default」に割り当てられるため、RealShot Manager コントローラーで記録保存先の「Default」を選択した場合、同じ装置名が 2 つ表示されます。
- 音声を有効にして記録を行うと、記録レコードが 2 つ（画像レコードと音声レコード）作成されます。検索画面で画像レコードと音声レコードをフィルターすることにより区別できます。
- RealShot Manager コントローラーから、記録保存先の追加・変更・削除はできません。
- RealShot Manager コントローラーから、動体検知の端子に割り当てるカメラのアサイン追加と削除はできません。
- RealShot Manager コントローラーから、NSR にリモート PC を登録することはできません。
- RealShot Manager コントローラーから、以下のデバイスの登録が制限されています。
  - SNT-V504
  - SNC-VL10
  - BarioNet
  - Annuncicom
  - Instreamer
- RealShot Manager コントローラーから設定できて、NSR では設定できない（設定できない／表示されない）項目があります。

例：
- RealShot Manager コントローラーからクリーンアップのスケジュールを行っても、NSR 上では表示されません。
- RealShot Manager コントローラーから音声出力端子の追加を行っても、NSR 上では表示されません。

・CS50、RX550 などのマルチのコーデックカメラは、MPEG4-JPEG、JPEG-MPEG4 の選択が可能ですが、これらを選んで［Apply］をクリックすると、必ずエラーメッセージが数回表示されます。NSR では、Alarm Buffer 機能を利用しないため、マルチコーデックの設定ができないようになっています。単独のコーデック（JPEG、MPEG4 のみ）を選んだときは、エラーは表示されません。
・RealShot Manager コントローラーでカメラの Object Detection を設定する場合、Object Detection Pin の下にアサインしたカメラを直接クリックして操作すると、違うカメラの画像が表示され、設定操作中に RealShot Manager コントローラーが異常終了することがあります。その場合は、いったん Object Detection Pin の上のカメラをクリックして選択し、その後に該当する Object Detection 設定を行ってください。なお、そのとき表示されている画像のカメラ名が設定を行うカメラであることを確認してください。
・自動パンチルト速度は、デフォルトでオフになっています。RealShot Manager コントローラーから利用する場合には、「設定管理」ウィンドウまたは［装置の設定］ダイアログの［カメラ］タブで、［自動パンチルト速度］にチェックマークを付けることを推奨します。
・SNT-V704 の場合は、ストリームモードをオフにしないでください。RealShot Manager コントローラーから利用する場合は、「設定管理」ウィンドウまたは［装置の設定］ダイアログの［画像］タブにある［ストリームモード］にチェックマークを付けた状態で使用してください。

その他

・UPS の設定では、電源断からシャットダウン処理が始まるまでの時間（初期値：5 分）を設定できます。それ以外には、以下の条件でシャットダウンが行われます。
- バッテリーレベルが 15%を下回ったとき
- バッテリー残存時間が 5 分以下になったとき

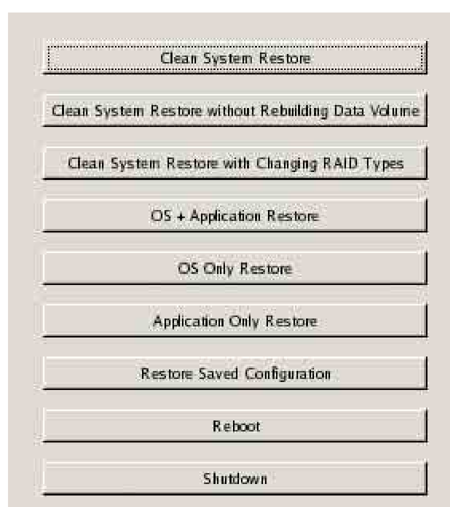
・RAID-1、1+0、5 に設定している場合、ハードディスク 1 台が故障しても交換により復旧が可能ですが、復旧処理中の画像記録は保証されません。
・記録レートが高い場合、NSR のシャットダウンやリブート処理に時間がかかることがあります。カメラと接続しているネットワークケーブルを一時的に外すか、記録を中断してからシャットダウン／リブートを実行してください。
・RAID 設定変更は DOM メニューから実行できますが、変更処理を行った場合は、必ずリブートしてください。リブートせずに再度 RAID 設定変更を行うと、エラーになる場合があります。

故障かな？と思ったら

まず初めに、下記の項目をもう 1 度チェックしてみてください。それでも解決しないときは、お買い上げ店またはソニーの業務用製品ご相談窓口にご相談ください。

本機が起動しない

- 本機の電源スイッチがオンになっているか確認してください。
- 電源コードが正しく接続されているか確認してください。
- お使いのコンセントに他の機器を接続してみるなどして、コンセントが通電しているか確認してください。
- 本機前面の HDD LED で、ハードディスクがアクセス中でない（HDD LED が点滅していない）ことを確認してから、本機背面の電源スイッチを◯の方向へ長押し（10 秒程度）して強制的に電源を切ってください。電源を切った後、再度電源を入れてください。
- 本機では、起動中にファイルシステムをチェックしますが、使用容量に応じてチェックにかかる時間が長くなります。使用状況によっては、2 時間以上かかることもあります。ファイルシステムのチェック中は、本機前面の HDD LED が点滅します。
- 本機が正しく起動できない場合、以下のような画面が表示される場合があります。



この場合、次の手順で確認を行ってください。

1. ［Shutdown］をクリックして、電源を切る。
2. 「ハードディスクにアクセスできない」を参照し、ハードディスクが正しく接続されているか確認する。
3. 電源を入れ直し、正しく起動するか確認する。
4. それでも同じ画面が表示される場合は、付属の NSR Series Recovery CD を CD/DVD ドライブに挿入し､電源を切る。その状態で電源を入れ直す

と、以下のような画面が表示されますので、「2. Check file system」を選択する。

```
****************************************
*  NSR-100 Menu
*
*  1. Hardware diagnostic utility
*  2. Check file system
*  3. Restore DOM image
*  4. Get system log
*  5. Install tool rpm packages
*  6. Reboot the system
*  7. Shutdown the system
*
****************************************

Enter your choice:
```

ファイルシステムのチェックを行うため、この作業は数時間かかる場合があります。

5. チェックが終わったら、「7. Shutdown the system」を選択し、本機の電源を切る。なお、「2. Check file system」、「7. Shutdown the system」以外のメニューはメンテナンス用ですので、使用しないでください。
6. 電源を入れ、すぐに NSR Series Recovery CD を取り出して、正しく起動するか確認する。

モニターに何も表示されない

・本機の電源スイッチがオンになっているか確認してください。
・電源コードが正しく接続されているか確認してください。
・モニターケーブルが正しく接続されているか確認してください。モニターがモニターコネクター 1 に接続されているか確認してください。
・モニターの解像度設定を間違って行った場合は、モニターの解像度が足りていないため、「out of range」と表示される場合があります。Ctrl キーと Alt キー、－（マイナス）キーを同時に何度か押して、出力されている画像の解像度を下げてください。モニターに合った解像度になると、画面が表示されます。その後メニューからシステムを再起動し、正しい解像度を設定し直してください。詳しくは、「システムの設定を変更する」（23 ページ）を参照してください。

外部接続機器が正しく動作しない

・ケーブルが正しく接続されているか、ピンが折れたり曲がっていないかなどを確認してください。

USB 接続した機器が動作しない

・USB 接続している機器の台数を減らしてみてください。
・接続する機器の説明書を参照してください。

DVD/CD が読めない

・ディスクの種類を確認してください。
・DVD/CD が正しく DVD/CD ドライブに挿入されているか確認してください。
・DVD/CD が汚れていないか、傷が付いていないか確認してください。

DVD/CD ドライブのトレイが出てこない

・本機の電源がオンになっているか確認してください。
・先の細いもの（クリップの先をのばしたものなど）を、DVD/CD ドライブのイジェクト穴に入れ、トレイが排出されるまでゆっくりと押し込んでください。

NETWORK LED が点灯しない

- ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認してください。

ハードディスクにアクセスできない

- ハードディスクドライブが正しく取り付けられているか確認してください。
- 本機前面の HDD LED で、どのドライブに異常があるかを確認してください。ハードディスクが故障しているときは、該当するハードディスクの LED が消灯します。
- ハードディスクへのアクセスが頻繁になると、HDD LED が高速で点滅するため、明るい場所では消えているように見えることがあります。

コンパクトフラッシュカードがアクセスしない

- コンパクトフラッシュカードが正しく挿入されているか確認してください。
- コンパクトフラッシュカードのファイルシステムが VFAT にフォーマットされているか確認してください。
- コンパクトフラッシュカードにアクセスした後、10 秒以内に取り出していないか確認してください。10 秒以内に取り出した場合は、まだアクセス中かデータの転送中だった可能性があります。その場合は、本機を再起動させる必要があります。

リモートクライアントから本機にアクセスできない

- 本機が正しく動作しているか（ハードディスク、ネットワーク、ソフトウェアなどに異常がないか）確認してください。
- RealShot Manager のユーザー名、パスワードおよび接続ポートが正しいか確認してください。
- RealShot Manager のユーザーガイドのトラブルシューティングを参照してください。

すぐに温度が上昇する

- 前面、側面、背面の通風孔がふさがれていたり、通風孔にほこりがたまっていないか確認してください。

主な仕様

記憶装置

ハードディスクドライブ（内蔵）
　　4 台（NSR-100）、2 台（NSR-50）
DVD/CD ドライブ（前面）
　　1 台
　　対応メディア：DVD+R、DVD-R、DVD-ROM、CD-R、CD-RW、CD-ROM

外部コネクター

背面
　　モニター出力　アナログ RGB（ミニ D-SUB 15 ピン）（2）
　　S 端子出力（1）
　　ビデオ出力（1）
　　オーディオ出力（L）（1）
　　オーディオ出力（R）（1）
　　LAN コネクター　1000Base-T/100Base-TX/10Base-T（RJ-45）（3）

USB　USB 2.0（2）
SCSI　コネクター（LVD/SE）(1)
RS-232C (1)
マイク入力 （1)
センサー入力（DC 3.3 V ～ 24 V デバイス対応、フォトカップラー入力、本体とは電気的に絶縁）(8)
アラーム出力（最大 DC24 V、1 A）(メカニカルリレー出力、本体とは電気的に絶縁）(8)

前面

コンパクトフラッシュスロット（1)
モニター出力　アナログ RGB（ミニ D-SUB 15 ピン）(1)
ビデオ出力（1)
マイク入力（1)
オーディオ出力（L）(1)
オーディオ出力（R）(1)
USB　USB 2.0（2）

使用環境

動作温度：5 ～ 40 ℃
動作湿度：20 ～ 80%（最大湿球温度：30 ℃）(結露のないこと）

電源・その他

電源	AC 100-127 V / 200-240 V（50/60 Hz）
消費電力	最大 350 W
外形寸法	430（W）× 87（H）× 417（D）mm (突起含まず)
本体重量	NSR-100 約 14 kg NSR-50 約 12 kg

本機の仕様および外観は、改良のため予告なしで変更することがありますが、ご了承ください。

・必ず事前に記録テストを行い、正常に記録されていることを確認してください。本機や記録メディア、外部ストレージなどを使用中、万一これらの不具合により記録されなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。
・お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1
Sony Corporation 1-7-1 Konan, Minato-ku, Tokyo, 108-0075, Japan
http://www.sony.co.jp/